

KAWAI

DIGITAL PIANO

PW9

PW7

取扱説明書

■同梱品

- | | |
|--------------------------------------|--|
| ☐ 本体 | ☐ ヘッドホンフック |
| ☐ スタンド | ☐ スタンド組立図 |
| ☐ 譜面台 | ☐ 保証書 |
| ☐ 椅子 | ☐ ご愛用者カード |
| ☐ 電源コード | ☐ アフターサービスと音楽教室のご案内 |
| ☐ 取扱説明書（本書） | ☐ 楽譜集のご案内 |
| ☐ ゆびの体操ドレミ | ☐ 「コンサートマジック曲集」注文払込用紙 |
| ☐ ゆびの体操ドレミ楽譜集 | |
| ☐ ヘッドホン | |

このたびは、KAWAI デジタルピアノPW9/PW7をお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。

PW9/PW7は、木製鍵盤を搭載しておりグランドピアノのタッチをリアルに再現します。

ピアノ音色はフルコンサートグランドピアノをステレオサンプリングしたもので、ダンパーペダルを踏んだ時の響きも含めて大変リアルな音になっています。PW9ではグランドピアノの響きに近づくトップスピーカーを装備しています。

ピアノ音色以外にもオルガンなどPW9では全41音色、PW7では全32音色を内蔵し様々な音色を楽しむことができます。

また、ピアノ演奏上達のためのレッスン機能を搭載し、お子様でも楽しく練習することができます。

その他、自分の演奏を録音する機能、音に残響効果を与えるリバーブやその他のエフェクト、伝統的ないくつかの調律法による音律セッティングやハンマーフェルトの軟硬をシミュレートするボイスイングなど多彩な機能を装備しています。

さらに、電子楽器統一規格であるMIDI端子やコンピュータ接続端子USBを装備していますので、他のMIDIを装備した電子楽器と接続してアンサンブルや直接コンピュータに接続して楽譜の演奏など、バラエティーに富んだ演奏にも対応できます。

PW9/PW7の性能をフルに発揮していただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

各部の名称と働き

1

演奏してみよう

2

レッスン機能の使い方

3

レコーダーの使い方

4

バーチャルデュオシミュレーションの使い方

5

設定モードの使い方

6

P f u n n の使い方

7

付録

8

■PW9/PW7をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。

目次

◆ 安全上のご注意 2

1. 各部の名称と働き 4

- ◇ パネル図 4
- ◇ ペダルを使って演奏 4
- ◇ ヘッドホン 5

2. 演奏してみよう 6

- 1) 基本操作 6
 - ◇ 音色の選び方 7
- 2) デュアル演奏 9
- 3) スプリット演奏 10
- 4) リバース/エフェクト 12
 - ◇ 音に REVERB (リバーブ) 効果を加える 12
 - ◇ 音に EFFECTS (エフェクト) を加える 13
 - ◇ コーラス/ディレイ/トレモロ/ロータリー効果の
かかり具合を変える 14
- 5) デモ曲の演奏 15
- 6) コンサートマジック 16
 - ◇ コンサートマジック曲選択と演奏 17
 - ◇ コンサートマジック曲の再生 18
 - ◇ その他の再生方法 (チェイン再生/グループ再生/
ランダム再生) 19
 - ◇ コンサートマジック曲目 20
- 7) トランスポーズ 22
- 8) メトロノーム 23
 - ◇ メトロノームの発音とテンポ設定 23
 - ◇ メトロノームの拍子設定 23
 - ◇ メトロノームの音量設定 24

3. レッスン機能の使い方 25

- 1) 練習曲機能を使って 25
 - ◇ 練習したい曲を選ぶ 26
 - ◇ 見本曲を聴く 27
 - ◇ 見本曲の途中から再生する 28
 - ◇ 曲を変更する 28
 - ◇ レッスン機能を終了する 29
 - ◇ 見本曲の片方のパートを再生しながら、もう片方の
パートを練習する 30
 - ◇ 見本曲の途中を繰り返して練習する 31
 - ◇ 見本曲に合わせて録音する 33
 - ◇ 録音したテイクを再生する 35
 - ◇ 録音したテイクを消去する 37
- 2) 指の体操機能を使って 38
 - ◇ 練習タイプの選び方 38
 - ◇ 鍵盤に慣れる練習 39
 - ◆ 曲を選んで聴いてみる 39
 - ◆ 見本曲を変更する 40
 - ◆ 見本曲に合わせて練習する 41
 - ◇ リズムの練習 42
 - ◆ 見本パターンを選んで聴いてみる 42
 - ◆ リズムパターンを変更する 43
 - ◆ 見本パターンに合わせて練習する 44
 - ◇ 指のトレーニング 45
 - ◆ 見本曲を選んで聴いてみる 45
 - ◆ 曲を変更する 47
 - ◆ 見本曲に合わせて練習する 47

4. レコーダーの使い方 49

- 1) 録音 49
 - ◇ 録音するソングとパートの選択 49
- 2) 再生 51
- 3) パートのデータの消去 52

5. バーチャルテクニシヤンの使い方 ... 54

- 1) ボイシング 54
- 2) ダンパーエフェクト 55
- 3) スtring レゾナンス 56
- 4) タッチカーブ 57
 - ◇ ユーザータッチカーブ作成機能の使い方 58
- 5) 音律の設定 59
 - ◇ ユーザー音律の設定方法 60
- 6) 音律の主音の設定 61
- 7) ストレッチチューニング 62
- 8) ピアノアンビエンス (PW9のみ) 63

6. 設定モードの使い方 64

- 1) プリリアンス 64
- 2) ロアーオクターブシフト 65
- 3) ロアーペダルのオン/オフ 65
- 4) レイヤーオクターブシフト 66
- 5) レイヤーダイナミクス 67
- 6) ダンパーホールドのオン/オフ 68
- 7) チューニング 69
 - ◇ MIDIについて 70
- 8) MIDI送信・受信チャンネル 72
- 9) プログラム (音色) ナンバー送信 73
- 10) ローカルコントロール 74
- 11) プログラム (音色) ナンバー送信のオン/オフ 75
 - ◇ 音色ボタンによるプログラムナンバーの送信/
パネル操作の送信 75
- 12) マルチティンバーモード 77
- 13) チャンネルミュート 78
- 14) ユーザーメモリー 78
- 15) ファクトリーリセット 79
- 16) 表示言語 80

7. Pfunの使い方 81

- ◇ Pfun 曲を選ぶ 81
- ◇ Pfun 曲を聴く 82
- ◇ Pfun 曲と合奏する 82
- ◇ 指定したポイントから再生する 83
- ◇ 鍵盤と伴奏の音量バランスを調節する 84
- ◇ テンポを変える 85
- ◇ Pfun を終了する 85

8. 付 録 86

- ◇ 他の機器との接続 86
- ◇ PW9 スタンド組立図 88
- ◇ PW7 スタンド組立図 90
- ◇ 主な仕様 92
- ◇ KAWAI [Model PW9/PW7] MIDIインプリメンテーション
チャート 93

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています。製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。



注 意

感電の危険あり
本体をあけるな



注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。



このマークは、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例



△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。



○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。左図の場合は「分解禁止」が描かれています。



●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。



警告

◆電源は、必ずAC100Vを使う

100V以外禁止



- 電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
- 発火の恐れがあります。

◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

濡れた手で触らない



- 感電の原因になります。

◆水がかかる場所で使用したり、水に濡らす（つける、かける、こぼす）などしない

- 漏電によって、感電や発火の原因になります。

◆本機を落とさない

落とさない



- 運搬の際は、必ず2人以上で運んで下さい。

◆イスは次のように使用しない

- イスで遊んだり、踏み台にしない
- イスには2人以上で座らない
- イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）
- イス組立時、ネジをしっかりと締める

使用しない



- イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。
- 不安定な場所に置かないでください。
- 長時間使用してイスのボルトがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない

長時間使用禁止



- 聴力低下の原因になる恐れがあります。

◆本機を分解、修理、改造しない

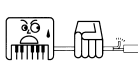
分解禁止



- 故障、感電、ショートの原因になります。

◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を 持って抜く

プラグ部分を持つ



- コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

プラグを抜く



- 落雷時に火災の原因になります。

⚠ 注意

◆本機を次のような所では使用しない

- 窓際など直射日光の当たる場所
- 暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
- 戸外など極端に温度の低い場所
- 極端に湿度の高い場所
- 砂やホコリの多い場所
- 振動の多い場所

使用禁止



- 故障の原因になります。

◆鍵盤蓋は、ゆっくりしめる

ゆっくりしめる



- いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切て行う

電源を切る



- 本機や接続機器の故障の原因になります。

◆本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない



- 水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

◆本機の鍵盤にもたれない

もたれない



- 本体が倒れる恐れがあり、けがの原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

他電気機器から離す



- 本機が雑音を発する恐れがあります。
- 本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆電源コード、接続コード類は本体で踏んだりからまないように接続する

からまないようにする



- コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン/シンナー禁止



- 色落ちや、変形の原因になります。
- 清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

◆本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない



- 変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

◆本機を移動するときは引きずらない

引きずらない



- 移動の際は、必ず持ち上げて運んで下さい。引きずって移動すると、本体を破損する恐れがあります。

●ヘッドホン使用時、または音量下げて演奏の際は、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

●パネル上のディスプレイには、あらかじめ保護用の透明シートが貼り付けてあります。

■保証書について

●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

●保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

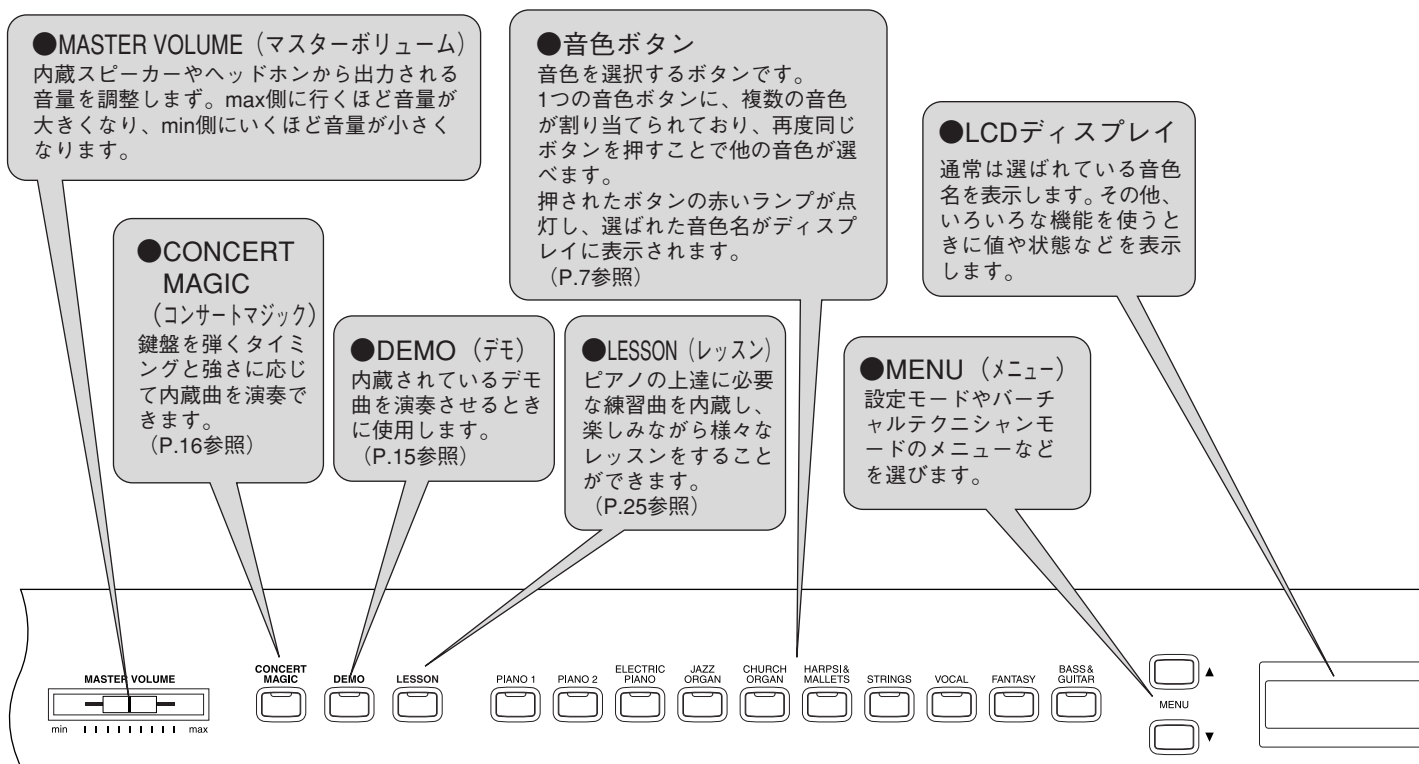
■修理について

●万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡下さい。

1. 各部の名称と働き

スライダーやボタンなどの位置とその機能を説明します。

◇ パネル図



◇ ペダルを使って演奏

◆ ダンパーペダル

このペダルを踏んで演奏すると鍵盤から手を離れた後の音の減衰の仕方が変わります。

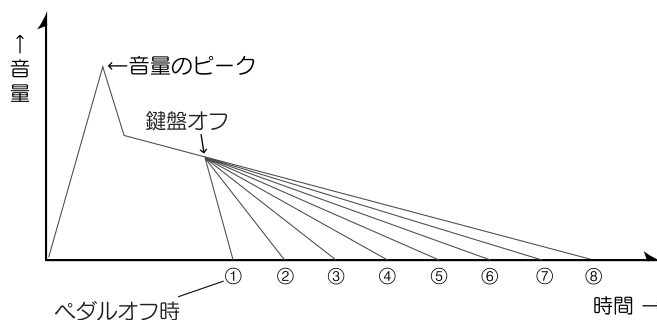
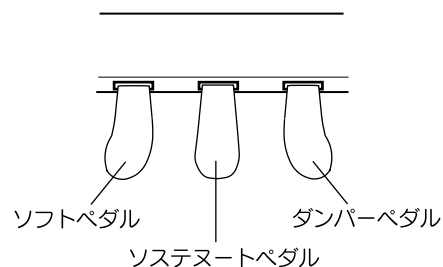
踏み具合により下図の8段階の減衰の調節ができます。

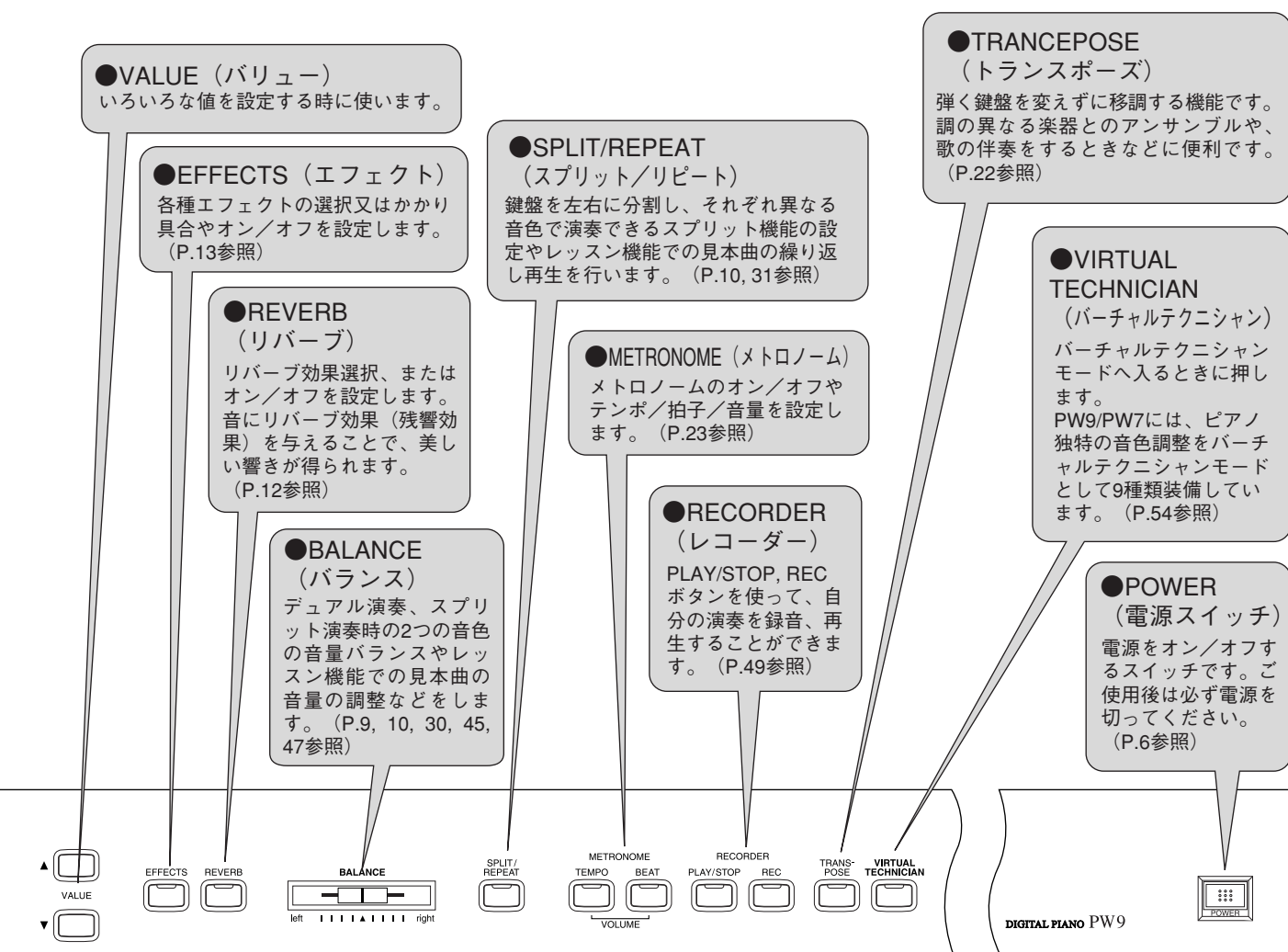
右図は、鍵盤を押した後の時間と音量の関係を表わしたグラフです。

ダンパーペダルの踏み方により、離鍵時の減衰が、8通りになります。

深く踏むごとに、① → ② → …… → ⑧のような減衰の仕方をしていきます。

最も深く踏んだときに、最も音が伸びます。





PW7も同じボタン配置になっています。

◇ ヘッドホン

◆ ソステヌートペダル

鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むと、そのとき押えていた鍵盤の音のみに余韻を与えます。従って、このペダルを踏んだ後に押した別の鍵盤の音は、通常通り発音します。

◆ ソフトペダル

音量がわずかに下がると同時に音の響きがやわらかくなります。EFFECTS ボタンを押してロータリーが選ばれている時は、踏むたびにスピード (Slow/Fast) を切り替えます。



◆ ヘッドホン端子 (2個)

ヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホンは2つまで接続できます。

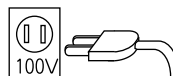
2. 演奏してみましょ

1) 基本操作

ここでは、電源を入れて音を出すまでの基本的な手順を説明します。

□操作 1

電源コードを エーシー100ボルト AC100V のコンセントに差し込みます。



□操作 2

パワー POWER (電源スイッチ) ボタンを押して電源をオンにします。



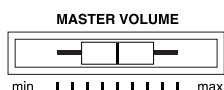
POWER ボタンを押すと音色ボタンの PIANO 1 が点灯し、LCD ディスプレイに「コンサートグランド 1」と表示されます。

コンサートグランド 1

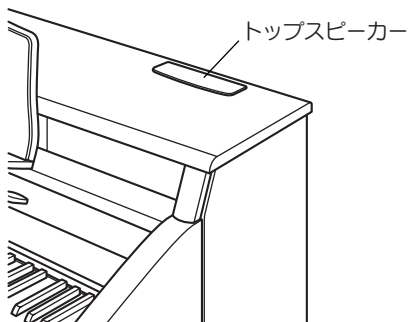
REVERB ボタンも点灯します。

□操作 3

マスター ボリューム MASTER VOLUME スライダーを中央付近にセットします。



△ 注意 ・PW9には音の拡がり感、奥行き感を出すために天板の左右にトップスピーカーを装備しています。この上に水、コーヒーなどの液体をこぼすと故障の原因になりますので十分ご注意ください。



◇ 音色の選び方

パネルには、10個の音色ボタンがあります。

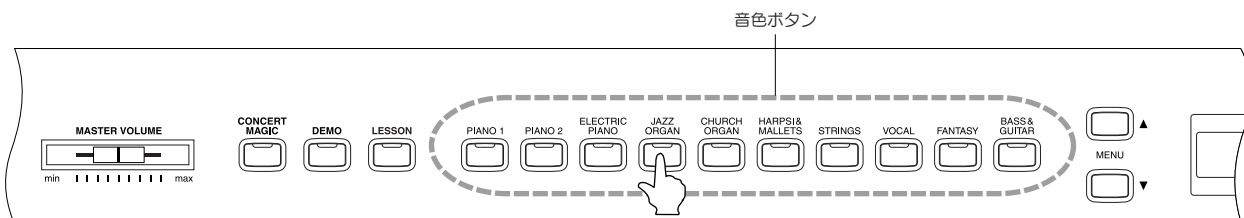
PW9は、各音色ボタンに4つの音色（Bass & Guitarは5音色）が割り当てられており、合計41音色を内蔵しています。

PW7は、各音色ボタンに3つの音色（Bass & Guitarは5音色）が割り当てられており、合計32音色を内蔵しています。

音色ボタン	PW9	PW7
PIANO1 (ピアノ1)	コンサートグランド1	コンサートグランド1
	スタジオグランド1	メローグランド1
	メローグランド1	ブライトピアノ
	ブライトピアノ	
PIANO2 (ピアノ2)	コンサートグランド2	コンサートグランド2
	スタジオグランド2	メローグランド2
	メローグランド2	ロックピアノ
	ロックピアノ	
ELECTRIC PIANO (エレクトリックピアノ)	エレクトリックピアノ1	エレクトリックピアノ1
	エレクトリックピアノ2	エレクトリックピアノ2
	エレクトリックピアノ3	エレクトリックピアノ3
	60'sエレクトリックピアノ	
JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)	ジャズオルガン1	ジャズオルガン1
	ジャズオルガン2	ジャズオルガン2
	ジャズオルガン3	ジャズオルガン3
	ジャズオルガン4	
CHURCH ORGAN (チャーチオルガン)	チャーチオルガン1	チャーチオルガン1
	チャーチオルガン2	チャーチオルガン2
	チャーチオルガン3	チャーチオルガン3
	チャーチオルガン4	
HARPSI & MALLETS (ハープシ&マレッツ)	ハープシコード	ハープシコード
	オクターブハープシコード	オクターブハープシコード
	ビブラフォン	ビブラフォン
	マリンバ	
STRINGS (ストリングス)	ストリングアンサンブル	ストリングアンサンブル
	スローストリングス	スローストリングス
	シンセストリングス	シンセストリングス
	スモールストリングス	
VOCAL (ボーカル)	クワイア	クワイア
	ジャズボーカル	ジャズボーカル
	スロークワイア	スロークワイア
	ブレスクワイア	
FANTASY (ファンタジー)	ファンタジー1	ファンタジー1
	ファンタジー2	ファンタジー2
	ファンタジッククワイア	ファンタジッククワイア
	ファンタジー3	
BASS & GUITAR (ベース&ギター)	ウッドベース	ウッドベース
	ベース&シンバル	ベース&シンバル
	エレクトリックベース	エレクトリックベース
	バラードギター	バラードギター
	ピックナイロンギター	ピックナイロンギター

□操作 1

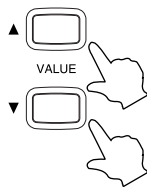
音色を選びましょう。



押された音色ボタンのランプが点灯し、選択されます。

1つの音色ボタンに複数の音色が割り当てられており、選択されているボタンを再度押すと同じ音色ボタンに割り当てられている他の音色が選択されます。

■VALUE ボタンで音色を切り替えることもできます。

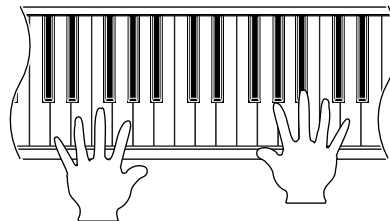
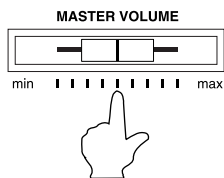


□操作 2

鍵盤を弾いてみましょう。

選んだ音色が鳴ります。

MASTER VOLUME スライダー で好みの音量に設定できます。



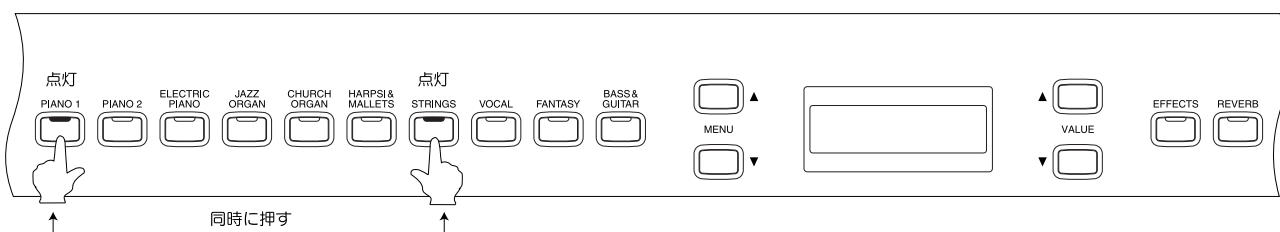
■複数の鍵盤を同時に押した時の発音数（同時発音数）は、最大 96 音です。（音色によって異なります）

2) デュアル演奏

デュアルとは2つの音色を重ね合わせる機能です。
2つの音色が同時に発音され音楽表現の幅が広がります。

□操作 1

2つの音色ボタンを同時に押します。



重ね合わせる2つの音色ボタンを同時に押すと2つの音色ランプが点灯しディスプレイに2つの音色名が表示されます。(先に押した音色がディスプレイの1行目に表示されます。)

例えば、PIANO1 と STRINGS の音を重ね合わせる場合、図の様に PIANO1 ボタンと STRINGS ボタンを同時に押します。

コンサートグランド*1
ストリングアンサンブル

上のデュアル演奏の状態から、ストリングアンサンブルをスローストリングスに変更する場合は、PIANO1 ボタンを押しながら STRINGS ボタンを再度押します。

同じボタンの中の2音色を重ね合せて発音させることもできます。

例えば、PIANO1 ボタンに割り当てられている「コンサートグランド*1」と「ローグランド*1」の音色を重ね合せる場合は、PIANO1 ボタンで「コンサートグランド*1」を選択した後、そのまま PIANO1 ボタンを押しながら VALUE ボタンで「ローグランド*1」を選びます。

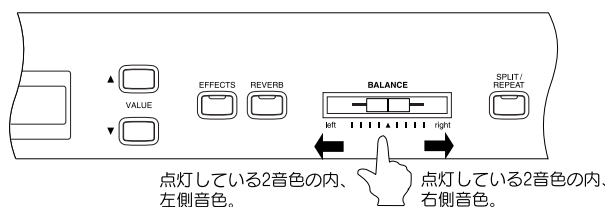
□操作 2

鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば選択した2つの音色が重なって鳴ります。

□操作 3

^{バランス}
BALANCE スライダーを動かして、
2つの音色の音量バランスを設定します。



□操作 4

デュアル演奏の解除は、音色ボタンのいずれかを1つ押します。

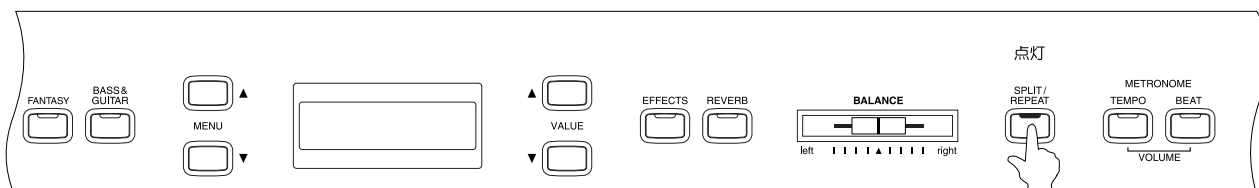
押した音色が選択されると同時にデュアル演奏の設定が解除されます。

3) スプリット演奏

スプリットポイントを境に鍵盤を左右2つに分け、鍵盤の高音側、低音側それぞれに別々の音色を設定しアンサンブル演奏をすることができます。

□操作 1

スプリット/リピート
SPLIT/REPEAT ボタンを押します。



SPLIT/REPEAT ボタンのランプが点灯します。

音色ボタンの中で点灯しているボタンと点滅しているボタンがあります。

点灯している音色ボタンは、SPLIT/REPEAT ボタンを押す前に選ばれている音色で、高音側の音色です。

点滅している音色ボタンは、低音側の音色で初期設定されているベース音色です。

ディスプレイには選ばれている2音色が表示されます。

コンサートグラント 1
/ ウッドベース

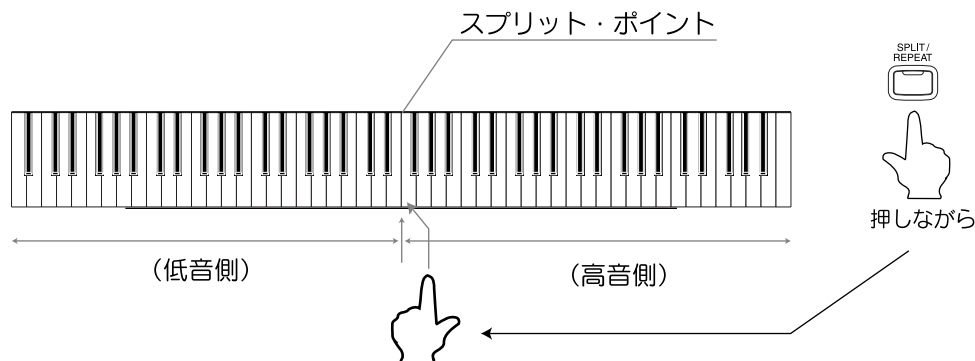
ディスプレイ左下には、スプリット状態であることを示す（／）マークが表示されます。

スプリットポイントは、中央のC（ド）に設定されています。

□操作 2

スプリットポイントを変更したい場合は、スプリット/リピート
SPLIT/REPEAT ボタンを押しながら鍵盤を押します。

押した鍵盤が、高音側の最低音になります。



□操作 3

鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば、スプリットポイントを境に別々の音色で鳴ります。

右手でコードとメロディー、左手でベースラインを弾いて

アンサンブル演奏を楽しむことができます。

□操作 4

高音側の音色は、音色ボタンを押して変更します。

押した音色ボタンのランプが点灯します。

同じ音色ボタンをつづけて2回以上押すと、その音色グループ内での音色変更ができます。

□操作 5

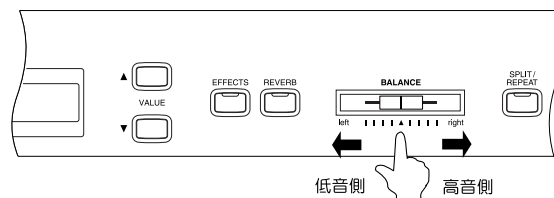
低音側の音色は、^{スプリット/リピート}SPLIT/REPEAT ボタンを押しながら音色ボタンを押して変更します。

押した音色ボタンのランプが点滅します。

同じ音色ボタンをつづけて2回以上押すと、その音色グループ内での音色変更ができます。

□操作 6

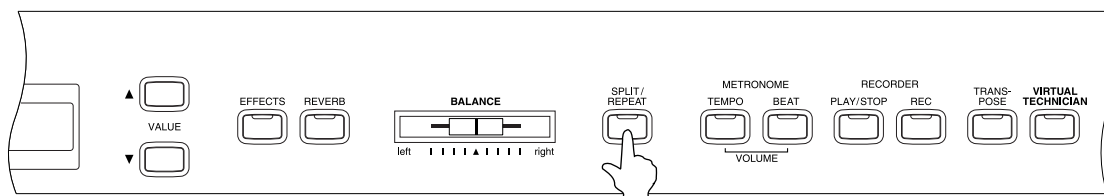
^{バランス}BALANCE スライダーを動かして、
高音側と低音側の音量バランスを設定します。



□操作 7

^{スプリット/リピート}スプリット演奏を解除する時は、再度 SPLIT/REPEAT ボタンを押します。

SPLIT/REPEAT ボタンのランプが消灯します。



■低音側鍵盤の音に、オクターブシフトを設定することができます。(P.65 参照)

■低音側鍵盤の音に、ダンパーペダルのオン/オフの設定ができます。(P.65 参照)

4) リバーブ/エフェクト

5種類のリバーブと5種類のエフェクトを装備しています。

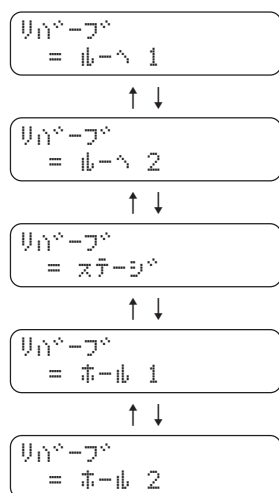
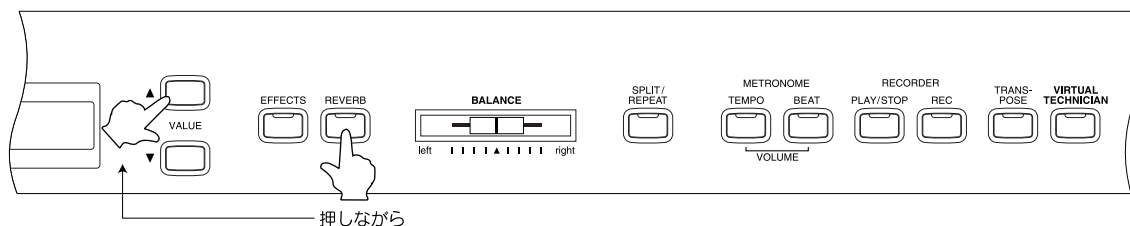
◇ 音に REVERB（リバーブ）を加える

リバーブを加えると、音に残響効果が加わり深みのある美しい響きが得られます。
以下の5種類のリバーブを用意しています。

- ルーム 1、2 : 室内で演奏している時にかかる残響効果が得られます。
ルーム 2 の方が長い残響時間が得られます。
- ステージ : ステージで演奏している時にかかる残響効果が得られます。
- ホール 1、2 : ホールで演奏している時にかかる残響効果が得られます。
ホール 2 の方が長い残響時間が得られます。

□ 操作 1

REVERB ボタンを押しながら ^{バリュー} VALUE ボタンを押すたびにリバーブの種類がディスプレイに表示されます。
選択するリバーブの種類をディスプレイに表示させ、^{リバーブ} REVERB ボタンから手を離します。



REVERB ボタンを押している間、ディスプレイに今選ばれているリバーブの種類が表示されます。

REVERB ボタンを押して消灯させると、音色のリバーブ効果は解除されます。
再度 REVERB ボタンを押して点灯させると、前回選択していた種類のリバーブ効果が加えられます。

REVERB ボタンを離すとディスプレイの画面は音色表示になります。

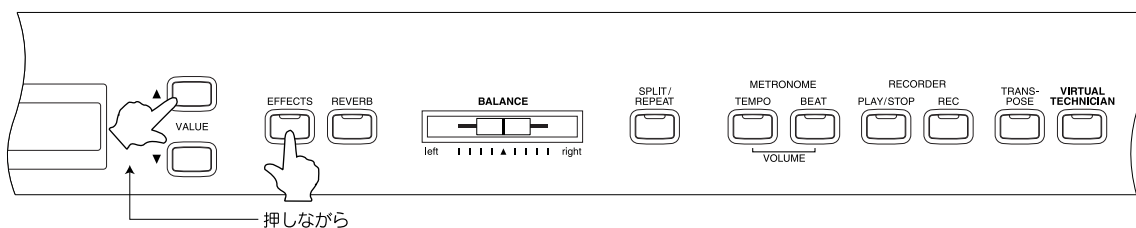
◇ 音に EFFECTS（エフェクト）を加える

PW9/PW7 は次のエフェクトを装備しています。

- コーラス : 音にピッチのゆらぎをもつ音を合わせることで、音に広がりを加えます。
- ディレイ : 音に山びこのような反響音を加える効果です。
PW9/PW7 では3種類のディレイ効果を用意しています。
- トレモロ : 音に "ゆらぎ" を与える効果です。
- ロータリー 1 : ロータリー（回転式）スピーカーを使って得られる効果です。
ソフトペダル（P.5 参照）を押すことによって回転の速さを切り換えることができます。
- ロータリー 2 : 上記のロータリー効果に歪み効果を加えます。

□ 操作 1

EFFECTS ボタンを押しながら VALUE ボタンを押すたびにエフェクトの種類が画面に表示されます。選択するエフェクトの種類を画面に表示させ EFFECTS ボタンから手を離します。



EFFECTS ボタンを押している間、ディスプレイに今選ばれている効果の種類が表示されます。

EFFECTS ボタンを押して消灯させると、音色の効果は解除されます。再度 EFFECTS ボタンを押して点灯させると、前回選択していた種類の効果が加えられます。

エフェクトタイプ4
= コーラス

↑ ↓

エフェクトタイプ4
= ディレイ 1

↑ ↓

エフェクトタイプ4
= ディレイ 2

↑ ↓

エフェクトタイプ4
= ディレイ 3

↑ ↓

エフェクトタイプ4
= トレモロ

↑ ↓

エフェクトタイプ4
= ロータリー 1

↑ ↓

エフェクトタイプ4
= ロータリー 2

◇ コーラス/ディレイ/トレモロ/ロータリー効果のかかり具合を変える

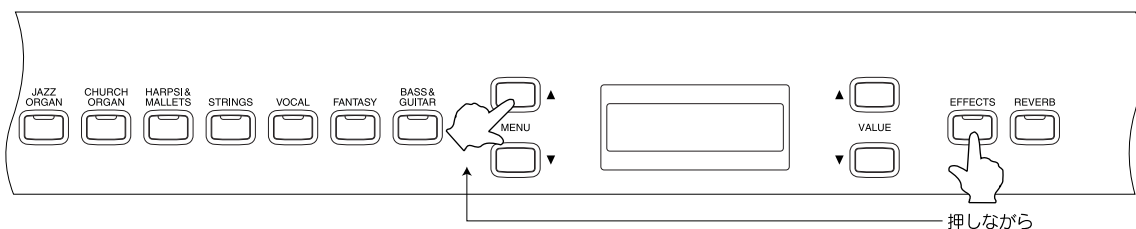
- コーラス : ゆらぎの速さ、かかりの深さを変えることができます。
- ディレイ : 3種類のディレイそれぞれについて、反響音の間隔と強さを変えることができます。
- トレモロ : ゆらぎの速さと大きさをえることができます。
- ロータリー : 2種類のロータリーそれぞれについて、速い方のスピード、遅い方から速い方(あるいはその逆)に変化するスピードを変えることができます。

□操作 1

^{エフェクト} EFFECTS ボタン を押しながら ^{バリュー} VALUE ボタンを押してかかり具合を変更したいエフェクトを選びます。

□操作 2

^{エフェクト} EFFECTS ボタン から指を離さずに ^{メニュー} MENU ボタンを押して変更したい項目を選びます。

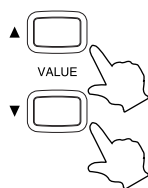


エフェクトタイプ	変 更 で き る 項 目
コーラス	デプス (深さ)、レイト (速さ)
ディレイ 1,2,3	タイム (間隔)、デプス (強さ)
トレモロ	デプス (大きさ)、レイト (速さ)
ロータリー 1,2	ファーストスピード (速い方のスピード) アクセルスピード (遅い方から速い方、速い方から遅い方に変化する際のスピード)

ディレイ 1 デプス
= 5

□操作 3

^{エフェクト} EFFECTS ボタン から指を離さずに ^{バリュー} VALUE ボタンを押して変更したい度合いを選びます。



ディレイ 1 デプス
= 6

数字を大きくすると、

- デプス : かかり具合が深くなったり大きくなります。
- レイト : 速さが速くなります。
- タイム : 間隔が長くなります。
- スピード : 速さが速くなります。

□操作 4

^{エフェクト} EFFECTS ボタン から指を離します。

5) デモ曲の演奏

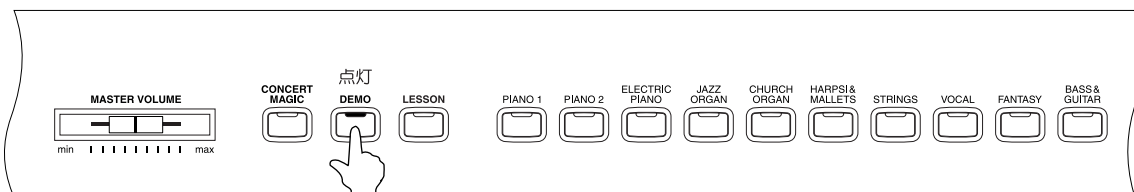
各音色ボタン毎に下表のデモ曲を内蔵しています。PW9 は計 38 曲、PW7 は計 37 曲です。
それぞれの音色にあったデモ演奏をお楽しみください。

PIANO1 :		CHURCH ORGAN	
コンサートグランド ¹	: 英雄ポロネーズ/ショパン	チャーチオルガン ¹	: トッカータ/ジグー
	: イタリア協奏曲/バッハ	チャーチオルガン ²	: 主よ人の望みの喜びよ/バッハ
	: トルコ行進曲/モーツァルト	チャーチオルガン ³	: カワイオリジナル
	: ピアノソナタ K.545(第1楽章)/モーツァルト	HARPSI & MALLETS	
	: ピアノソナタ14番月光(第1楽章)/ベートーベン	ハープ&マレット ¹	: フランス組曲第6番/バッハ
	: ノクターン作品9-2/ショパン	オルターハープ&マレット	: プレリュード in A♭/バッハ
	: 別れの曲/ショパン	ピアノマレット	: カワイオリジナル
	: 子犬のワルツ/ショパン	STRINGS	
	: ラ・カンパネラ/リスト	ストリングアンサンブル	: 四季"春"/ヴィヴァルディ
	: ハンガリー舞曲第1番/ブラームス	スローストリングス	: カワイオリジナル
スタジオグランド ¹	: カワイオリジナル (PW9のみ)	シンセストリングス	: カワイオリジナル
ピアノグランド ¹	: 亜麻色の髪の乙女/ドビュッシー	VOCAL	
ブライトピアノ	: カワイオリジナル	ヴォーカル	: カワイオリジナル
		ジャズヴォーカル	: カワイオリジナル
PIANO2		FANTASY	
コンサートグランド ²	: カワイオリジナル	ファンタジー ¹	: カワイオリジナル
ロケットピアノ	: カワイオリジナル	ファンタジー ²	: カワイオリジナル
ELECTRIC PIANO		BASS&GUITAR	
エレクトリックピアノ ¹	: カワイオリジナル	ウットベース	: カワイオリジナル
エレクトリックピアノ ²	: カワイオリジナル	ベース&シンバル	: カワイオリジナル
JAZZ ORGAN		エレクトリックベース	: カワイオリジナル
ジャズオルガン ¹	: カワイオリジナル	パワートギター	: カワイオリジナル
ジャズオルガン ²	: カワイオリジナル	ピッキングベースギター	: カワイオリジナル
ジャズオルガン ³	: カワイオリジナル		

※一部の曲は原曲の構成とは異なります。

□ 操作 1

デモ
DEMO ボタンを押します。



DEMO ボタンのランプが点灯し、音色ボタンが点滅します。そのまま何も操作しなければ、ピアノ 1 のデモ曲が演奏されます。

ピアノ 1 のデモ曲の演奏後、各音色のデモ曲が順不同に演奏されます。

ディスプレイには、音色名と曲名（コンサートグランド 1 のみ）が表示されます。

コンサートグランド¹
エイウ ポロネーズ

□ 操作 2

操作 1 でデモ曲演奏中に、音色ボタンを押して曲を変更することができます。

押された音色ボタンのデモ曲を再生した後、各音色のデモ曲が順不同に演奏されます。

1 つの音色ボタンに複数のデモ曲が内蔵されている場合、そのボタンを繰り返し押すことにより、次の曲を選ぶことができます。

□ 操作 3

デモ
再度 DEMO ボタンを押せば、デモ曲の演奏は停止します。

■レコーダーの PLAY/STOP ボタンを押しても停止します。

6) コンサートマジック

コンサートマジックとは、指一本で本格的なピアノ演奏を可能にする画期的な機能です。

PW9/PW7にはコンサートマジック曲を88曲内蔵しており、次の3つのモードで演奏を楽しむことができます。

■マジカルタクト モード

一定の間隔で鍵盤を弾くことで演奏を進めることができます。弾く鍵盤はどの鍵盤でもかまいません。

鍵盤を弾くタイミングや強さでテンポや強弱の表現を変えることができます。

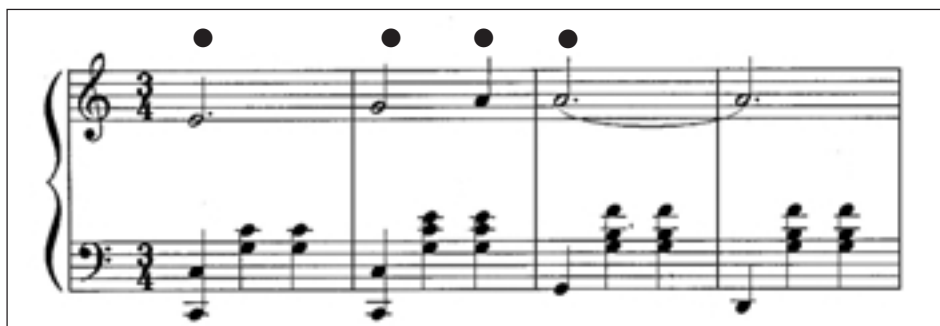
鍵盤を弾くタイミング（曲：スケーターズ・ワルツ）



■マジカルメロディー モード

メロディーのタイミングに合わせて鍵盤を弾くことによって伴奏がついてきます。弾く鍵盤はどの鍵盤でもかまいません。

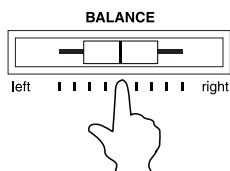
鍵盤を弾くタイミングや強さでテンポや強弱の表現を変えることができます。



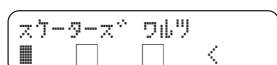
■マジカルメロディー＆キー モード

メロディーのタイミングに合わせて鍵盤を弾くことによって伴奏がついてきます。弾いた鍵盤の音が出ますので正しい音を弾きましょう。

BALANCE スライダーを左に動かして自動演奏のメロディパートを消すことができます。



※ LCD ディスプレイの表示例



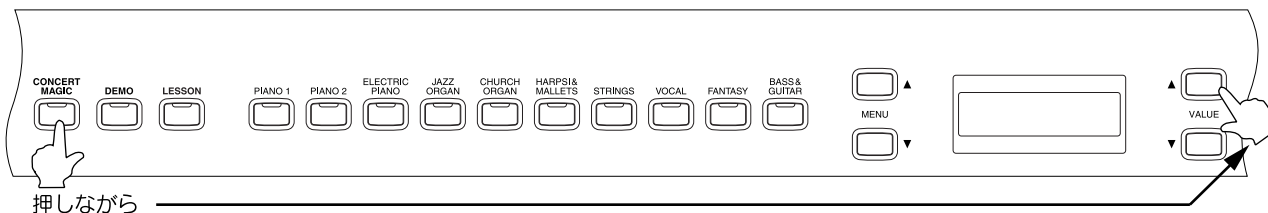
●は鍵盤を弾くタイミング

□は自動伴奏のタイミングです。

マジカルタクトモード中は、□は表示されません。

□ モードの入力方

コンサート マジック バリュ
CONCERT MAGIC ボタンを押しながら VALUE ボタンを押すたびにモード名が画面に表示されます。
選択するモード名を画面に表示させ CONCERT MAGIC ボタンから手を離します。

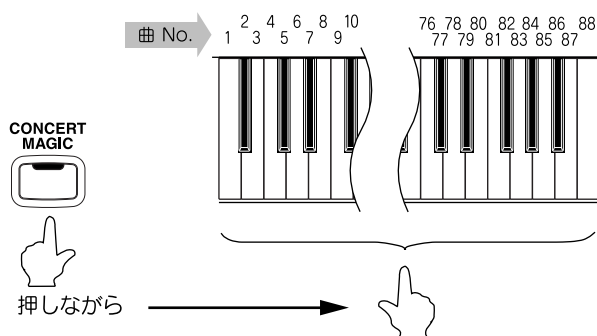


◇ コンサートマジック曲選択と演奏

ここでは、内蔵のコンサートマジック曲を選択します。

□ 操作 1

コンサート マジック
CONCERT MAGIC ボタンを押しながら鍵盤を押します。



88曲のコンサートマジック曲は、各鍵盤に
1曲ずつ割り当てられており、この鍵盤で
曲を選択します。
(曲目は、20, 21 ページを参照ください。)

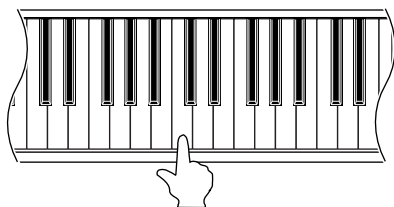
例えば、No.57 の鍵盤で「スカーズ ワルツ」を選択した場合
ディスプレイには右のように表示されます。

No.57
スカーズ ワルツ

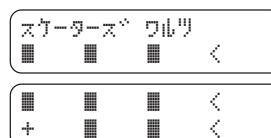
- 現在入っているモードを確認する場合、コンサートマジックボタンを押し続けると画面にモード名が表示されます。
- VALUE ボタンを押して曲目を変更することもできます。

□ 操作 2

ひとつの鍵盤を弾きます。

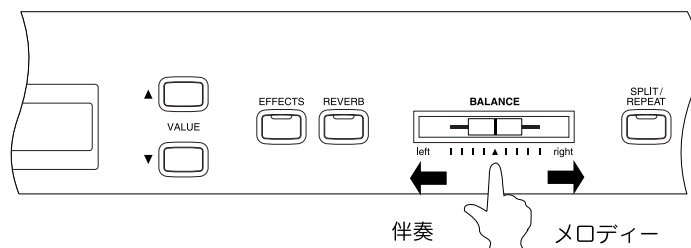


鍵盤を弾くタイミングで演奏が進んでいきます。
鍵盤を弾くタッチによって強弱をつけることもできます。
演奏を進めていくに伴って、ディスプレイの黒丸(●)がプラス
(+) 表示へと変わっていきますので、鍵盤を押すタイミングをつ
かんでください。



通常の音色変更の場合と同様の操作で、音色を変更することができます。

コンサートマジックの曲は、メロディーと伴奏の2パートからでき
ており、BALANCE スライダーで
2パートの音量バランスを調整す
ることができます。



□ 操作 3

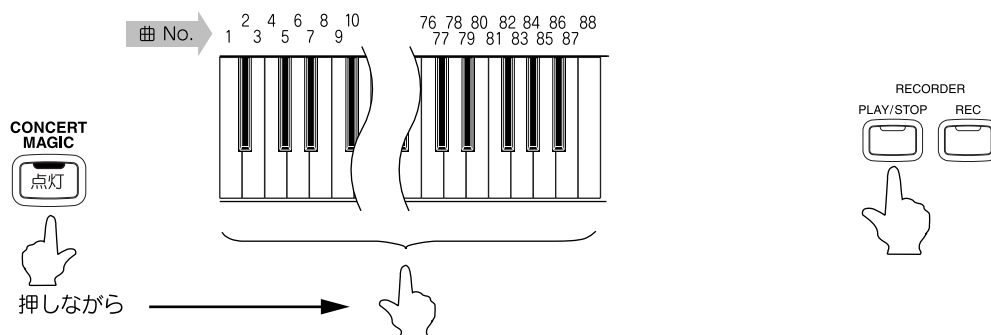
再度 コンサート マジック CONCERT MAGIC ボタンを押してランプを消灯させれば、通常の演奏状態に戻ります。

◇ コンサートマジック曲の再生

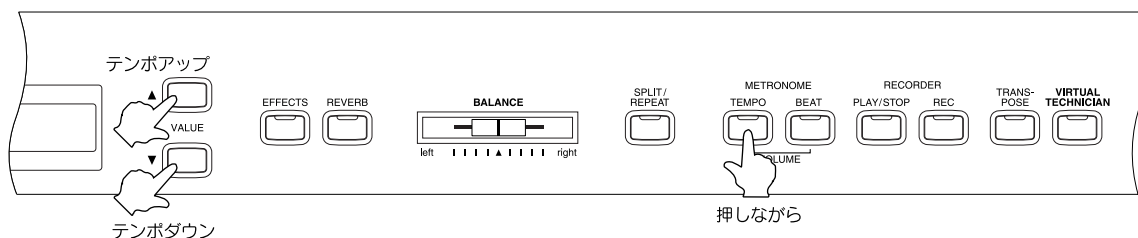
コンサートマジック曲は、普通のデモ曲として再生することができます。
どんな曲からまず聴いてみたいときに便利な機能です。

□ 操作 1

コンサート マジック CONCERT MAGIC ボタンを押しながら鍵盤を押して選曲した後、プレイ/ストップ PLAY/STOP ボタンを押します。



選択されている曲を、もう一度 PLAY/STOP ボタンを押すまで、繰り返し再生し続けます。
TEMPO ボタン押しながら VALUE ボタンを押して曲のテンポを変更できます。



□操作 2

もう一度 ^{プレイ/ストップ}PLAY/STOP ボタンを押せば、演奏は止まります。

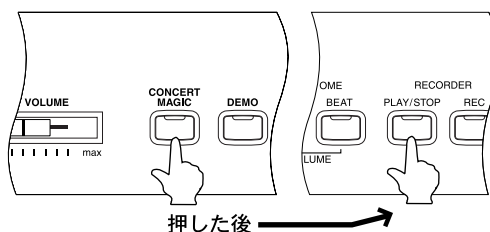
◇ その他の再生方法 (チェーン再生/グループ再生/ランダム再生)

■チェーン再生

^{コンサート}CONCERT MAGIC ボタンを押した後、鍵盤で曲選択をせずに ^{プレイ/ストップ}PLAY/STOP ボタンを押します。

1 曲目から 88 曲目まで順番に繰り返し再生します。

■VALUE ボタンで曲を選んだ場合はその曲から 88 曲目までを順番に再生します。

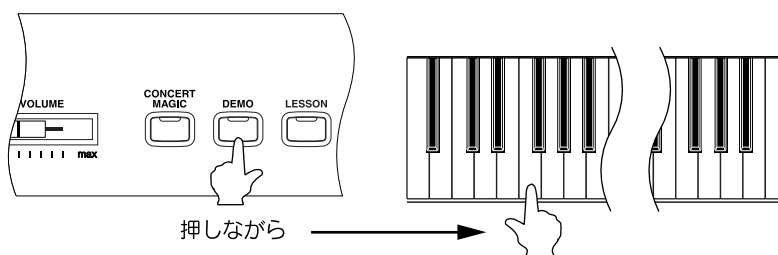


■グループ再生

^{デモ}DEMO ボタンを押しながら鍵盤を押します。

選択した曲が含まれるグループの曲を順番に繰り返し再生します。

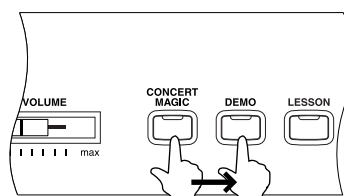
例えば、No.21 の「ドレミの歌」を選ぶと、この曲から演奏が開始され、No.1 ～ No.27 のグループ「子供の曲」を繰り返し再生します。



■ランダム再生

^{コンサート}CONCERT MAGIC ボタンを押した後、^{デモ}DEMO ボタンを押します。

全コンサートマジック曲を対象に、順不同に曲の再生をし続けます。
但し、1 曲目は「きらきら星」です。



※ PLAY/STOP ボタンを押せば、演奏は止まります。

◇ コンサートマジック曲目

【グループ】	【曲名】	【作曲者】
子供の曲（27曲）		
1	きらきら星	フランス民謡
2	ロンドン橋	イギリス民謡
3	ふるさと	岡野貞一
4	山の音楽家	ドイツ民謡
5	もみじ	岡野貞一
6	ゆき	文部省唱歌
7	七つの子	本居長世
8	10人のインディアン	アメリカ民謡
9	さくらさくら	日本古謡
10	わらの中の七面鳥	アメリカ民謡
11	ひらいたひらいた	わらべうた
12	かくれんぼ	下総皖一
13	虫のこえ	文部省唱歌
14	アイアイ	宇野誠一郎
15	うみ	井上武士
16	おもちゃのチャチャチャ	越部信義
17	かたつむり	文部省唱歌
18	春がきた	岡野貞一
19	もりのくまさん	アメリカ民謡
20	夕やけこやけ	草川信
21	ドレミの歌	O.ハーマスタイン、R. ロジャース
22	北風こぞうの寒太郎	福田和禾子
23	ぶんぶんぶん	ボヘミア民謡
24	ゆかいな牧場	アメリカ民謡
25	パフ	P.ヤーロウ、L.リプトン
26	河はよんでいる	G.ベアール
27	こいぬのマーチ	外国曲
ディズニー／アニメ／スクリーン（13曲）		
28	狼なんか怖くない	F.チャーチル
29	チムチムチェリー	シャーマン兄弟
30	ハイホー	F.チャーチル
31	ビビディバビディブー	マークデビッド他2名
32	星に願いを	L.ハーライン
33	小さな世界	シャーマン兄弟
34	ミッキーマウスマーチ	J.ドッド
35	さんぽ	久石譲
36	エーデルワイス	O.ハーマスタイン、R. ロジャース
37	チキチキバンバン	シャーマン兄弟
38	虹の彼方に	H.アーレン
39	となりのトトロ	久石譲
40	サザエさん	筒美京平
アメリカのクラシック音楽（9曲）		
41	聖者の行進	アメリカ民謡
42	おじいさんの古時計	アメリカ民謡
43	リパブリック賛歌	アメリカ民謡
44	アルプス一万尺	アメリカ民謡
45	ロンドンデリーの歌	アイルランド民謡
46	ケンタッキーの我が家	フォスター
47	故郷の人々	フォスター
48	草競馬	フォスター
49	線路は続くよどこまでも	アメリカ民謡

【グループ】	【曲名】	【作曲者】
クラシック（31曲）		
50	喜びの歌	ベートーベン
51	ウィリアムテル序曲	ロッシーニ
52	天国と地獄	オッフェンバック
53	新世界より家路	ドボルザーク
54	エンターティナー	ジョブリン
55	メヌエット ト長調	バッハ
56	花のワルツ	チャイコフスキー
57	スケターズ ワルツ	ワルトトイフェル
58	美しく青きドナウ	ヨハン・シュトラウス
59	闘牛士の歌	ビゼー
60	ピチカート ポルカ	ヨハン・シュトラウス
61	ブラームスの子守歌	ブラームス
62	ワシントンポストマーチ	J.P.スーザ
63	アメリカン パトロール	ミーチャム
64	眠りの森の美女	チャイコフスキー
65	ガボット	ゴセック
66	軍隊行進曲	シューベルト
67	ジムノペディ 1番	サティ
68	前奏曲作品28-7	ショパン
69	皇帝円舞曲	ヨハン・シュトラウス
70	メープル リーフ ラグ	ジョブリン
71	双頭のわしの旗のもとに	ワグナー
72	びっくりシンフォニー	ハイドン
73	凱行行進曲	ヴェルディ
74	エリーゼのために	ベートーベン
75	アヴェマリア	シューベルト
76	ハバネラ	ビゼー
77	ジプシーの歌	ビゼー
78	未完成交響曲	シューベルト
79	結婚行進曲	メンデルスゾーン
80	婚礼の合唱	ワーグナー
クリスマスの曲（4曲）		
81	おめでとうクリスマス	イギリス民謡
82	ジングルベル	ピアボント
83	もろ人こぞりて	讃美歌
84	きよしこの夜	グルーバー
世界の民謡（4曲）		
85	フニクリフニクラ	デンツァ
86	こぎつね	ドイツ民謡
87	アニーローリー	スコットランド民謡
88	サンタルチア	ナポリ民謡

別売コンサートマジック曲集のご案内

メロディー譜とピアノ譜が掲載されているコンサートマジック曲集をご用意致しました。
詳しくは、付属の「楽譜集のご案内」をご覧ください。

7) トランスポーズ

半音単位で調を変えることができます。

調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾く鍵盤を変えずに簡単に移調できます。

□ 操作 1

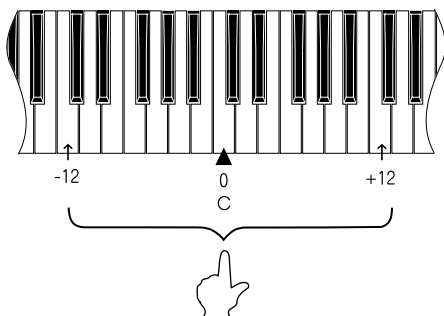
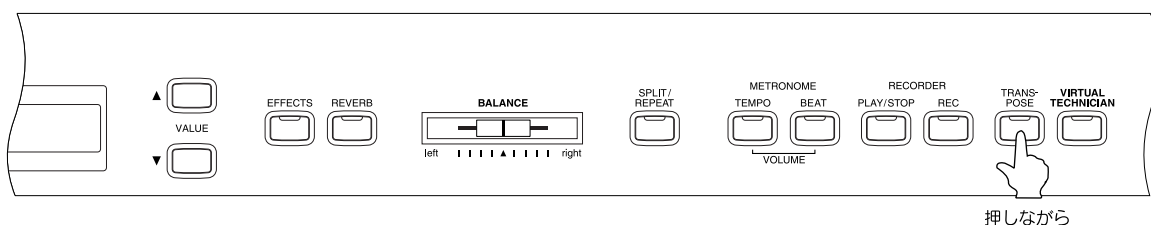
トランスポーズ

TRANSPOSE ボタン を押しながら鍵盤を押して移調値を (−12 ~ +12 [全2オクターブ]) の間で設定します。

TRANSPOSE ボタン のランプが点灯時、設定した値だけ移調されます。またボタンを押している間、ディスプレイに現在の値が表示されます。

電源オン時は、ハ長調 (C) に設定されています。

トランスポーズ
= 0 C



鍵盤中央のド (C) が 0 です。

ディスプレイの2行目に値が表示されます。

□ 操作 2

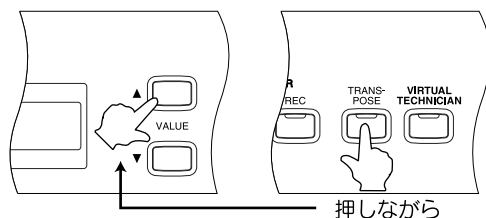
トランスポーズ

TRANSPOSE ボタン を押すたびに、オン/オフを設定できます。

ランプが点灯時にオンとなり設定した値だけ移調されます。

値が「0」の場合は、点灯しません。

■ TRANSPOSE ボタン を押しながら VALUE ボタンを押しても移調できます。



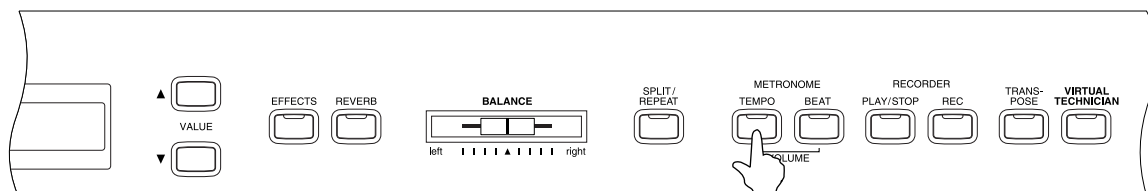
8) メトロノーム

メトロノームを使ってテンポを正しく練習しましょう。

◇ メトロノームの発音とテンポ設定

□ 操作 1

テンポ
TEMPO ボタンを押します。

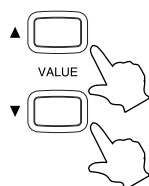


TEMPO ボタン が点灯し、メトロノームが発音します。
ディスプレイにそのテンポの値が表示されます。

テンポ 120
■----

□ 操作 2

バリュー
VALUE ボタンを押してテンポを設定できます。



テンポの値を ♩ =30 ~ 300 の範囲で設定できます。
(3/8、6/8、7/8、9/8、12/8拍子のときは、♪ =60~600)

□ 操作 3

テンポ
再度 TEMPO ボタンを押すとメトロノームが止まります。

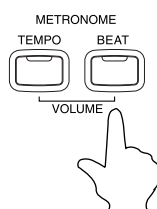
TEMPO ボタンのランプが消灯します。

■コンサートマジックボタンが点灯中は、メトロノームは使用できません。

◇ メトロノームの拍子設定

□ 操作 1

ビート
BEAT ボタンを押します。

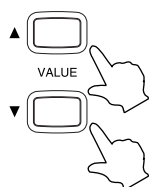


BEAT ボタンが点灯し、ディスプレイにその拍子が表示されメトロノームが発音します。

ビート = 4/4
■----

□操作 2

^{バリュウ}VALUE ボタン を押して拍子を選択します。



1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, 3/8, 6/8, 7/8, 9/8, 12/8 より選択することができます。

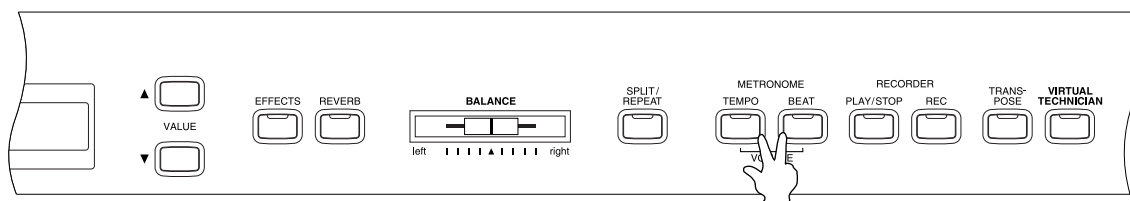
□操作 3

^{ビート}再度 BEAT ボタン を押すと BEAT ボタンのランプは消灯し、メトロノームが止まります。

◇メトロノームの音量設定

□操作 1

^{テンポ}TEMPO ボタンと ^{ビート}BEAT ボタンを同時に押します。

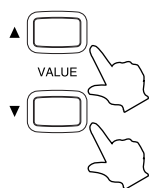


TEMPO ボタンと BEAT ボタンが点灯し、メトロノームが発音します。
ディスプレイにその音量の値が表示されます。

音量 = 5
■ ---

□操作 2

^{バリュウ}VALUE ボタン を押して音量を設定します。



1 ～ 10 の範囲で設定できます。

□操作 3

^{テンポ}再度 TEMPO ボタンと ^{ビート}BEAT ボタンを同時に押すとランプが消灯し、メトロノームが止まります。

3. レッスン機能の使い方

PW9/PW7 はピアノの上達に役立つ練習曲を内蔵し、楽しみながら様々なレッスンを行うことができます。

1. 練習曲機能 バイエル、チェルニーなどの練習曲を聴きながら右手、左手別々に練習することができます。
2. 指の体操機能 初めてのお子様が発指に慣れるための「鍵盤導入曲」や、リズム感を養う「リズム練習機能」、指使いを練習する「ゆびのレーニング機能」を使って基礎的な練習ができます。お子様だけでなく、初心者の方も楽しく練習できます。
お子様が練習する場合には、別冊の「ゆびの体操ドレミ」をお読み下さい。

1) 練習曲機能を使って

PW9/PW7 は、次の見本曲集を内蔵しています。

1. バイエルピアノ教則本 全曲（ただし予備練習、付録を除く）（カワイ出版）
2. ブルクミュラー 25 の練習曲全曲（カワイ出版）
3. チェルニー 30 番練習曲全曲（カワイ出版）
4. ギロックこどものためのアルバム全曲（全音楽譜出版社）

■ブルクミュラーとギロックはペダルを使用した見本曲と使用しない見本曲の2種類を内蔵しています。

内蔵曲集から1曲を選んで次のような練習ができます。

1. 見本曲を再生して曲想を覚える。
2. 見本曲の左手部分を再生しながら右手部分を練習する。
3. 見本曲の右手部分を再生しながら左手部分を練習する。
4. テンポを変更して練習する。
5. 曲の途中の部分を繰り返して練習する。
6. 見本曲の左手部分を再生しながら右手部分の演奏を録音して聴いてみる。
7. 見本曲の右手部分を再生しながら左手部分の演奏を録音して聴いてみる。

■これら練習曲のテンポは、お子様が無理なく練習できるように一部の曲を除いて遅くしてあります。

■設定されているテンポよりも遅くして再生した時、ブルクミュラーとギロックの一部の曲ではフェルマータの長さが変わらない場合があります。

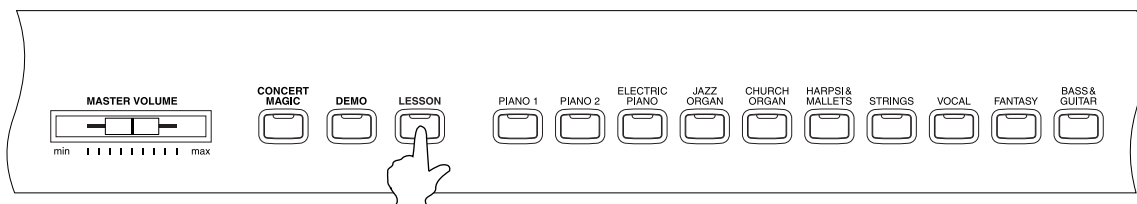
■練習時にお子様の指に無理な負担をかけないように、チェルニー、ギロックの一部の曲を除いて強打時（フォルテ）の音量を下げてあります。

なお、練習するための楽譜は上記出版社のものをご使用下さい。

◇ 練習したい曲を選ぶ

□ 操作 1

LESSON ボタンを押します。

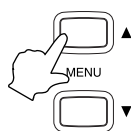


ディスプレイに練習機能の選択画面が出ます。

レッスン機能
選択画面

□ 操作 2

MENU ボタンの▲を押します。



バイエル
1 番テーマ

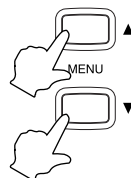
ディスプレイが練習曲選択画面に移り、1 行目に曲集名、2 行目に曲名が表示されます。

■電源オン時は「バイエル 1 番テーマ」に設定されます。

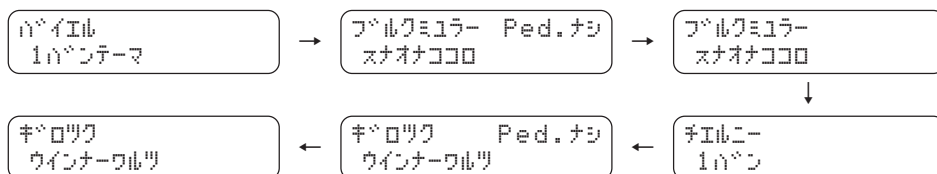
□ 操作 3

MENU ボタンを押して練習したい曲集を選びます。

バイエル、ブルクミュラー、チェルニー、ギロックの中から選びます。



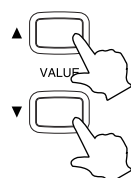
▲ボタンを押すと次の順序で曲集名がディスプレイに表示されます。



「Ped. ナシ」と表示された曲集では、楽譜でペダルが使われている曲の場合でもペダルがかからないようになっています。

□ 操作 4

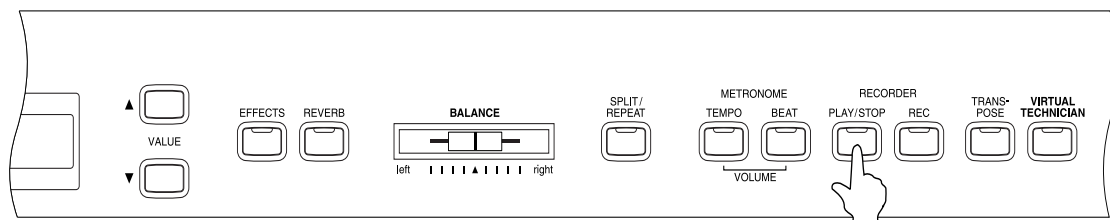
VALUE ボタンを押して練習したい曲名を選びます。



◇ 見本曲を聴く

□ 操作 1

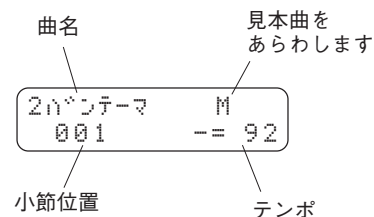
レコーダー プレイ/ストップ
RECORDERのPLAY/STOP ボタンを押します。



ディスプレイに現在の小節位置とテンポが表示されると同時にメトロノームが1小節鳴った後、見本曲が再生されます。

見本曲再生中もメトロノームが再生されますが、メトロノームを切りたい場合にはMETRONOMEのTEMPOボタンをオフにします。

テンポを変更して聴きたい場合にはVALUEボタンを押します。▼で遅く、▲で速くなります。変更した後、元のテンポに戻す場合にはVALUEの▲と▼ボタンを同時に押します。



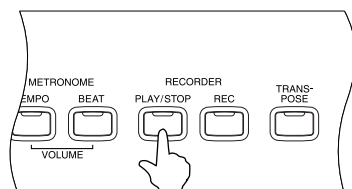
■ディスプレイ右上のMは再生内容をあらわします。自分の演奏を録音してあった場合 (P.33 参照) にはM+Rと表示されますので、見本曲だけを再生する場合には36ページをご覧ください。

■小節位置は、

- ①リピートした場合は小節位置は戻らずに増えていきます。
- ②弱起の場合、最初の小節位置はゼロとなります。

□ 操作 2

レコーダー プレイ/ストップ
RECORDERのPLAY/STOP ボタンをもう一度押します。



見本曲の再生が止まります。

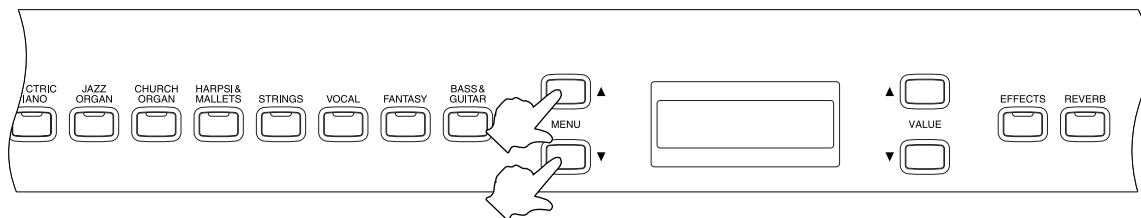
もう一度PLAY/STOPボタンを押すと、1小節メトロノームが鳴った後、止めた小節の最初から再生が始まります。

最初から再生したい場合にはPLAY/STOPボタンを押して演奏を止めてからMENUの▲と▼ボタンを同時に押します。

◇ 見本曲の途中から再生する

□ 操作 1

^{メニュー}
MENU ボタン (▲▼) を押します。

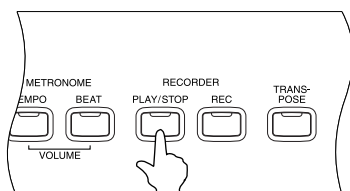


▲を一回押すと1小節進みます。▼を一回押すと1小節戻ります。押しつづけると早く進み(戻り)ます。

再生中でも操作可能です。

□ 操作 2

^{プレイ/ストップ}
PLAY/STOP ボタンを押します。



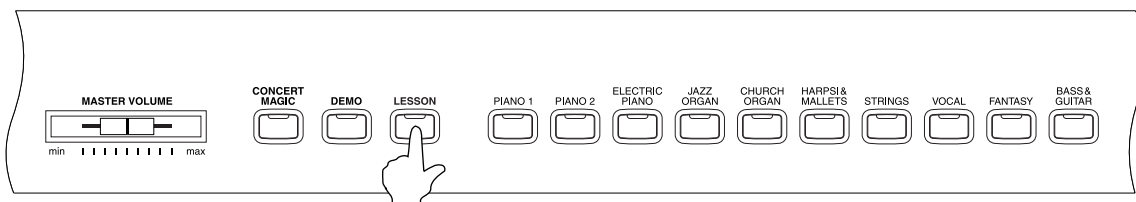
1小節メトロノームが鳴った後、指定した小節から再生が始まります。

◇ 曲を変更する

別の曲を練習したい場合には下記の操作を行います。

□ 操作 1

^{レッスン}
再生が止まっている状態で、LESSON ボタンを押します。

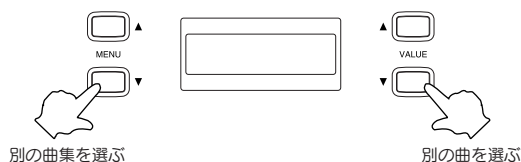


ディスプレイが曲選択画面に戻ります。

ハイト
2チャンネル

□ 操作 2

同じ曲集で別の曲を選びたい場合は、^{バリュー}VALUE ボタン (▲▼) を押します。
別の曲集に変えたい場合は、MENU ボタン (▲▼) で曲集を選んでから、VALUE ボタン (▲▼) で曲を選びます。

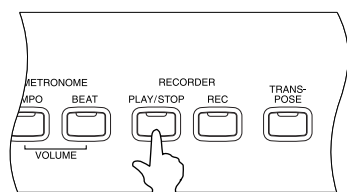


別の曲集を選ぶ

別の曲を選ぶ

□操作 3

レコーダー プレイ/ストップ
RECORDERのPLAY/STOP ボタンを押します。

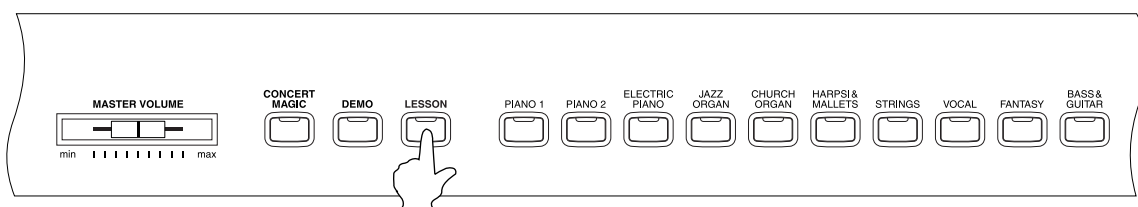


ディスプレイに現在の小節位置とテンポが表示されると同時にメトロノームが1小節鳴った後、選んだ見本曲が再生されます。

◇ レッスン機能を終了する

□操作 1

レッスン
LESSON ボタンを押します。



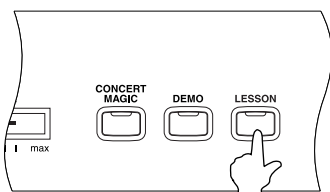
ディスプレイが曲選択画面に戻ります。

■ SPLIT / REPEAT ボタンはオフにしておいて下さい。

ピアノ
2小節テーマ

□操作 2

レッスン
もう一度 LESSON ボタンを押します。

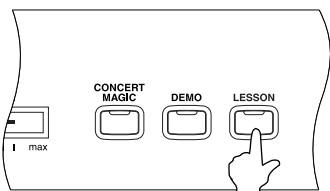


レッスン
エレクトリックピアノ

ディスプレイが練習機能選択画面に戻ります。

□操作 3

レッスン
もう一度 LESSON ボタンを押します。



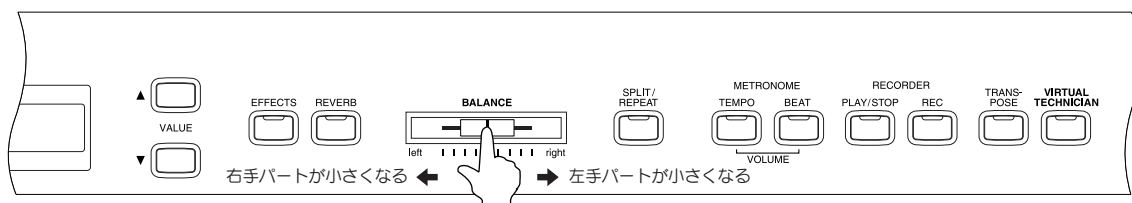
LESSON ボタンが消灯し、通常の状態に戻ります。

◇ 見本曲の片方のパートを再生しながら、もう片方のパートを練習する

見本曲の片方のパートだけを再生することを「マイナスワン再生」といい、片方のパートを再生させながらもう片方のパートを練習することを「マイナスワン練習」と言います。

□ 操作 1

見本曲を選んだ後、^{バランス}BALANCE スライダーを右、あるいは左に動かします。



■ 見本曲の左手パートを再生しながら右手パートを練習したい場合

スライダーを左に動かします。左に動かすと見本曲の右手パートが小さくなり、ガイドメロディとなります。左端にすると右手パートは聴こえなくなり、ガイドメロディなしで練習できます。

■ 見本曲の右手パートを再生しながら左手パートを練習したい場合

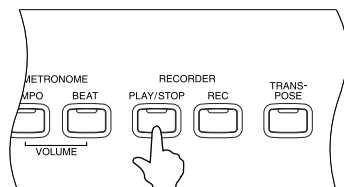
スライダーを右に動かします。右に動かすと見本曲の左手パートが小さくなり、ガイドメロディとなります。右端にすると左手パートは聴こえなくなり、ガイドメロディなしで練習できます。

■ 自分のパートの見本を再生しながら合わせて演奏した場合、弾く音程やタイミングによっては音質が変化することがありますが、これは故障ではありません。気になる場合は、見本曲の再生を小さくするか、消して下さい。

■ バイエルの中で先生の伴奏がついている曲の場合には、スライダーを左にすると生徒のパートが小さくなり、右にすると先生のパートが小さくなります。

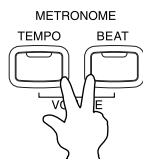
□ 操作 2

^{レコーダー}RECORDERの^{プレイ/ストップ}PLAY/STOP ボタンを押します。



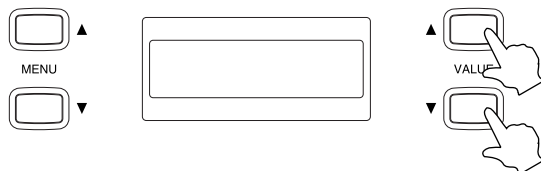
メトロノームが1小節鳴った後、セットしたスライダーの状態で見本曲の再生が始まりますので、見本曲に合わせて片方のパートを演奏して練習します。

メトロノームの音量は TEMPO と BEAT を両方押すとディスプレイに数値が表示されますので、VALUE ボタンで調節します。メトロノームを切りたい場合には METRONOME の TEMPO ボタンをオフにします。

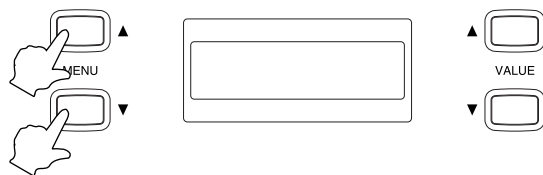


ボリューム = 5

遅いテンポで練習したい場合には、VALUE ボタンの▼を押します。▲を押すと速くなります。元のテンポに戻す場合には VALUE の▲と▼ボタンを同時に押します。



曲の途中から練習したい時は、MENU ボタン (▲▼) を押して小節を選びます。



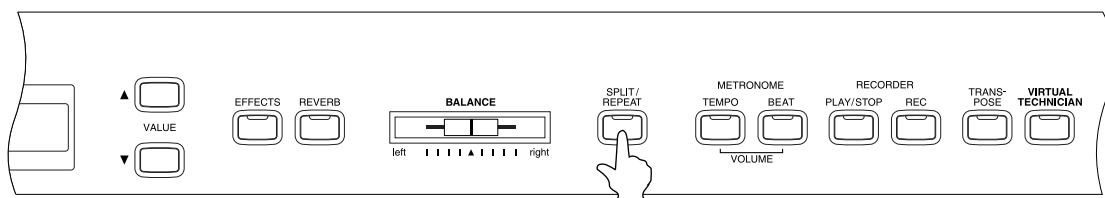
◇ 見本曲の途中を繰り返して練習する

見本曲の中の小節位置を2種類指定してその区間を繰り返して再生したり（リピート再生）、繰り返してマイナスイワン練習をすることができます。

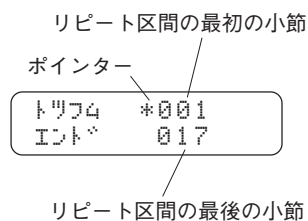
□ 操作 1

スプリット/リピート

SPLIT/REPEAT ボタンを押したままにします。



ボタンが点灯し、ディスプレイが右図のようにリピートする2つの小節を指定する画面に変わります。
ポインター（*）は現在どちらの小節位置を設定するかをあらわしています。

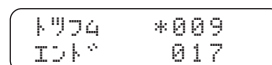
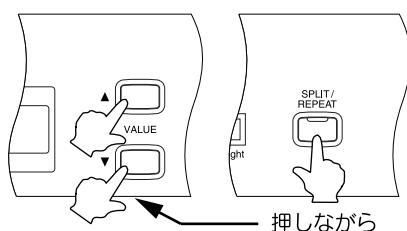


□ 操作 2

スプリット/リピート

バリュー

SPLIT/REPEAT ボタンから指を離さずに、VALUE ボタンを押してリピートの最初の小節を指定します。

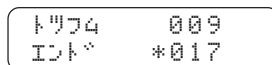
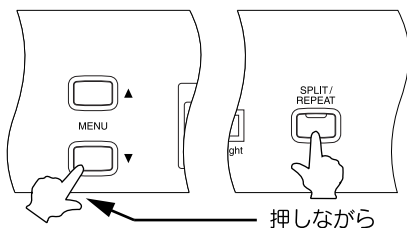


□ 操作 3

スプリット/リピート

メニュー

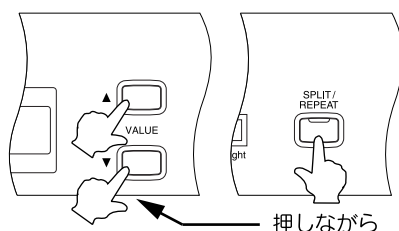
SPLIT/REPEAT ボタンから指を離さずに、MENU ボタンの▼を押します。



ポインター（*）が移動し、リピートの最後の小節を指定できるようになります。
もう一度開始小節を設定する場合は MENU ボタンの▲を押します。

□操作 4

スプリット/リピート
SPLIT/REPEAT ボタンから指を離さずに、バリュー
VALUE ボタンを押してリピートの最後の小節を指定します。



トツフ4	009
イント*	*012

□操作 5

スプリット/リピート
SPLIT/REPEAT ボタンから指を離します。

ディスプレイの表示が右図のように変わります。
1小節メトロノームが鳴った後、現在の小節位置
によって、次のようにリピート再生が始まります。

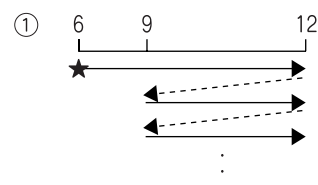
リピート再生	リピート区間
リピート	009-012
006	- = 92
現在の小節位置	テンポ

リピート区間がこの例のように9小節-12小節の場合

①小節位置がリピート区間の最初の小節よりも前にある時

例：小節位置＝6（右図①）

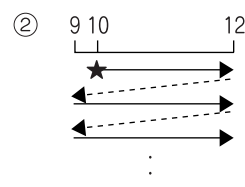
6小節目から再生が始まり、12小節まで再生すると
9小節に戻り、以降は9-12小節をリピートします。



②小節位置がリピート区間内にある時

例：小節位置＝10（右図②）

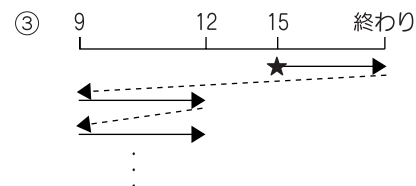
10小節目から再生が始まり、12小節まで再生すると
9小節に戻り、以降は9-12小節をリピートします。



③小節位置がリピート区間の最後の小節よりも後ろにある時

例：小節位置＝15（右図③）

15小節目から再生が始まり、曲の最後まで再生すると
9小節に戻り、以降は9-12小節をリピートします。



指定した区間を繰り返してマイナスイオン練習をしたい場合は BALANCE スライダーを動かします。
(P.30 参照。)

リピート再生をやめる場合には SPLIT/REPEAT ボタンをオフにします。

再生をやめる場合は PLAY/STOP ボタンを押します。

■リピートの最初の小節を最後の小節より大きくすることはできません。最初の小節を最後の小節より大きな数字を選ぶと最後の小節も同じ数字に設定されます。また、最後の小節を最初の小節より小さな数字を選ぶと最初の小節も同じ数字に設定されます。

■リピート再生においても MENU ボタンを押して、小節を進めたり戻したりすることができます。(P.28 参照)

ここで設定したリピート区間（最初の小節と最後の小節）は、別の曲を選ぶか、練習曲モードから出るまでは本体に記憶されています。

リピート再生を止めた後でも、SPLITボタンをオンにして再生すれば記憶した区間のリピート再生が始まります。

◇ 見本曲に合わせて録音する

見本曲をマイナスイオン再生しながら片方のパートの自分の演奏を録音した後、それを聞いて自分でチェックすることができます。

全部で3回分の録音（3 テイク）が可能です。

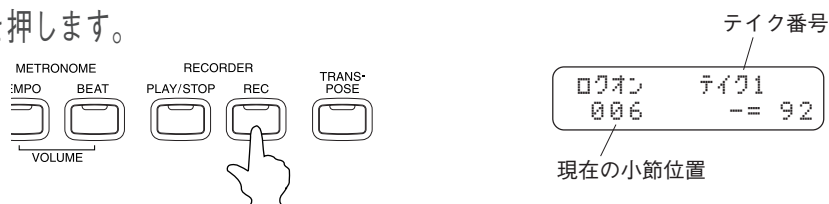
■ リピート再生モードでは録音できません。

□ 操作 1

曲を選んで^{プレイ/ストップ}PLAY/STOP ボタンを押して再生させた後、曲を止めます。

□ 操作 2

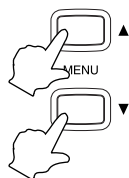
^{レック}REC ボタンを押します。



REC ボタンが点滅し、ディスプレイが上図のように録音画面に変わります。

□ 操作 3

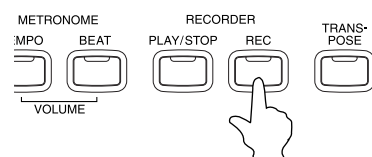
^{メニュー}MENU ボタン（▲▼）で録音するテイクを選びます。



テイク1～テイク3まで選ぶことができます。

□ 操作 4

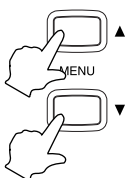
^{レック}REC ボタンを押します。



REC ボタンが消灯し、一旦録音待機状態から出ます。

□ 操作 5

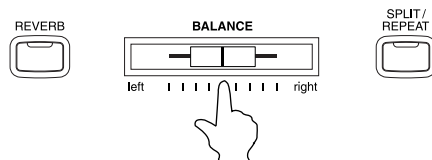
^{メニュー}MENU ボタン（▲▼）を押して録音したい小節位置まで進めます。



□操作 6

バランス

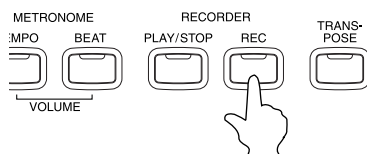
BALANCE スライダーを右、あるいは左に動かして録音したいパートの見本曲の再生音量を調節します。



□操作 7

レック

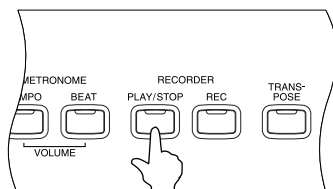
REC ボタンを押します。



□操作 8

プレイ/ストップ

PLAY/STOP ボタンを押します。



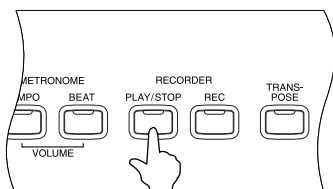
REC ボタン、PLAY/STOP ボタンが点灯し、1小節メトロノームが鳴った後、見本曲が再生されると同時に録音が始まりますので、見本曲に合わせて演奏します。

■選んだテイクにすでに録音していた場合はその内容は消去されます。

□操作 9

プレイ/ストップ

演奏が終わったら PLAY/STOP ボタンを押します。



2nd テーマ	M+R
001	- 92

REC ボタン、PLAY/STOP ボタンが消灯し、録音が終了します。
ディスプレイが右の再生画面に自動的に切り替わります。

■曲の最後まで行くと自動的に録音が終了します。

■録音したテイクの内容は曲を変更すると自動的に消去されます。

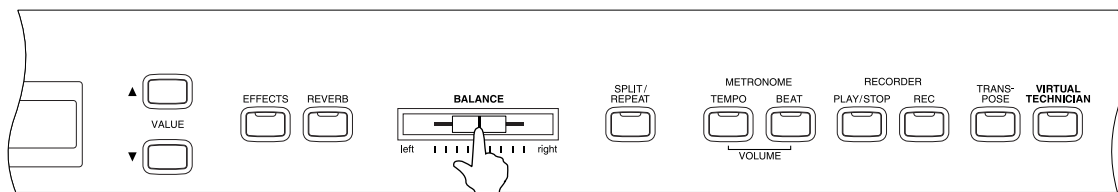
◇ 録音したテイクを再生する

録音したテイクを見本曲と合わせて聴いてみて自分の演奏をチェックします。
テイク1～3を選んで聴くことができます。

□ 操作 1

バランス

BALANCE スライダーを動かして見本曲を再生したいパートだけにします。

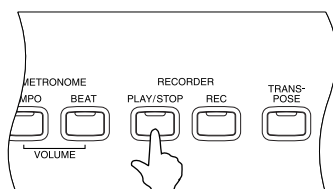


■ スライダーを動かしても録音したテイクの音量は変わりません。

□ 操作 2

プレイ/ストップ

PLAY/STOP ボタンを押したままにします。



再生するテイク	再生する内容
テイク1 001	M+R - = 92

現在の小節位置

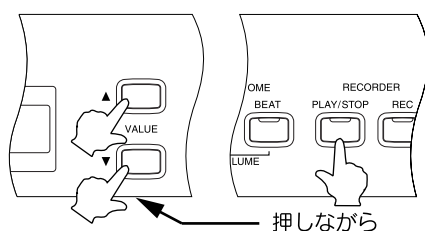
ディスプレイの表示が右図のように変わります。

□ 操作 3

プレイ/ストップ

メニュー

PLAY/STOP ボタンを押したまま、MENU ボタン (▲▼) で再生したいテイクを1～3から選びます。



□ 操作 4

プレイ/ストップ

PLAY/STOP ボタンから指を離します。

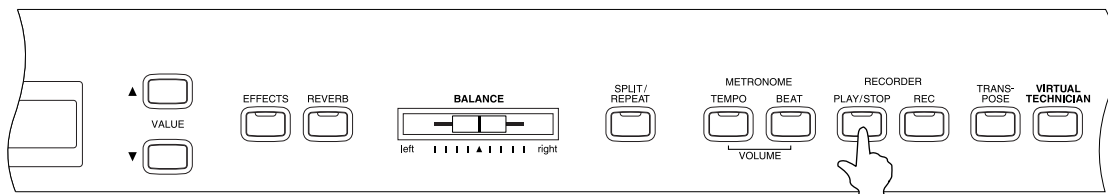
メトロノームが1小節鳴った後、見本曲の片方のパートと録音したテイクの再生が始まります。

★見本曲だけを再生する場合は下記の操作を行います。

□操作 1

プレイ/ストップ

PLAY/STOP ボタンを押したままにします。



ディスプレイの表示が右図のように変わります。

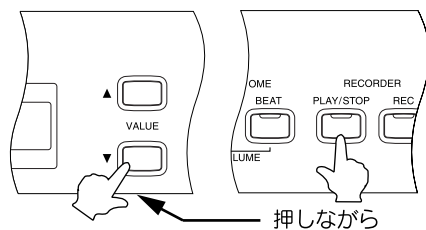
再生する内容

テイク1	M+R
001	-- 92

□操作 2

プレイ/ストップ

PLAY/STOP ボタンを押したまま、VALUE ボタンの▼を押して再生内容の表示を M にします。



テイク1	M
001	-- 92

■ R にすると録音したテイクのみの再生となります。

□操作 3

プレイ/ストップ

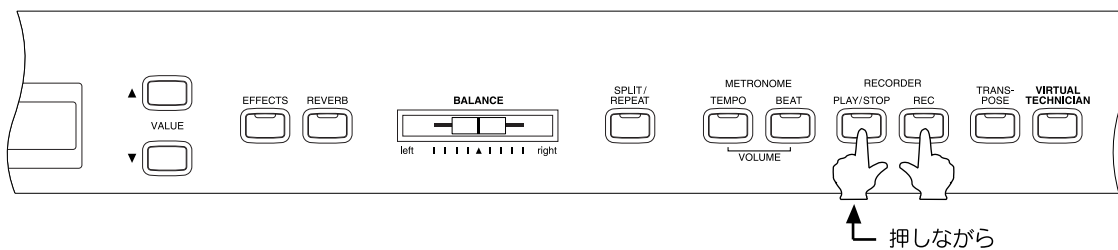
PLAY/STOP ボタンから指を離します。

メトロノームが1小節鳴った後、見本曲だけの再生が始まります。

◇ 録音したテイクを消去する

□ 操作 1

REC ボタンを押しながら ^{プレイ/ストップ}PLAY/STOP ボタンを押します。

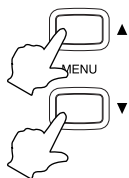


これら2つのボタンが点滅し、ディスプレイの表示が右図のようになります。

テリート(Recボタン)
テイク1

□ 操作 2

MENU ボタン (▲▼) を押して消去したいテイクを選びます。



テリート(Recボタン)
テイク2

□ 操作 3

REC ボタンを押します。



ディスプレイの表示が右図のように変わります。

Ok? (Recボタン)
テイク2

□ 操作 4

消去して良ければもう一度 ^{レック}REC ボタンを押します。



右図の画面が約2秒間表示され、再生画面に戻ります。
RECORD ボタン、PLAY/STOP ボタンは消灯します。

テリートコンフ4リート
テイク2



2nd テーマ M
001 -- 92

2) 指の体操機能を使って

指の体操機能では次の事が練習できます。

1. カワイ音楽教育システムピアノ教材を使って鍵盤に慣れる練習（鍵盤で遊ぼう）
2. リズム感を養うリズム練習
3. スケールを用いて指の訓練を行う指のトレーニング

これらの機能を使って練習する際には付属の楽譜をご使用下さい。

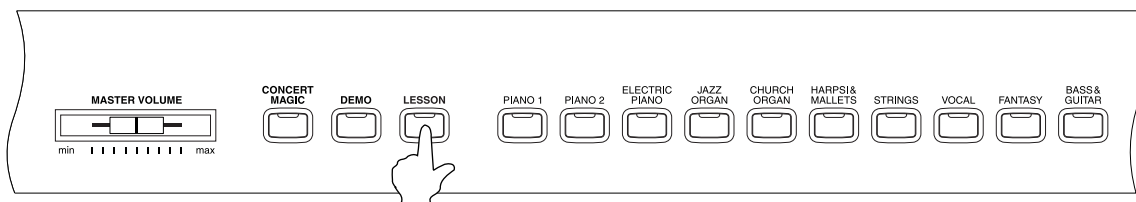
また、お子様用には別冊の説明書「ゆびの体操ドレミ」をご使用下さい。

◇ 練習タイプの選び方

鍵盤で遊ぼう、リズム練習、指のトレーニングを選ぶには次の操作を行います。

□ 操作 1

LESSON ボタンを押します。

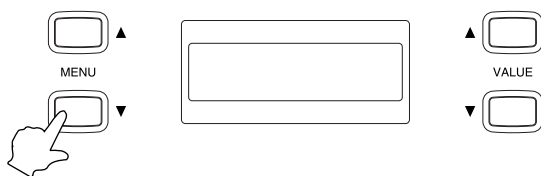


ディスプレイに練習機能の選択画面が出ます。

レッスン機能
選択画面

□ 操作 2

MENU ボタンの▼を押して指の体操を選びます。

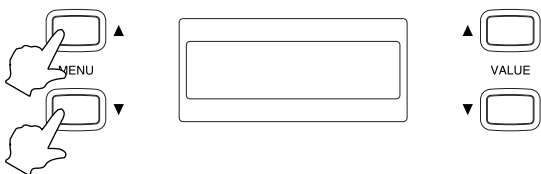


メニュー画面
表示画面

ディスプレイに練習タイプを選ぶ画面が出ます。

□ 操作 3

MENU ボタン（▲▼）を押して練習タイプを選びます。



リズム練習
リズム練習01

指のトレーニング
トレーニング01

■ある練習タイプで練習した後他の練習タイプに移るには、LESSON ボタンを1回押して 練習タイプを選ぶ画面に戻してから MENU ボタンを押します。

◇ 鍵盤に慣れる練習

内蔵している2曲から1曲を選び、見本曲を聴きながら自分のパートを弾きます。

見本曲の進行を示すガイドがディスプレイに表示され、自分のパートを弾くタイミングを教えてください。

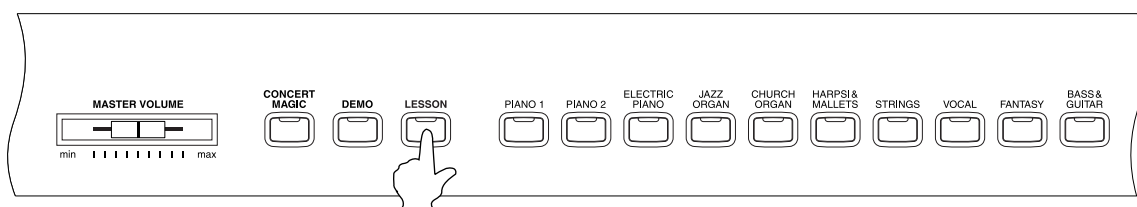
◆ 曲を選んで聴いてみる

付属の楽譜「ゆびの体操ドレミ楽譜集」を用意しましょう。

楽譜と見本曲をよく比べて自分の弾くパートの音とタイミングをつかみましょう。

□ 操作 1

LESSON ボタンを押します。

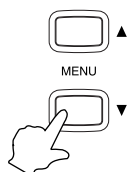


ディスプレイに練習機能の選択画面が出ます。

レッスン機能の選択画面

□ 操作 2

MENU ボタンの▼を押して指の体操を選びます。

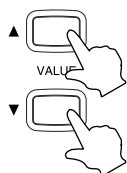


ディスプレイに練習タイプを選ぶ画面が出ます。

メニュー画面の指の体操を選択

□ 操作 2

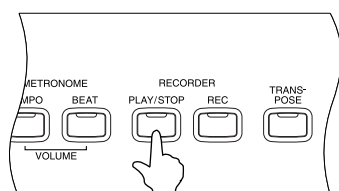
VALUE ボタン (▲▼) を押して曲を選びます。



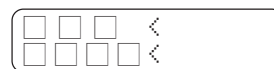
「大きなくりの木の下で」、「たこたこあがれ」、のどちらかを選びます。

□操作 3

プレイ/ストップ
PLAY/STOP ボタンを押します。



1 小節目



7 小節目



ボタンが点灯し、メトロノームが1小節鳴った後、選んだ曲の再生が始まります。

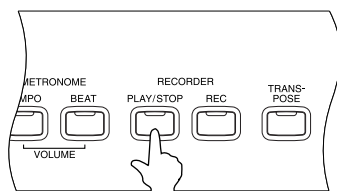
ディスプレイにガイドが表示され、音符が演奏されると+に変わります。

□は伴奏パート、●は自分で弾くパートです。

見本曲再生中もメトロノームが再生されますが、メトロノームを切りたい場合にはMETRONOMEのTEMPOボタンをオフにします。

□操作 4

プレイ/ストップ
PLAY/STOP ボタンを押します。



選んだ曲の再生が止まり、曲の最初に戻ります。

曲の最後まで再生した場合は自動的に止まり、曲の最初に戻ります。

■BALANCE スライダーを動かせば、伴奏と自分のパートを別々に聴く事ができます。

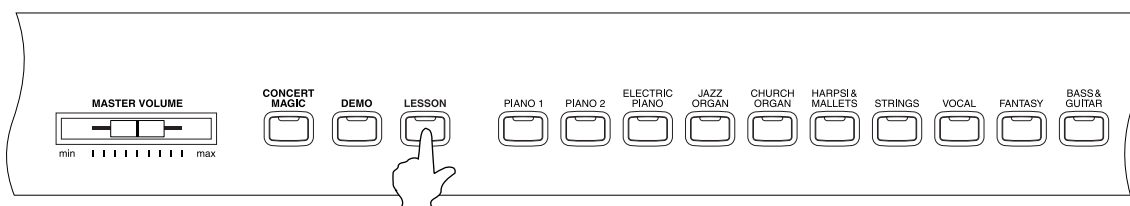
■テンポを変えたい場合にはVALUE ボタン (▲▼) を押します。

元のテンポに戻したい時には▲と▼を同時に押します。

◆見本曲を変更する

□操作 1

レッス
曲の再生を止めてから LESSON ボタンを押します。

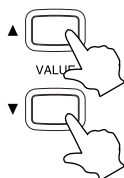


ディスプレイが練習タイプを選ぶ画面に移ります。

レッスンタイプ
オオキナグリノキノシタテ

□操作 2

VALUE ボタン (▲▼) を押して曲を選びます。



ケシハシテンテアリホウ
オオキナクリノキシタテ

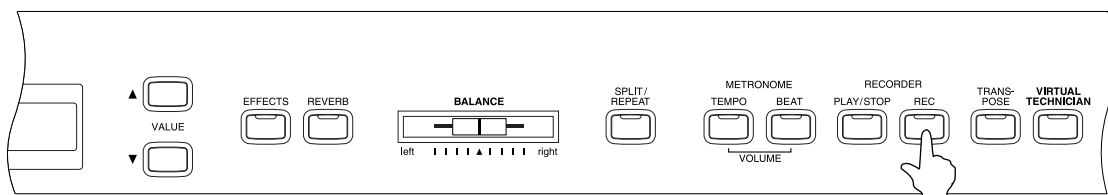
ケシハシテンテアリホウ
タコタコアカレ

◆見本曲に合わせて練習する

ディスプレイのガイドを見ながら見本曲に合わせて自分のパートを弾いて練習しましょう。
弾けるようになったらガイドを見ずに楽譜を見て弾きましょう。

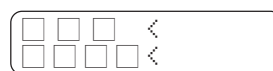
□操作 1

曲を選んで再生して止めてから、REC ボタンを押します。



REC ボタンと PLAY/STOP ボタンが点灯し、メトロノームが
1小節鳴った後、見本曲の再生が始まります。
ディスプレイのガイドが曲に合わせて進みます。

1小節目



■自分の演奏が録音されるわけではありません。

□操作 2

ディスプレイのガイドが●のところまで進んだら、自分のパートを弾きます。



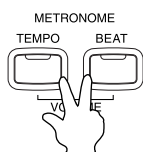
正しいリズムで弾けると●が+に変わります。

最初はBALANCEスライダーを使って自分のパートの見本を聴きながら演奏し、最後には自分のパートの見本を消して演奏してみましょう。

■どこの音を弾いても正しいリズムで弾けると●が+に変わります。正しい音で弾くことよりもまず鍵盤に慣れる練習をするためです。

■自分のパートの見本を再生しながら合わせて演奏した場合、弾く音程やタイミングによっては音質が変化することがありますが、これは故障ではありません。気になる場合は、見本曲の再生を小さくするか、消して下さい。

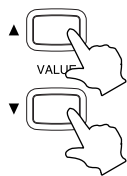
メトロノームの音量はTEMPOとBEATを両方押すとディスプレイに数値が表示されますので、VALUEボタンで調節します。



ホーリユー = 5

メトロノームを切りたい場合には METRONOME の TEMPO ボタンをオフにします。

テンポを変えたい場合には VALUE（バリュー）ボタン（▲▼）を押します。元のテンポに戻したい時には▲と▼を同時に押します。



◇ リズムの練習

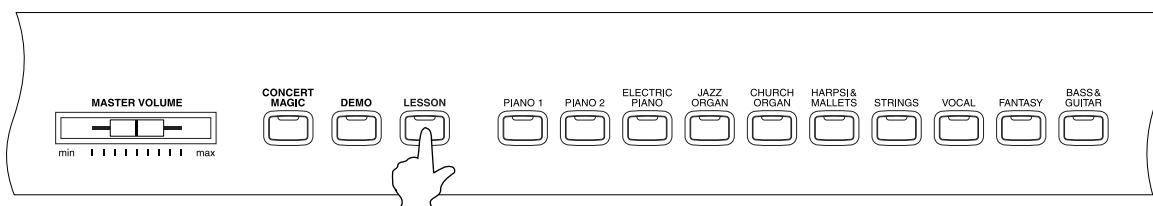
内蔵している 30 のリズムパターン例からひとつずつ選んで練習します。
リズムの進行を示すガイドがディスプレイに表示され、正しく叩けたかどうかディスプレイでチェックすることができます。

◆ 見本パターンを選んで聴いてみる

付属の楽譜「ゆびの体操ドレミ楽譜集」を用意しましょう。
楽譜と見本曲をよく比べて叩くタイミングをつかみましょう。

□ 操作 1

LESSON ボタンを押します。

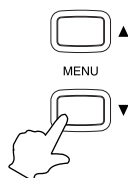


ディスプレイに練習機能の選択画面が出ます。

レッスン機能の
選択画面

□ 操作 2

MENU ボタンの▼を押して指の体操を選びます。

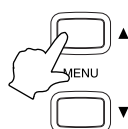


ディスプレイに練習タイプを選ぶ画面が出ます。

指の体操の
選択画面

□ 操作 3

MENU ボタンの▲を押します。

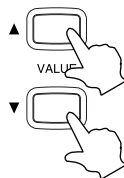


ディスプレイがリズム練習画面に変わります。

リズム練習の
画面

□操作 4

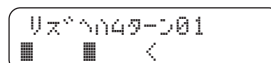
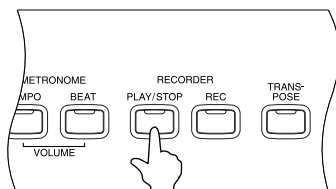
^{バリュー}
VALUE ボタン (▲▼) を押してリズムパターンを選びます。



全部で 30 種類のリズムパターンが内蔵されています。

□操作 5

^{プレイ/ストップ}
PLAY/STOP ボタンを押します。



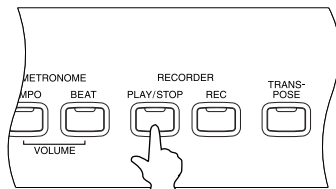
ボタンが点灯しメトロノームが1小節鳴った後、選んだリズムが「タン、タン」という声で繰り返して再生されます。

ディスプレイにガイドが表示され、音符が演奏されると●が+に変わります。

メトロノームを切りたい場合には METRONOME の TEMPO ボタンをオフにします。

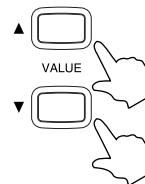
□操作 6

^{プレイ/ストップ}
PLAY/STOP ボタンを押します。



選んだリズムの再生が止まり、最初に戻ります。

■テンポを変えたい場合には VALUE (バリュー) ボタン (▲▼) を押します。
元のテンポに戻りたい時には▲と▼を同時に押します。

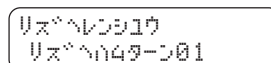
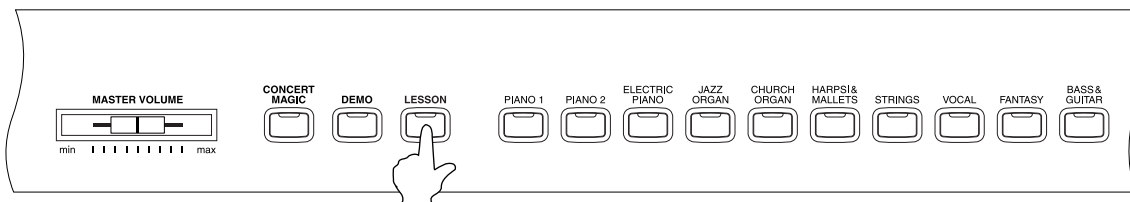


◆ リズムパターンを変更する

ひとつのリズムを演奏させた後、別のリズムに変更するには次の操作を行います。

□操作 1

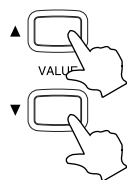
^{レッスン}
リズムの再生を止めて LESSON ボタンを押します。



リズムパターンを選ぶ画面に移ります。

□操作 2

VALUE ボタン (▲▼) を押してリズムを選びます。

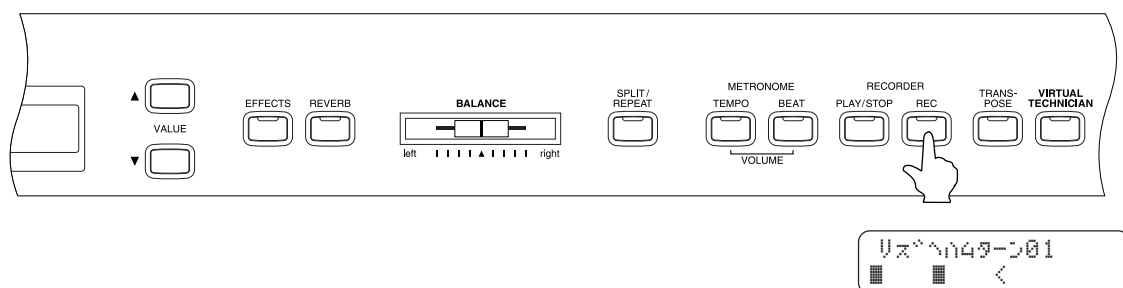


◆見本パターンに合わせて練習する

ディスプレイのガイドを見ながら見本パターンに合わせて鍵盤を叩いて練習しましょう。
弾けるようになったらガイドを見ずに楽譜を見て叩きましょう。

□操作 1

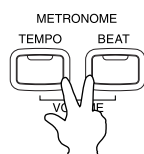
曲を選んで再生して止めてから、REC ボタンを押します。



REC ボタンと PLAY/STOP ボタンが点灯し、メトロノームが1小節鳴った後見本パターンが繰り返して再生されます。見本パターンの音符が再生されるとガイドの●が+に変わります。

■自分の演奏が録音されるわけではありません。

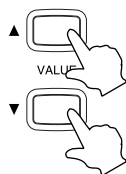
メトロノームの音量は TEMPO と BEAT を両方押すとディスプレイに数値が表示されますので、VALUE ボタンで調節します。



メトロノーム = 5

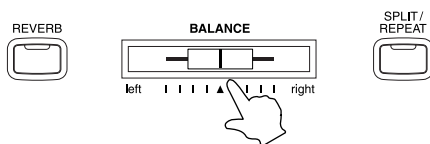
メトロノームを切りたい場合には METRONOME の TEMPO ボタンをオフにします。

テンポを変えたい場合には VALUE (バリュー) ボタン (▲▼) を押します。元のテンポに戻したい時には▲と▼を同時に (片方を押しながら片方を) 押します。



□操作 2

ディスプレイのガイドを見ながら鍵盤のひとつを弾きます。



どこの音でも構いません。

最初はBALANCE スライダーを使って、見本パターンを聴きながら演奏し、最後にはスライダーを左端にして見本パターンを消して演奏してみましょう。

1小節正しく弾けるとディスプレイ右上に*が表示されます。3小節連続で正しく弾けると「ヨクデキマシタ!!」

と表示がでます。

■叩くタイミングが右図のように音符の前後32分音符の範囲であれば「正しく演奏された」と判断します。



◇指のトレーニング

内蔵している12曲の指のトレーニング曲からひとつ選んで練習します。

再生すると見本曲の進行を示すガイドがディスプレイに表示され、弾くタイミングを教えてください。

曲の再生が終了したら、

リズムの傾向

リズムのばらつき

大きなずれ／音抜け

ミスタッチ

タッチのばらつき

についての評価がディスプレイに表示されますので、自分の練習のチェックに役立ちます。

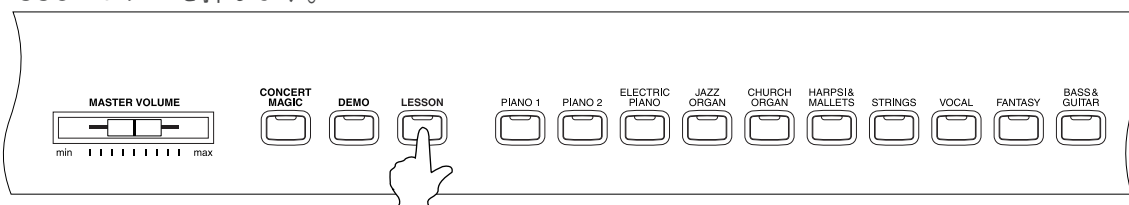
◆見本曲を選んで聴いてみる

付属の楽譜「ゆびの体操ドレミ楽譜集」を用意しましょう。

楽譜と見本曲を良く比べて曲の感じをつかみましょう。

□操作 1

LESSON ボタンを押します。

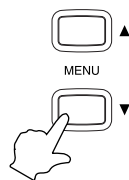


ディスプレイに練習機能の選択画面が出ます。

レッスン機能の
選択画面

□操作 2

^{メニュー}
MENU ボタンの▼を押して指の体操を選びます。

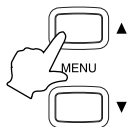


テンハッペンテッアソホッウ
オオキナクリノキノシタテッ

ディスプレイに練習タイプを選ぶ画面が出ます。

□操作 3

^{メニュー}
MENU ボタンの▲を2回押します。

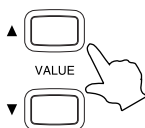


ユヒッノトレーニングッ
トレーニングッ01

ディスプレイが指のトレーニング画面に変わります。

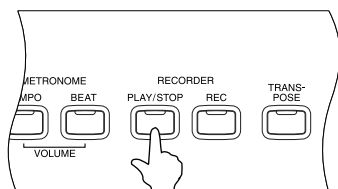
□操作 4

^{バリュー}
VALUE ボタン (▲▼) を押して曲を選びます。



□操作 5

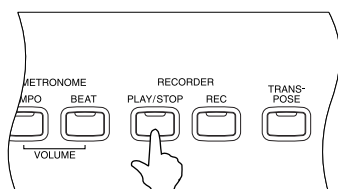
^{プレイ/ストップ}
PLAY/STOP ボタンを押します。



ボタンが点灯し、メトロノームが1小節鳴った後、選んだ曲が再生されます。
ディスプレイにガイドが表示され、音符が演奏されると●が+に変わります。

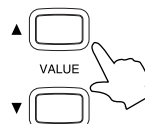
□操作 6

^{プレイ/ストップ}
PLAY/STOP ボタンを押します。



曲の再生が止まり、最初に戻ります。

■テンポを変えたい場合には VALUE (バリュー) ボタン (▲▼) を押します。
元のテンポに戻したい時には▲と▼を同時に押します。

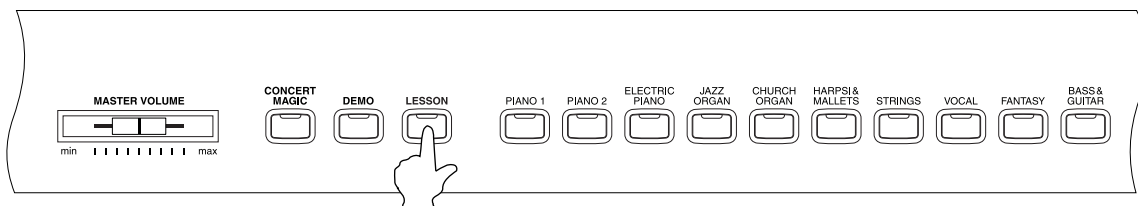


◆ 曲を変更する

ひとつの曲を演奏した後、別の曲に変更するには次の操作を行います。

□ 操作 1

曲の再生を止めて^{レッスン}LESSON ボタンを押します。

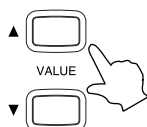


指のトレーニング曲を選ぶ画面に戻ります。

ユビ・ノトレーニング
トレーニング01

□ 操作 2

^{バリュ-}VALUE ボタン (▲▼) を押して曲を選びます。



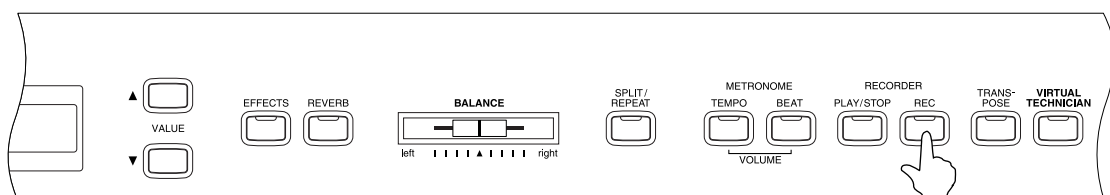
◆ 見本曲に合わせて練習する

ディスプレイのガイドを見ながら見本曲に合わせて弾いて練習しましょう。

弾けるようになったらガイドを見ずに楽譜を見て弾きましょう。

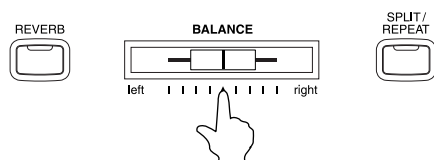
□ 操作 1

曲を選んで再生して止めてから、^{レック}REC ボタンを押します。

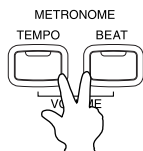


REC、PLAY/STOP ボタンが点灯し、メトロノームが1小節鳴った後、見本曲の再生が始まります。見本曲の音符が演奏されるとガイドの●が+に変わります。

見本曲の音量を BALANCE スライダーを動かして調節しましょう。左に動かすと小さくなります。



メトロノームの音量はTEMPOとBEATを両方押すとディスプレイに数値が表示されますので、VALUEボタンで調節します。

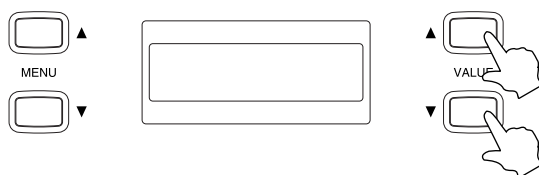


ボリューム = 5

メトロノームを切りたい場合には METRONOME の TEMPO ボタンをオフにします。

テンポを変えたい場合には VALUE (バリュー) ボタン (▲▼) を押します。

元のテンポに戻したい時には▲と▼を同時に押します。



□操作 2

見本曲に合わせて演奏します。

見本曲の再生が終了すると自動的に自分の演奏結果に対して次の項目の評価結果が順番にディスプレイに表示されます。

- リズムの傾向 : 全体的に早めのタイミングで演奏されたのか遅めのタイミングで演奏されたのか
- リズムのばらつき : 一定のリズムで弾けなかった音符がどの程度あるか
- 大きなずれ／音抜け : タイミングが大きくずれた音符や弾かなかった音符がどの程度あるか
- ミスタッチ : 音の間違いがどの程度あるか
- タッチのばらつき : タッチの強さがどの程度そろっているか

それぞれの評価項目について、次の評価結果が表示されます。

- リズムの傾向 : パーフェクト！（ハーブの音が演奏されます。）
リズムニノレテイルヨ
スコシハシッテイルヨまたはスコシオクレテイルヨ！
ハシッテイルヨまたはオクレテイルヨ！
- リズムのばらつき : スバラシイ！（ハーブの音が演奏されます。）
セイカクニヒケテイルヨ
スコシムラガアルヨ
ムラガアルヨ

- 大きなずれ／音抜け : 全ての音符の数のうちでタイミングが大きくずれた音符や弾かなかった音符の数
- ミスタッチ : 全ての音符の数のうちで音を間違えた音符の数
- タッチのばらつき : シッカリトヒケテイマス
ソロエテヒキマショウ

■評価にあたっては、

1. 弾かれた音符のタイミングが、弾くべき音符のタイミングの前後32分音符の範囲に入っている音のみが評価の対象となり、その範囲からはずれて弾いた音については下記の「大きなずれ／音抜け」の項目のみで評価対象となります。
2. 弾くべき音符のタイミングの前後32分音符の範囲に入っていた音が全音符数の1/4を超えないと「ハンティフノウ」と表示されます。
また、1/4を超えると途中で再生を止めても評価が行われます。



■これらの評価はあくまで目安としてお考え下さい。

評価の表示が終わると、ゆびのトレーニング画面に戻ります。

4. レコーダーの使い方

1) 録音

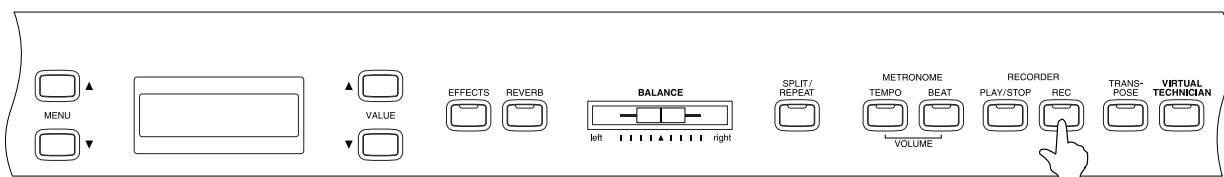
PW9/PW7では、レコーダー機能を使って自分の演奏を5曲（5ソング）まで録音して再生することができます。それぞれの曲（ソング）は、2つのパートから構成されています。

- ① 1つのパートを使って両手の録音、再生をすることができます。
- ② 2つのパートを使えば、右手と左手をそれぞれのパートに別々に録音した後、別々に再生して片手ずつの練習に役立てることができます。両方のパートを合わせて再生することもできます。

◇ 録音するソングとパートの選択

□ 操作 1

^{ロック}
REC ボタンを押します。

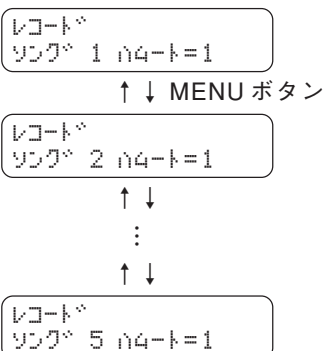
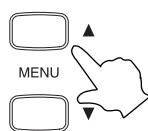


ディスプレイにソングとパートが表示されます。
REC ボタンが点滅します。

レコーダー
ソング 1 パート=1

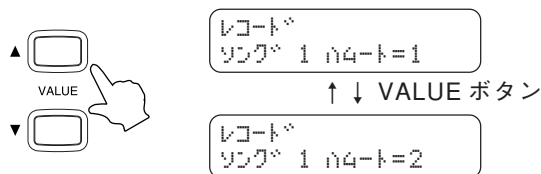
□ 操作 2

^{メニュー}
MENU ボタンを押して録音したいソングを設定します。



□操作 3

VALUE ボタンを押して録音したいパートを設定します。



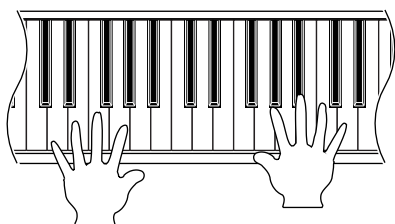
既に録音されているパートには、2行目右に*マークが付いています。

レコード*
ソング* 1 パート=1*

このパートに録音すると、以前まであった演奏データが
消去されて新しい演奏データが記憶されます。

□操作 4

鍵盤を弾いて録音をスタートします。



鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
このとき、REC ボタンと PLAY/STOP ボタンのランプが
点灯します。

PLAY/STOP ボタンを押しても録音を開始できます。
録音中の音色変更も記憶されます。

□操作 5

演奏が終わったら ^{プレイストップ}PLAY/STOP ボタンを押して録音を終了します。

PLAY/STOP ボタンと REC ボタンが消灯し録音が停止します。
ディスプレイは、録音停止を表示した後、自動的に再生待機状態の表示になります。

レコード* ストップ
ソング* 1 パート=1 → プレイ
ソング* 1 パート=1&2*

■レコーダーの総記憶容量は、約 15,000 音です。録音中に記憶容量が一杯になったときは、PLAY/STOP ボタンと REC ボタンが消灯し、録音が中止されます。中止される直前までの演奏は録音されます。

■レコーダーに記憶した内容は、本体の電源を切っても消えません。

■パート1に既に録音されているソングのパート2に録音するとき、パート1の演奏を再生しないでパート2に録音したいときは、REC ボタンを押す前にPLAY/STOP ボタンを押し、VALUE ボタンを押してプレイパートを2に設定します。

■録音中のパネル操作に関して ...

- 音色変更は記憶されます。
- デュアルスプリットモードの移行は記憶されます。
- エフェクト設定の変更は記憶されず、パネルで選ばれている音色に、選択されているエフェクトがそのまま使われます。
- テンポ変更は記憶されません。
- デュアルスプリットバランスの変更は記憶されません。録音直前のバランスで記憶されます。
- タッチカーブ、トランスポーズボタンの ON/OFF 変更は、記憶されません。
再生時はトランスポーズがどこに設定してあっても、録音したときと同じ音高で再生されます。

2) 再生

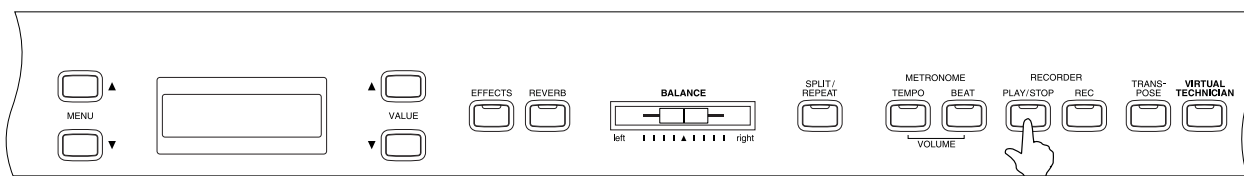
録音した曲を再生します。

録音直後に再生する場合は、操作2より行ってください。

□操作 1

プレイ/ストップ

PLAY/STOP ボタンを押します。



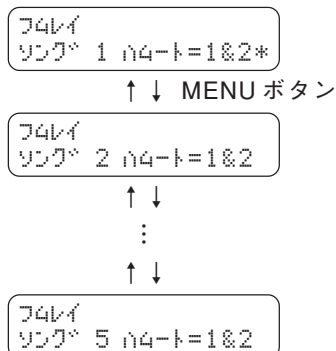
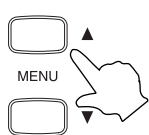
現在選択されているソングとパートが表示され、再生待機状態となります。

フ4レイ
ソング* 1 ハ4-ト=1&2*

□操作 2

メニュー

MENU ボタンを押して目的のソングを設定します。



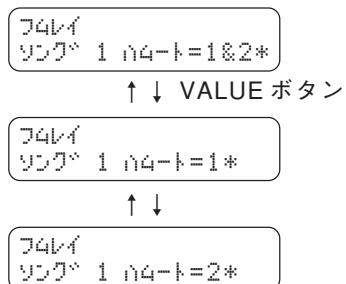
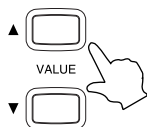
既に録音されているパートには、右下隅に*マークが付いています。

フ4レイ
ソング* 1 ハ4-ト=1&2*

□操作 3

バリュー

VALUE ボタンを押して目的のパートを設定します。



ハ°-ト 1 & 2 : パート1と2を再生
ハ°-ト 1 : パート1のみ再生
ハ°-ト 2 : パート2のみ再生

□操作 4

再度、^{プレイ/ストップ}PLAY/STOP ボタンを押し再生を開始します。

□操作 5

演奏を停止するには、^{プレイ/ストップ}PLAY/STOP ボタンを押します。

再生待機状態となります。

ここで次の曲とパートを選択することができます。

□操作 6

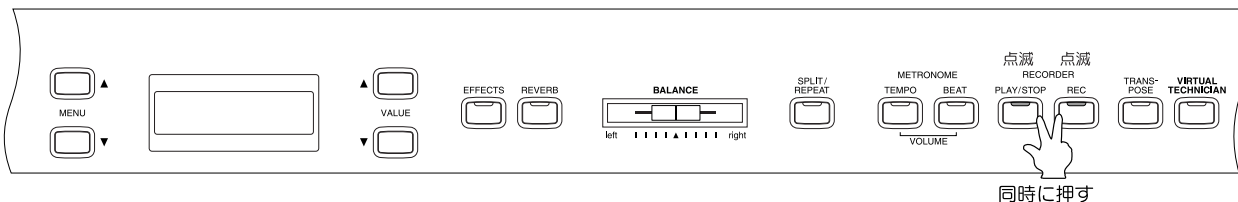
音色ボタンを押すと通常の状態に戻ります。

3) パートのデータの消去

ここでは、録音に失敗したり、いらなくなった曲を1パートずつ消去します。

□操作 1

^{プレイ/ストップ}PLAY/STOP ボタンと^{レック}REC ボタンを同時に押します。

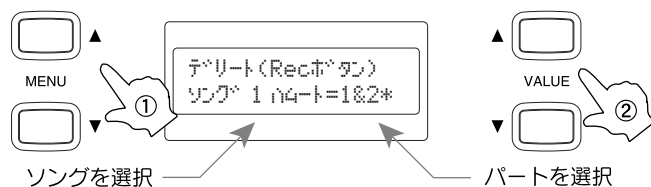


PLAY/STOP ボタンと REC ボタンのランプが点滅します。

データリット (Recボタン)
ソング 1 パート=1&2*

□操作 2

^{メニュー}MENU ボタンを押してソングを、^{バリュー}VALUE ボタンを押してパートを選びます。

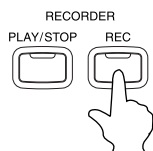


ソングを選択

パートを選択

□操作 3

^{レック} REC ボタンを押すと確認のメッセージが表示されます。



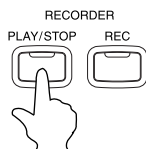
OK? (Recボタン)
ソング 1 パート=1&2*

□操作 4

再度^{レック} REC ボタンを押すとパートのデータが消去されます。

データ リート コンフデータ
ソング 1 パート=1&2*

※操作 3 で消去を中止する場合は、^{プレイストップ} PLAY/STOP ボタンを押します。

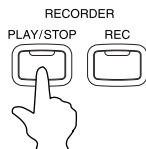


データ リート キャンセル
ソング 1 パート=1&2*



データ リート (Recボタン)
ソング 1 パート=1&2*

さらに PLAY/STOP ボタンを押すと、ディスプレイは再生時の表示となります。



プレイ
ソング 1 パート=1&2*

■複数のソング/パートを消去するときは、繰り返し操作を行ってください。

■録音されているすべてのソングを消去したい場合は、PLAY/STOP ボタンと REC ボタンを押しながら、電源を入れてください。

5. バーチャルテクニシヤンの使い方

ピアノ調律師は、アコースティックピアノには、欠くことができません。

調律師は、調律/整調/整音作業により、ピアニストの趣好に合わせてピアノの調整をします。

バーチャルテクニシヤンは、これらの作業を電子的にシミュレートし、演奏者の好みに近いピアノに調整することができます。

1) ボイシング

2) ダンパーエフェクト

3) スtringレゾナンス

4) タッチカーブ

5) 音律の設定

6) 音律の主音の設定

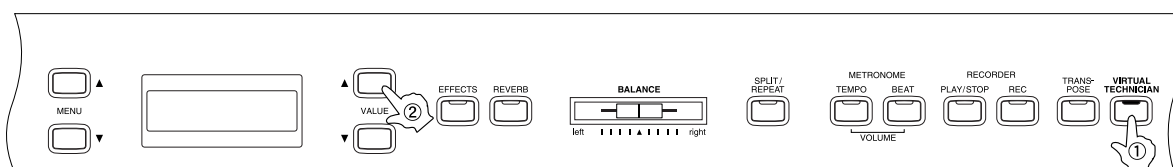
7) ストレッチチューニング

(音律が平均律(ピアノ)、平均律の時のみ)

8) ピアノアンビエンス (PW9のみ)

1) ボイシング

アコースティックピアノにおける、弦を叩くハンマーの状態をシミュレートしたもので、6種類のハンマータイプが選べます。



□操作 1

バーチャル テクニシヤン
VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押して、
ボイシングの画面を表示します。

1 ボイシング
= ノーマル

□操作 2

バリュ
VALUE ボタンで [ノーマル/メロウ1/メロウ2/ダイナミック/ブライト1/ブライト2] の中から設定します。

ディスプレイの2行目にハンマーの種類が表示されます。

- ノーマル : 通常の設定です。
- メロウ1,2 : やわらかめのハンマーをシミュレートしたソフトな音色になります。
(メロウ2の方がよりやわらかなハンマーとなります。)
- ダイナミック : タッチの強弱に応じて、ソフトな音色からブライトな音色までダイナミックに変化します。
- ブライト1,2 : 硬めのハンマーをシミュレートしたブライトな音色になります。
(ブライト2の方がより硬いハンマーとなります。)

□操作 3

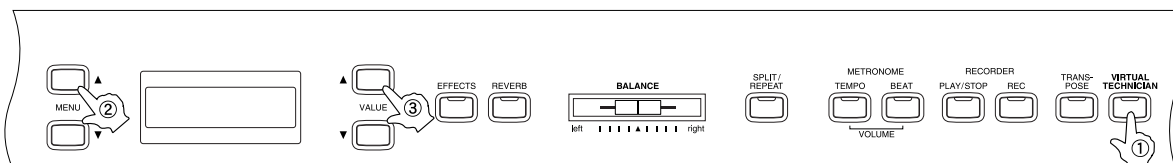
バーチャル テクニシヤン
設定を終えたら、VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押してオフにします。

つづけて、MENU ボタンを押して他の項目の設定をすることもできます。

- 電源オン時は「ノーマル」に設定されます。
(但し、ユーザーメモリー (P.78 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

2) ダンパーエフェクト

ダンパーペダル（P.4 参照）を踏んだときのピアノ全体の共鳴効果をシミュレートしたもので、この共鳴音の音量を設定します。



□操作 1

^{バーチャル}
VIRTUAL ^{テクニシャン}TECHNICIAN ボタンを押した後、^{メニュー}MENU ボタンを数回押してダンパーエフェクトの画面を表示します。

2 ダンパーエフェクト
= 5

□操作 2

^{バリュー}
VALUE ボタンで値 [1～10、オフ] を設定します。

「オフ」の場合、共鳴音はありません。

「1」で最も弱く、「10」で最も強く響きます。

□操作 3

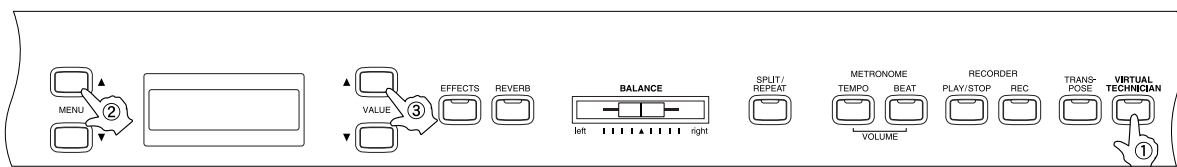
設定を終えたら、^{バーチャル}
VIRTUAL ^{テクニシャン}TECHNICIAN ボタンを押してオフにします。

■電源オン時は「5」に設定されます。（但し、ユーザーメモリー（P.78 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

■ダンパーエフェクトはピアノ音色にのみ効果があります。

3) スtring レゾナンス

ピアノの弦の共鳴効果（String レゾナンス）をシミュレートしたもので、この共鳴音の音量を好みに合わせて変更します。



□ 操作 1

^{バーチャル} ^{テクニシャン} VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押した後、^{メニュー} MENU ボタンを数回押して String レゾナンスの画面を表示します。

3 String レゾナンス
= 5

□ 操作 2

^{バリュー} VALUE ボタンで値 [1～10、オフ] を設定します。

「オフ」の場合、弦の共鳴音はありません。
「1」で最も小さく、「10」で最も大きく鳴ります。

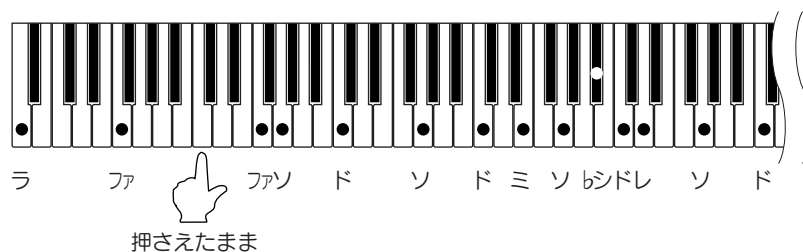
□ 操作 3

設定を終えたら、^{バーチャル} ^{テクニシャン} VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押してオフにします。

■ String レゾナンスとは

ピアノは各鍵盤毎に弦が張られています。
ある鍵盤を押さえた状態で他の鍵盤を弾くと、2つの鍵盤の音程の関係によって弦の共鳴が発生して音が出ます。これが String レゾナンスです。
例えばドの鍵盤を押さえたままの時、下図の鍵盤を弾くとドの鍵盤の弦が共鳴して音が出ます。

（ドの鍵盤をそっと押さえたままにして下図の鍵盤を弾いてすぐに止めると共鳴音が鳴っていることが良くわかります。）



- ピアノではある鍵盤を押さえたままにして隣の鍵盤を弾くと振動が伝わっておさえていた弦が共鳴して音が出ます。PW9/PW7 ではこの現象もシミュレートしています。
- 電源オン時は「5」に設定されます。（但し、ユーザーメモリー（P.78 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）
- ダンパーペダルを踏んだまま弾いた場合は String レゾナンス効果はありません。
- String レゾナンスはピアノ音色にのみ効果があります。

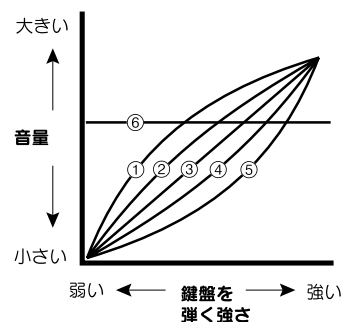
4) タッチカーブ

ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。

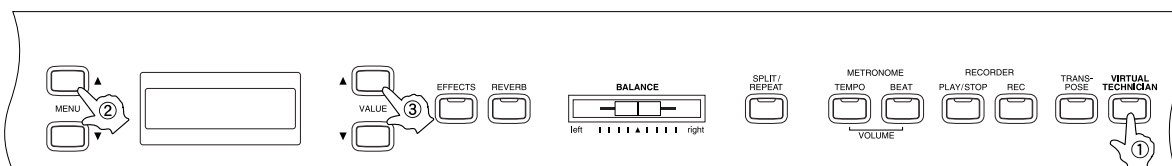
この鍵盤を弾く強さと音量との関係を表したものをタッチカーブと呼びます。

PW9/PW7では、6種類のタッチカーブに加え、演奏する人の力に最も適したタッチカーブを創るユーザータッチカーブ作成機能を搭載しています。

- ①ライト+ : 弱いタッチで弾いても大きな音がでます。
- ②ライト : 小さなお子様や、オルガンプレイヤー向けのタッチカーブです。
- ③ノーマル : アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。
- ④ヘビー : 強いタッチで弾かないと大きな音が出ません。
- ⑤ヘビー+ : 指の力の強い人や練習向けのタッチカーブです。
- ⑥オフ : タッチの強弱に関らず一定の音量で発音します。



- ・ユーザー1 } : ユーザーが入力したタッチによりタッチカーブが作成されます。
- ・ユーザー2 }



□操作 1

バーチャル テクニシャン
VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押した後、MENU ボタンを押してタッチカーブの画面を表示します。

4 タッチカーブ
= ノーマル

□操作 2

バーチャル
VALUE ボタンでタッチカーブを [ヘビー+ / ヘビー / ノーマル / ライト / ライト+ / オフ / ユーザー 1 / ユーザー 2] より選択します。

ディスプレイの2行目に値が表示されます。

■ユーザータッチカーブの設定方法は次ページを参照ください。

□操作 3

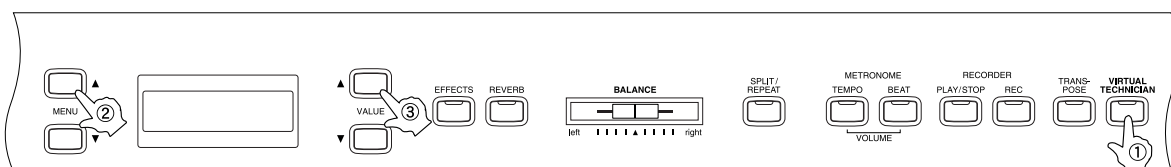
バーチャル テクニシャン
設定を終えたら、VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押してオフにします。

■電源オン時は「ノーマル」に設定されます。

(但し、ユーザーメモリー (P.78 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

◇ ユーザータッチカーブ作成機能の使い方

ユーザータッチカーブ作成機能とは、ユーザーの鍵盤を弾く指の力に合わせて、自動的にタッチカーブを作成する機能です。



□ 操作 1

バーチャル テクニシャン メニュー

VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押した後、MENU ボタンを押してタッチカーブの画面を表示します。
次に VALUE ボタンでタッチカーブをユーザー 1 もしくは 2 に設定します。

4 タリチカーフ[△]
=1-サ[△]-1(Recホ[△]タン)

□操作 2

レック
REC ボタンを押します。

インソウ カイシ
シ^ニ  クタ^ニ > 半  ウタ^ニ

□操作 3

鍵盤を弾きます。

適当な鍵盤を使って弱打から強打まで弾いて下さい。
ディスプレイはREC ボタンを押して数秒たつと次の表示に変わります。

エンソウ シュウリ 舞
ー> ストツフホッタン

演奏が終わったら操作4に進んで下さい。

□操作 4

プレイ/ストップ
PLAY/STOP ボタンを押します。

アナライズ[△]
コンフリクト

上記メッセージが画面に表示されたら完了です。

鍵盤を弾いた指の力に合わせて、タッチカーブが作成され本体に記憶されました。

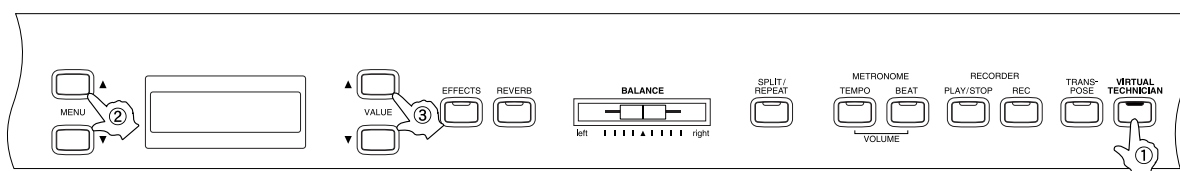
電源をオフにした後も記憶しておきたい場合は、ユーザーメモリー操作 (P.78 参照) を行って下さい。

5) 音律の設定

ピアノの調律法として、最も一般的な平均律だけでなく、ルネッサンス、バロック等の時代に用いられた古典音律を内蔵しています。

本機で設定できる音律は、以下の通りです。

◆ 平均律（ピアノ） (Equal P.only)	ピアノの音色が選択されている場合は、ピアノの調律曲線に従います。それ以外の音色が選択されていれば、平均律（フラット）に従います。
◆ 純正律＜長調＞ (Pure major)	3度と5度のうなりをなくした調律法で、合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行われています。
◆ 純正律＜短調＞ (Pure minor)	純正律は、長調と短調で異なります。 長調と同様の効果を短調でも得られます。
◆ ピタゴラス音律 (Pythagorean)	5度のうなりをなくした調律法で、和音よりもメロディーを演奏すると非常に美しいのが特徴です。
◆ 中全音律 (Meantone)	3度のうなりをなくした調律法で純正律の特徴の5度が著しく不協和であることを改良したもので、平均律よりも和音が美しく響きます。
◆ ヴェルクマイスター第Ⅲ法 (Werkmeister)	調号の少ない調は、和音の美しい中全音律に近く、調号が増えるに従って、緊張感が高く、メロディーが美しいピタゴラス音律に近づけていくもので、古典音楽の作曲家の意図した " 調性の性格 " を反映することのできる調律法です。
◆ キルンベルガー第Ⅲ法 (Kirnberger)	
◆ 平均律（フラット） (Equal Flat)	ピアノの調律曲線を使わない平坦な平均律です。どのように移調しても和音の響きが変わらないという特徴があります。
◆ 平均律 (Equal Stretch)	ピアノの調律曲線を使った平均律です。ピアノの調律法として、最もポピュラーなものです。
◆ ユーザー音律 (USER)	オリジナルの音律を設定できます。



□ 操作 1

バーチャル テクニシャン メニュー VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押した後、MENU ボタンを押して音律の画面を表示します。

5 オンリツ セツテイ
= ハイキンリツ(ヒムアリ)

ディスプレイの2行目に音律名が表示されます。

□ 操作 2

バリュ ュー VALUE ボタンで音律を設定します。

■平均律（ピアノ）

5 オンリツ セツテイ
= ヘイキンリツ(ピアノ)

↑ ↓ VALUE ボタン

■純正律長調

5 オンリツ セツテイ
= シェンセイリツ1

■純正律短調

5 オンリツ セツテイ
= シェンセイリツ2

■ピタゴラス音律

5 オンリツ セツテイ
= ヒメタゴラス

■中全音律

5 オンリツ セツテイ
= チュウゼンオンリツ

■平均律（ストレッチ）

5 オンリツ セツテイ
= ヘイキンリツ

■平均律（フラット）

5 オンリツ セツテイ
= ヘイキンリツ(フラット)

■キルンベルガー第Ⅲ法

5 オンリツ セツテイ
= キルンベルガー

■ヴェルクマイスター第Ⅲ法

5 オンリツ セツテイ
= ヴェルクマイスター

■ユーザー音律

5 オンリツ セツテイ
= ユーザー

■ユーザー音律を設定する場合は、下記の「◇ ユーザー音律の設定方法」を参照ください。

□操作 3

設定を終えたら、^{バーチャル}^{テクニシャン} VIRTUAL TECHNIITIAN ボタンを押してオフにします。

■電源オン時は「平均律（ピアノ）」に設定されます。

（但し、ユーザーメモリーを設定した場合は、その設定に従います。）

◇ ユーザー音律の設定方法

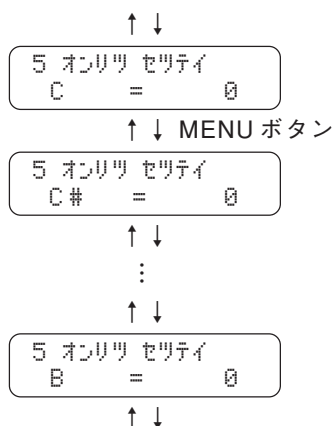
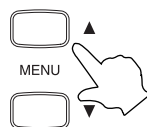
ユーザー音律が選択されたときのみ、この画面が現れます。

ここでは、各音のセント値（100 セント＝半音）が設定できます。

□操作 1

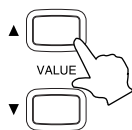
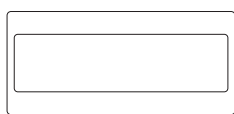
^{メニュー} MENU ボタンを押してセント値設定画面を表示します。

MENU ボタン▲を押す度に各音が表示されます。



□操作 2

VALUE ボタンで [セント値] を設定します。(−50 ~ +50 セント)



5 オンリツ セツテイ
C = +50

↑ ↓ VALUE ボタン

⋮

↑ ↓

5 オンリツ セツテイ
C = 0

↑ ↓

⋮

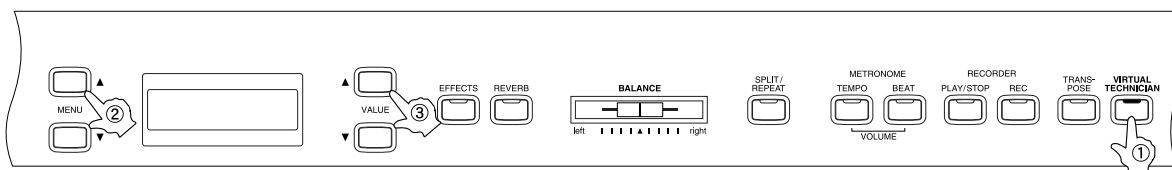
↑ ↓

5 オンリツ セツテイ
C = -50

□操作 3

設定を終えたら、^{バーチャル} ^{テクニシャン} VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押してオフにします。

6) 音律の主音の設定



□操作 1

VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押した後、MENU ボタンを数回押して音律の主音の設定画面を表示させます。

6 オンリツ シュオン
= C

□操作 2

VALUE ボタンで主音を [C ~ B] の間で設定します。

ディスプレイの2行目に主音が表示されます。

平均律（フラット）を選択した場合は、主音の設定をしても変化はありません。

□操作 3

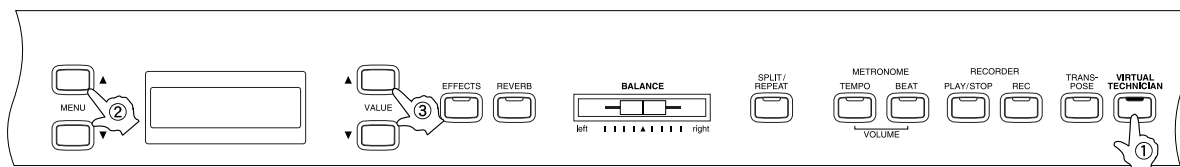
設定を終えたら、^{バーチャル} ^{テクニシャン} VIRTUAL TECHNICIAN ボタンを押してオフにします。

■電源オン時の音律の主音は、「C」に設定されています。

（但し、ユーザーメモリー（P.78 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

7) ストレッチチューニング

ストレッチチューニングとは通常の平均律に比べ低音側は低く、高音側は高くするピアノ特有の調律のことで、PW9/PW7は2種類のストレッチチューニングから選ぶことができます。この機能は音律で平均律（ピアノ）あるいは平均律が選ばれている時のみディスプレイに表示されます。（P.59 参照）



□操作 1

^{バーチャル} VIRTUAL ^{テクニシャン} TECHNICIAN ボタンを押した後、^{メニュー} MENU ボタンを数回押してストレッチチューニングの画面を表示します。

7 ストレッチチューニング
= ノーマル

ディスプレイの2行目にノーマルまたはワイドが表示されます。

□操作 2

^{バリュー} VALUE ボタンで [ノーマル/ワイド] の中から選びます。

「ワイド」にすると低音側はさらに低く、高音側はさらに高くなります。

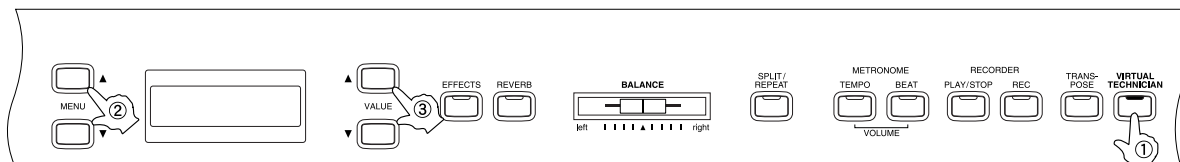
□操作 3

設定を終えたら、^{バーチャル} VIRTUAL ^{テクニシャン} TECHNICIAN ボタンを押してオフにします。

■電源オン時は「ノーマル」に設定されます。（但し、ユーザーメモリー（P.78 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

8) ピアノアンビエンス (PW9 のみ)

ピアノアンビエンスとは、PW9のトップスピーカーから出る音量を調節し音の拡がり感や奥行き感をお好みに応じて変える機能です。



□操作 1

^{バーチャル}
VIRTUAL TECHNICIAN ^{テクニシャン} ボタンを押した後、^{メニュー} MENU ボタンを数回押してピアノアンビエンスの画面を表示します。

8 ピアノ アンビエンス
= 5

ディスプレイの2行目に値が表示されます。

□操作 2

^{バリュー} VALUE ボタンで [1～10/ オフ] を設定します。

「オフ」の場合、トップスピーカーからの音は出なくなります。
「1」で最も小さく、「10」で最も大きくなります。

□操作 3

設定を終えたら、^{バーチャル}
VIRTUAL TECHNICIAN ^{テクニシャン} ボタンを押してオフにします。

■電源オン時は「5」に設定されます。(但し、ユーザーメモリー (P.78 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

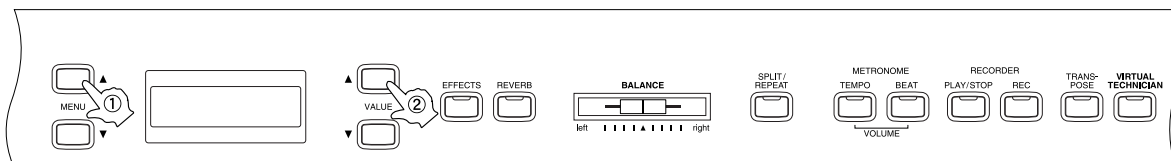
6. 設定モードの使い方

PW9/PW7 は、演奏を楽しむための各種設定をすることができます。
この設定モードでは、以下の設定を行うことができます。

- | | |
|--------------------|---|
| 1) ブリリアンス | 10) ローカルコントロール |
| 2) ロアー オクターブ シフト | 11) プログラム（音色）ナンバー送信のオン/オフ |
| 3) ロアー ペダルのオン/オフ | 12) マルチ ティンバー モード |
| 4) レイヤー オクターブ シフト | 13) チャンネルミュート
（マルチ ティンバー モード、オンの時のみ） |
| 5) レイヤー ダイナミクス | 14) メモリーバックアップ |
| 6) ダンパーホールド | 15) ファクトリー リセット
（メモリーバックアップを行った時のみ） |
| 7) チューニング | 16) 表示言語 |
| 8) MIDI送信・受信チャンネル | |
| 9) プログラム（音色）ナンバー送信 | |

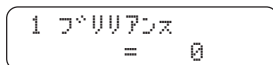
1) ブリリアンス

音色の明るさを調節します。



□操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを押して、ブリリアンスの画面を表示します。



ディスプレイの2行目に値が表示されます。

□操作 2

^{バリュー}
VALUE ボタンで値を [−10 ~ +10] の間で設定します。

値が大きくなるほど音色が明るくなります。

□操作 3

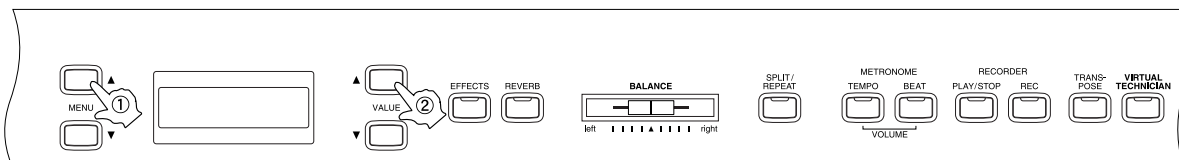
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、「0」に設定されています。

（但し、ユーザーメモリー（P.78 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

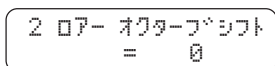
2) ロアーオクターブシフト

ロアー オクターブ シフトとは、スプリット演奏時に低音側鍵盤の音域をオクターブ単位で移動することです。



□操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、ロアー オクターブシフトの画面を表示します。



ディスプレイの2行目に値が表示されます。

□操作 2

^{バリュ-}
VALUE ボタンで値を設定します。

オクターブ値を0～3の範囲で設定します。

□操作 3

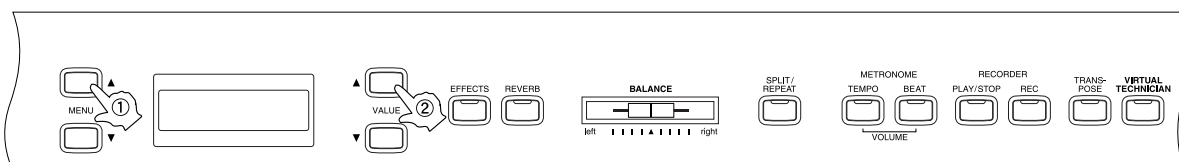
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、「0」に設定されています。

(但し、ユーザーメモリー (P.78 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

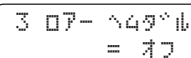
3) ロアー ペダルのオン/オフ

スプリット演奏時にペダルを使用した際、低音側鍵盤の音にペダル機能のオン/オフを設定できます。
高音側鍵盤のペダル機能は常にオンとなります。



□操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、ロアーペダルの画面を表示します。



ディスプレイの2行目にオンまたはオフが表示されます。

□操作 2

^{バリュ-}
VALUE ボタンでオン/オフを設定します。

オンにすると、ペダルを踏んで演奏した際に低音側鍵盤の音にもペダル機能が働きます。
オフに設定すると、低音側鍵盤の音にはペダル機能が働かず、高音側鍵盤の音にのみペダル機能が働きます。

■ただし、ダンパーエフェクト(P.55参照)はロアーペダルのオン／オフの設定にかかわらず働きます。

□操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

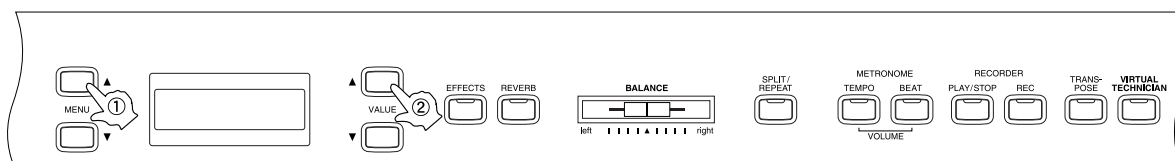
■電源オン時は、「オフ」に設定されています。

(但し、ユーザーメモリー (P.78 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

4) レイヤーオクターブシフト

レイヤーオクターブシフトとはデュアル (P.9 参照) モードで2つの音色を重ねて弾く際に、片側の音色 (レイヤー音色: ディスプレイの2行目に表示されている音色) の音域をオクターブ単位で移動することです。

例えば、コンサートグランドピアノとストリングアンサンブルをデュアルで重ねて演奏する時に、ストリングアンサンブルの音色だけをオクターブ上げて (あるいは下げて) 演奏することができます。



□操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、レイヤーオクターブシフトの画面を表示します。

4 レイヤーオクターブシフト
= 0

ディスプレイの2行目に値が表示されます。

□操作 2

^{バリュー}
VALUE ボタンで値を設定します。

オクターブ値を -2 ~ 2 の範囲で設定します。

ーにするとオクターブ下がります。

デュアルモードでディスプレイの2行目に表示されている音色のオクターブが変わります。

■音色によっては高音域の音が設定したオクターブまで上がらない場合があります。

□操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

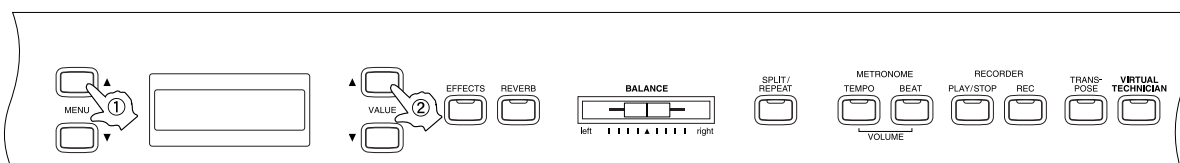
■電源オン時は、「0」に設定されています。

(但し、ユーザーメモリー (P.78 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

5) レイヤー ダイナミクス

レイヤーダイナミクスとはデュアル（P.9 参照）モードで2つの音色を重ねて弾く際に、片側の音色（レイヤー音色：ディスプレイの2行目に表示されている音色）のタッチ変化の仕方を調整することです。

例えば、コンサートグランドピアノとストリングアンサンブルをデュアルで重ねて演奏する時に、通常の設定では、どちらの音色も同じように強弱が変化しますが、ストリングアンサンブルのタッチ変化の度合いを少なくすることにより、ダイナミックなピアノ音色をより強調した演奏をすることができます。



□ 操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、レイヤー ダイナミクスの画面を表示します。

5 レイヤーダイナミクス
= 10

ディスプレイの2行目に値が表示されます。

□ 操作 2

^{バリュ}
VALUE ボタンで値を設定します。

ダイナミクスの値を1～10の範囲で設定します。

数字が小さいほどタッチ変化の幅が小さくなります。10は単独で演奏した場合と同じダイナミクスになります。

□ 操作 3

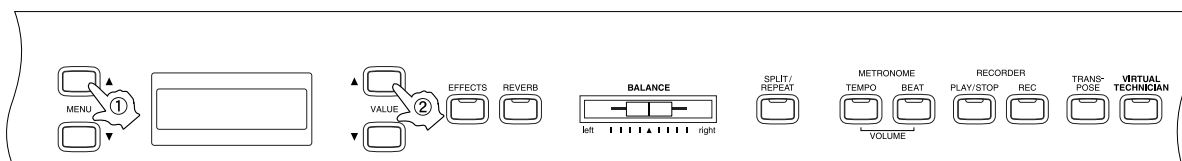
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、「10」に設定されています。

（但し、ユーザーメモリー（P.78 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

6) ダンパーホールドのオン/オフ

ダンパーホールドとは、ストリングアンサンブルのような持続音色（鍵盤を押しつづけている間鳴りつづける音色）に対して、ダンパーペダルを踏んで鍵盤を弾いた時に、鍵盤から手を離れた後も音を持続させる機能です。



□操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、ダンパーホールドの画面を表示します。

6 ダンパーホールド
= オフ

ディスプレイの2行目にオンまたはオフが表示されます。

□操作 2

^{バリュウ}
VALUE ボタンでオン/オフを選びます。

オンにするとダンパーペダルを踏んで持続音色を弾いた時に、鍵盤から手を離れた後も音が持続します。
オフにするとダンパーペダルを踏んで持続音色を弾いた時に、鍵盤から手を離れた後、音が減衰します。

□操作 3

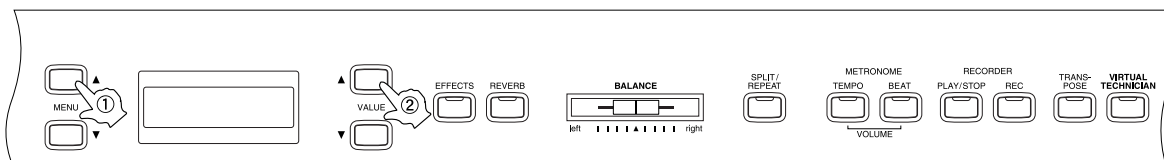
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、「オフ」に設定されています。

（但し、ユーザーメモリー（P.78 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

7) チューニング

チューニングは、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。



□操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、チューニングの画面を表示します。

7 チューニング*
= 440.0

ディスプレイの2行目に値が表示されます。

□操作 2

^{バリュ-}
VALUE ボタンでピッチを [427.0 ~ 453.0 (Hz)] の間で設定します。

VALUE ボタンを押す度に 0.5 の単位で値を設定できます。

□操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

- 電源オン時は、「440.0Hz」に設定されています。
(但し、ユーザーメモリー (P.78 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

◇ MIDI について

MIDI について簡単に説明します。

MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interface の略称で、シンセサイザーやシーケンサーなどの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするための世界統一規格です。

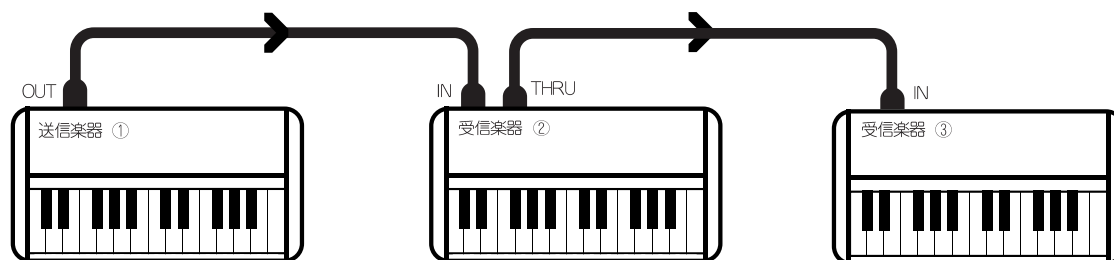
MIDI 端子には、IN、OUT、THRU の 3 つの種類があります。いずれも MIDI 専用ケーブルで接続します。

- IN : 鍵盤情報や音色情報を受信します。
- OUT : 鍵盤情報や音色情報を送信します。
- THRU : 受信した情報をそのまま他の楽器に転送します。

MIDI には、チャンネルというものがあります。チャンネルには、受信チャンネルと送信チャンネルの 2 種類があり、通常の場合、MIDI 機能をもった楽器はこの両者を備えています。

受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

例えば 3 台の楽器を次のように接続して演奏するとします。



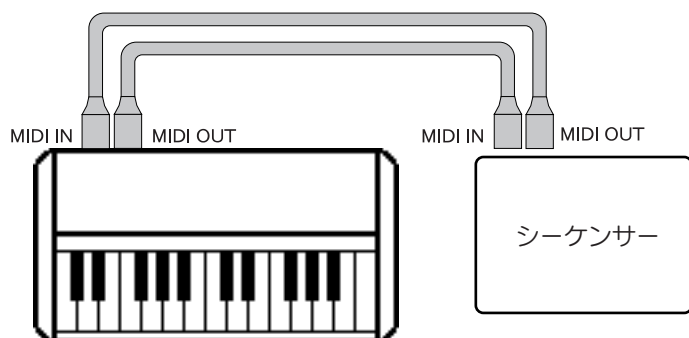
送信楽器①は、送信チャンネルと共に鍵盤情報等を受信楽器②、③に送ります。

受信楽器②、③には、この情報が送られて来ます。基本的には 受信楽器②、③の受信チャンネルと送信楽器①の送信チャンネルが一致していれば、送られた情報を受け取りますが、一致していなければ受け取らないということになります。

チャンネル番号は、送信、受信とも 1 ～ 16 までの番号を使用することが出来ます。

◆ MIDI の使用例

◆ シーケンサーを使っでの録音 / 再生



図の様にシーケンサーに接続すれば、PW9/PW7の演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができます。また、PW9/PW7の設定をマルチティンバーオン（P.77 参照）にして録音 / 再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラフォンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。

◆ PW9/PW7 の MIDI 機能

PW9/PW7 の MIDI 機能は、以下の通りです。

◆ 鍵盤情報の送信・受信

PW9/PW7 を弾いて MIDI で接続したシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

◆ 送信・受信チャンネルの設定

送信受信チャンネルを 1 ～ 16 の範囲で設定することができます。

◆ プログラム（音色）ナンバーの送信

PW9/PW7 を弾いて MIDI で接続したシンセサイザーの音色を変えたり、その逆が可能です。

◆ ペダル情報の送信・受信

ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルのオン / オフ情報の送信・受信ができます。

◆ ボリューム情報の受信

シンセサイザー等を弾いて、PW9/PW7 の音を出しているとき、シンセサイザーで PW9/PW7 の音量をコントロールすることができます。

◆ マルチティンバーの設定

PW9/PW7 が受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことができます。

◆ エクススクルーシブデータの送信・受信

フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクススクルーシブデータとして送信受信ができます。

◆ レコーダーの再生情報の送信

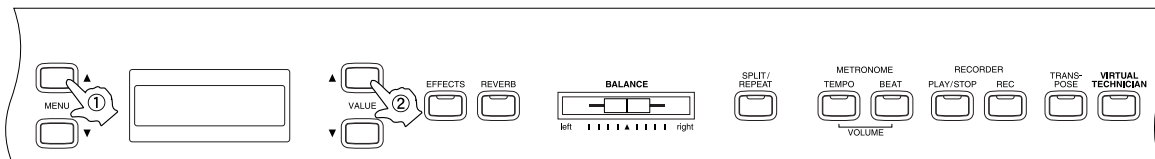
レコーダーに録音した演奏を、MIDI で接続した電子楽器で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。

PW9/PW7 の MIDI 機能についての詳細は、" MIDI インプリメンテーションチャート "（P.93）をご覧ください。

8) MIDI 送信・受信チャンネル

接続された MIDI 楽器とさまざまな情報をやりとりするために楽器同士のチャンネルを合わせておく必要があります。

チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの 2 種類がありますが、PW9/PW7 では送受信を別々のチャンネルに設定することはできません。1 つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。



□操作 1

^{メニュー}MENU ボタンを数回押して、^{ミディ}MIDI チャンネルの画面を表示します。

8 MIDI チャンネル
= 1 (ソウジ 133)

ディスプレイの 2 行目にチャンネルの値が表示されます。

□操作 2

^{バリュ}VALUE ボタンで値を [1 ~ 16] の間で設定します。

□操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■ PW9/PW7 は電源オン時には、1 ~ 16 のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になっています。これをオムニオンと呼びます。チャンネル設定を行うとオムニオフとなり、設定したチャンネルのみで受信ようになります。オムニオフで 1ch に設定したい場合は、一度チャンネルを 2 に設定してから 1 に戻してください。

■ マルチティンバーモードが、オン (P.77 参照) のとき

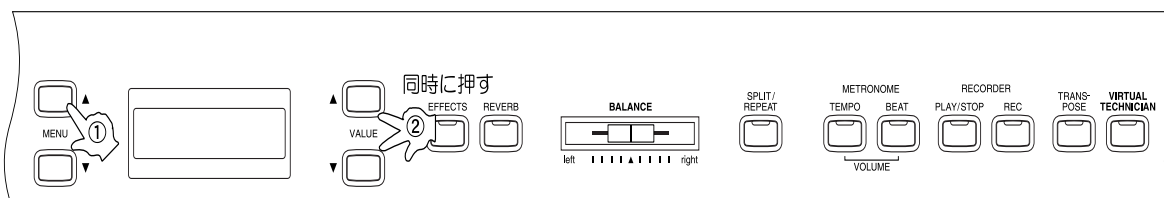
スプリット演奏時 : 低音側の演奏は、ここで設定したチャンネル+1 チャンネルで送信します。
例えばここでチャンネルを 3 に設定してマルチティンバーをオンにしたとき、スプリット演奏の低音側の音色の演奏は、4 チャンネルで送信されます。

デュアル演奏時 : 第 2 音色は、設定したチャンネル+1 チャンネルで送信します。

(但し、チャンネルを 16 に設定した場合は、1 チャンネルで送信します。)

9) プログラム（音色）ナンバー送信

PW9/PW7 では、1～128 までのプログラムナンバーを送信することができます。



□操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、プログラムナンバー送信の画面を表示します。

```
9 プログラム#ソウシ
= 1 (UP+DOWN)
```

ディスプレイの2行目にプログラムナンバーが表示されます。

□操作 2

^{バリュ}
VALUE ボタンで送信する値を [1～128] の間で設定します。

□操作 3

^{バリュ}
2つのVALUEボタン（▲▼）を同時に押すとプログラムナンバーの送信が実行されます。

□操作 4

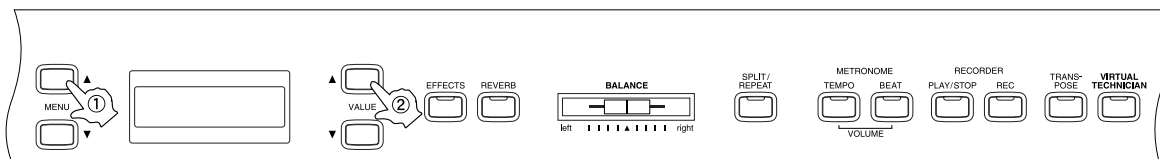
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

10) ローカルコントロール

このモードは、本体の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかを設定するモードで、ローカルコントロールオン/オフモードと呼びます。

ローカルコントロールがオンの時は、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。

一方、ローカルコントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても音は鳴らず MIDI 情報を送信するだけで、MIDI 情報を受信したときのみ音が鳴ります。



□操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、ローカルコントロールの画面を表示します。

10 ローカルコントロール
= オン

ディスプレイの2行目にオンまたはオフが表示されます。

□操作 2

^{バリュー}
VALUE ボタンで値 [オン/オフ] を設定します。

□操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、「オン」に設定されています。

(但し、ユーザーメモリー (P.78 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

11) プログラム（音色）ナンバー送信のオン/オフ

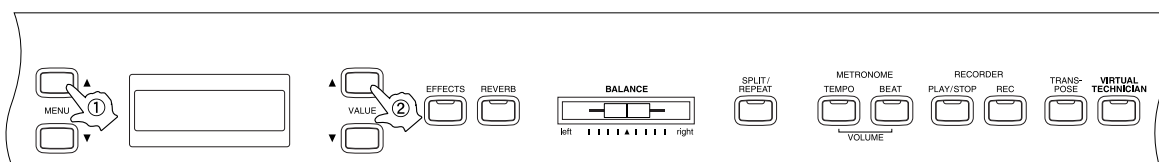
◇ 音色ボタンによるプログラムナンバーの送信 / パネル操作の送信

PW9/PW7では、音色を切り替えることにより、次ページ表左側（マルチティンバーオフ、オン1の時）のプログラムナンバーを送信します。

（マルチティンバーモードをオンに設定したときは、次ページ右側（マルチティンバーオン2の時）のプログラムナンバーを送信します。）

また音色ボタン以外にも、タッチカーブ、デュアル、デジタルエフェクト、リバーブのボタン操作を MIDI エクスクルーシブデータとして送信することができます。

この音色ボタンによるプログラムナンバーの送信やパネル操作の送信は、次の方法により送信するか、しないかオン/オフを設定することができます。



■マルチティンバーモードは 77 ページを参照して下さい。

□操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、トランス プログラムの画面を表示します。

11 トランスプログラム
= オン

ディスプレイの 2 行目にオンまたはオフが表示されます。

□操作 2

VALUE ボタンで値 [オン/オフ] を設定します。

□操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

■電源オン時は、プログラムナンバーの送信は「オン」に設定されます。
（但し、ユーザーメモリー（P.78 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

■デュアル/スプリットモード時には、デュアル/スプリット各モードのオン/オフ情報、音色の設定などをエクスクルーシブで送信しますが、プログラムナンバーは送信しません。
マルチティンバーモードがオンのときは、プログラムナンバーも送信します。

■音色に対応する送受信プログラムナンバー

() の音色は、PW9のみの音色です。

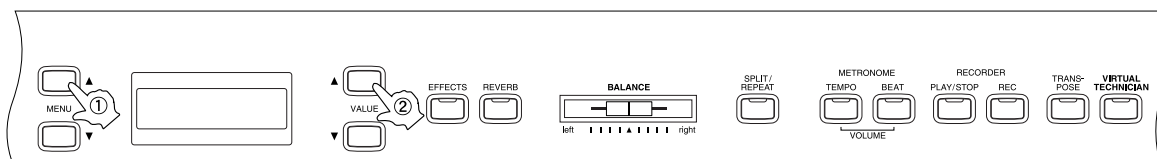
[] は、PW7のナンバーです。

音 色	マルチティンバーオフ、オン1の時		マルチティンバーオン2の時		
	プログラムナンバー		プログラムナンバー	バンク	
				MSB	LSB
● PIANO1					
コンサートグランド1	1	[1]	1	121	0
(スタジオグランド1)	2		1	121	1
メローグランド1	3	[2]	1	121	2
ブライトピアノ	4	[3]	2	121	0
● PIANO2					
コンサートグランド2	5	[4]	1	95	16
(スタジオグランド2)	6		1	95	17
メローグランド2	7	[5]	1	95	18
ロックピアノ	8	[6]	2	121	1
● ELECTRIC PIANO					
エレクトリックピアノ1	9	[7]	5	121	0
エレクトリックピアノ2	10	[8]	6	121	0
エレクトリックピアノ3	11	[9]	6	121	2
(60' s エレクトリックピアノ)	12		5	121	3
● JAZZ ORGAN					
ジャズオルガン1	13	[10]	18	121	0
ジャズオルガン2	14	[11]	17	121	0
ジャズオルガン3	15	[12]	17	121	1
(ジャズオルガン4)	16		18	95	13
● CHURCH ORGAN					
チャーチオルガン1	17	[13]	20	121	0
チャーチオルガン2	18	[14]	20	95	7
チャーチオルガン3	19	[15]	21	95	1
(チャーチオルガン4)	20		20	95	23
● HARPSI & MALLETS					
ハーブシコード	21	[16]	7	121	0
オクターブハーブシコード	22	[17]	7	121	1
ビブラフォン	23	[18]	12	121	0
(マリンバ)	24		13	121	0
● STRINGS					
ストリングアンサンブル	25	[19]	49	121	0
スロースtringス	26	[20]	45	95	1
シンセストリングス	27	[21]	49	95	8
(スモールストリングス)	28		49	95	13
● CHOIR					
クワイア	29	[22]	53	121	0
ジャズボーカル	30	[23]	54	95	2
スロークワイア	31	[24]	53	95	2
(ブレスクワイア)	32		53	95	1
● FANTASY					
ファンタジー1	33	[25]	89	121	0
ファンタジー2	34	[26]	100	121	0
ファンタジッククワイア	35	[27]	92	121	1
(ファンタジー3)	36		101	95	1
● BASS & GUITAR					
ウッドベース	37	[28]	33	121	0
ベース&シンバル	38	[29]	33	95	1
エレクトリックベース	39	[30]	34	121	0
バラードギター	40	[31]	26	95	6
ピックナイロンギター	41	[32]	25	95	3

12) マルチ ティンバーモード

通常は、前述の方法で設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか1つ）で情報を送受信しますが、マルチ ティンバー モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。（受信プログラムナンバーに対応した音色は、前ページの表を参照ください。）

この機能により、外部にシーケンサーを使って、PW9/PW7 1台で複数の音色（マルチティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。



□操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、マルチティンバーの画面を表示します。

12 マルチティンバー
= オフ

ディスプレイの2行目にオン、オフ1またはオン2が表示されます。

□操作 2

^{バリュウ}
VALUE ボタンで値 [オフ/オン1/オン2] を設定します。

マルチティンバーモード がオフ、オン1の時にプログラムナンバーを受信すると、前ページの表左側のプログラムナンバーに対応した音色が選ばれます。

マルチティンバーモード がオン2の時にプログラムナンバーを受信すると前ページの表右側のプログラムナンバーとバンクナンバーに対応した音色が選ばれます。

また、受信チャンネルごとに発音のオン/オフを設定することができます。（チャンネルミュート P.78 参照）

□操作 3

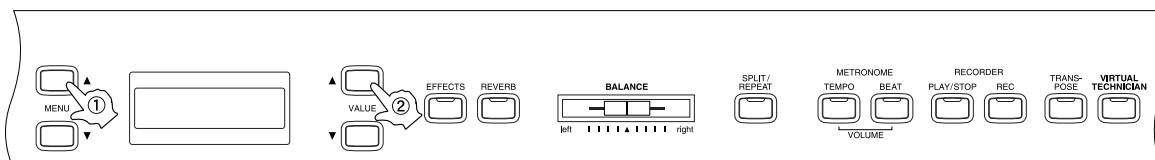
設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

- 電源オン時は、マルチ ティンバー モードは「オフ」に設定されています。
（但し、ユーザーメモリー（P.78 参照）を設定した場合は、その設定に従います。）

- マルチ ティンバー モードがオンのとき、スプリット演奏中でも各受信チャンネルの音色は全てフルスケールで鳴ります。

13) チャンネルミュート

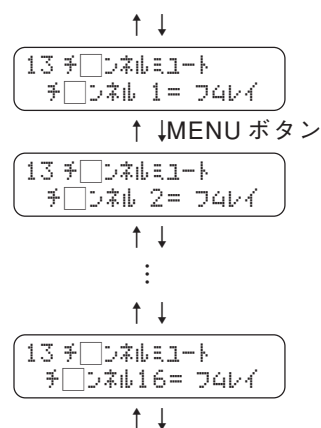
マルチティンバーモードがオンのときのみ、この画面が表示されます。
ここでは、各チャンネルのプレイ/ミュートが設定できます。



□操作 1

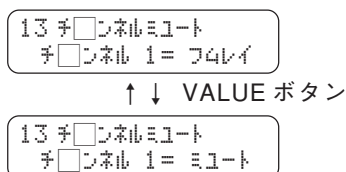
^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、チャンネルミュートの画面を表示します。

MENU ボタンを押す度にチャンネルナンバーが表示されます。



□操作 2

^{バリュー}
VALUE ボタンで [プレイ/ミュート] を設定します。



□操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

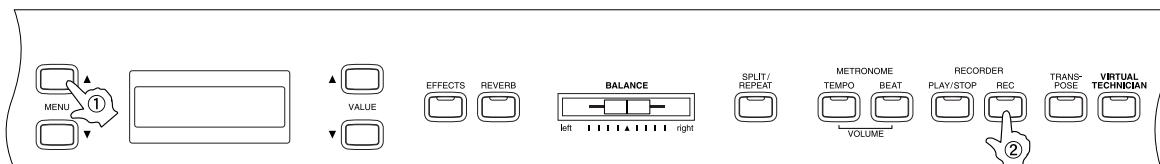
■電源オン時は、1ch は「オン」に、2～16ch は「オフ」に設定されています。
(但し、ユーザーメモリー (P.78 参照) を設定した場合は、その設定に従います。)

14) ユーザー メモリー

ここでは、自分の好みの設定を記憶させ、電源を入れなおしてもその設定で演奏することができます。

記憶する内容は右の通りです。

- ◆ ユーザー メモリー実行時に選択されている音色
- ◆ ユーザー メモリー実行時の各音色ごとのエフェクトセッティング
- ◆ 設定モードで設定した内容
- ◆ バーチャルテクニシャンモードで設定した内容
- ◆ トランスポーズ
- ◆ メトロノームのテンポ、拍子、ボリューム



□操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、ユーザー メモリーの画面を表示します。

14 ユーザー メモリー
セーブ (Recボタン)

□操作 2

^{レック}
REC ボタンを押して実行します。

14 ユーザー メモリー
セーブ コンフリート

ディスプレイに、『セーブ コンフリート』と表示され、完了します。

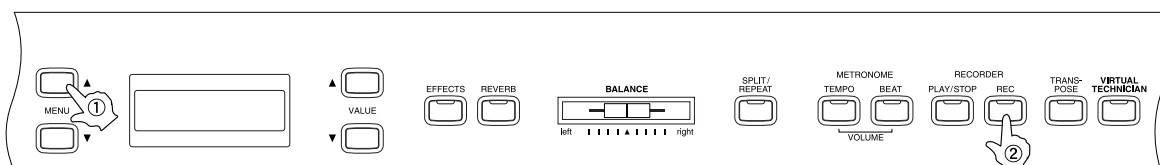
□操作 3

設定を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

15) ファクトリー リセット

ユーザー メモリーを行ったときのみ、この画面が現れます。

ここでは、ユーザーメモリーで設定した内容を全て消去し、購入時の設定に戻すことができます。



□操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、ファクトリー リセットの画面を表示します。

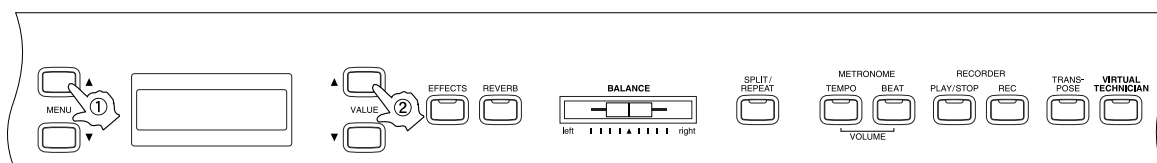
15 ファクトリー リセット
リセット (Recボタン)

□操作 2

^{レック}
REC ボタンを押すとファクトリー リセットされ、設定モードから抜けます。

16) 表示言語

ディスプレイに表示される言語を、日本語と英語の2言語より選択できます。



□ 操作 1

^{メニュー}
MENU ボタンを数回押して、表示言語の画面を表示します。

16 ヒールウシケンゴ
= ニホンゴ

ディスプレイの2行目に言語が表示されます。

□ 操作 2

^{バリュー}
VALUE ボタンで日本語か英語を選択します。

□ 操作 3

選択を終えたら、いずれかの音色ボタンを押して設定モードから抜けます。

7. Pfunの使い方

Pfun とは、J-POP の曲をバックバンド付きのピアノ曲にアレンジした別売の「Pfun ピアノ曲集」の音楽データを PW9/PW7 に入れて練習する機能です。

パートのミュート機能を使って伴奏をバックに演奏したり、ジャンプ機能により好きな場所から演奏して楽しむこともできます。

Pfun ピアノ曲はアレンジのクオリティーが高いので、聴くだけでも楽しめます。

PW9/PW7 で Pfun を楽しむには、

1. 別売の Pfun ピアノ曲集（曲データ CD 付き）

2. パーソナルコンピューター

が必要となります。詳細は付属の「楽譜集のご案内」をご覧ください。

また、市販の SMF（スタンダード MIDI ファイル）データも入れることができます。この場合はピアノパートのみを再生して聴くことができます。

◇ Pfun 曲を選ぶ

□ 操作 1

ピーファン

Pfun ピアノ曲集に付属している取扱説明書に従って音楽データを PW9/PW7 に入れます。

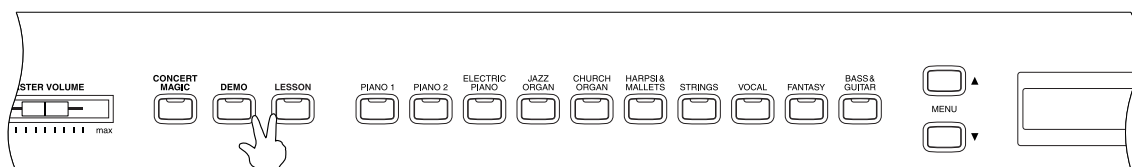
■取扱説明書「Pfun ピアノ曲データ追加アプリケーション「Pfun Updater」のインストールと操作方法（PW9/PW7 用）」

□ 操作 2

デモ

レッスン

DEMO ボタンと LESSON ボタンを同時に押します。



同時に押す

Pfun / ソノタ モード
ソング = 1 Pfun

Pfun 曲の場合には「Pfun」、SMF の場合には「ソノタ」とディスプレイに表示されます。

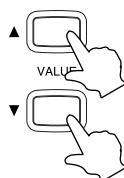
■曲が入っていない場合は、「ソングガハイッテイマセン」と表示されます。

■曲名は表示されません。

□ 操作 3

バリュー

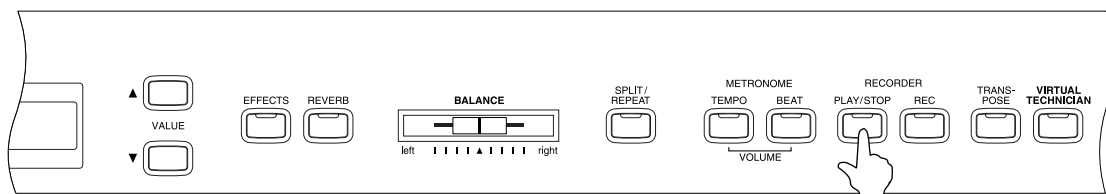
VALUE ボタン (▼▲) を押して曲を選びます。



◇ Pfun 曲を聴く

□ 操作 1

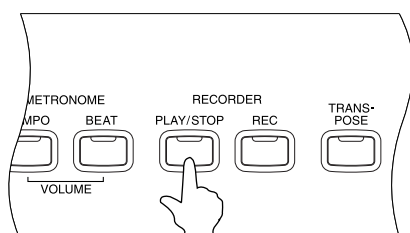
曲を選んだ後、RECORDER の ^{レコーダー}PLAY/STOP ^{プレイ/ストップ} ボタンを押します。



ボタンが点灯し、曲の再生が始まります。音色はピアノが選ばれます。

□ 操作 2

もう一度 RECORDER の ^{レコーダー}PLAY/STOP ^{プレイ/ストップ} ボタンを押します。



ボタンが消灯し、曲の再生が止まり最初に戻ります。

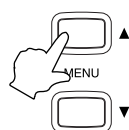
★以下は Pfun ピアノ曲の場合の使い方です。

◇ Pfun 曲と合奏する

ピアノパートをミュート（消す）してバックバンドに合わせて演奏することができます。

□ 操作 1

曲を選んだ後、MENU ^{メニュー} ボタンの▲を押します。

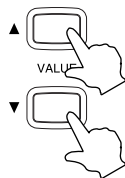


Pfun ヲンク°
ミュート4-ト = オフ

ディスプレイがミュート画面を表示します。

□操作 2

^{バリュ-}VALUE ボタン (▲▼) を押して、[ミュートパート=ピアノ] を選びます。



ミュートパート=伴奏の場合

伴奏パートがミュートされ、ピアノパートをはっきり聴くことができます。

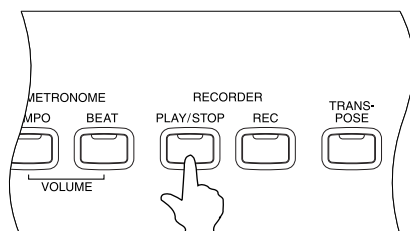
ミュートパート=オフの場合

どちらのパートもミュートされません。

曲選択画面に戻るには MENU ボタンの▼を 1 回押すか、▲を 4 回押します。

□操作 3

^{レコーダー}RECORDER の ^{プレイ/ストップ}PLAY/STOP ボタンを押します。



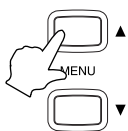
ボタンが点灯し、曲の再生が始まりますので、伴奏に合わせてピアノを演奏します。

◇指定したポイントから再生する

Pfun ピアノ曲では、1 曲をいくつかの小節で区切るジャンプポイントがあらかじめ設定されています。ジャンプポイントを指定して再生することで、途中から繰り返し聴いたり、練習することができます。ジャンプポイントの小節は Pfun ピアノ曲集の楽譜に記載されています。

□操作 1

曲を選んだ後、^{メニュー}MENU ボタンの▲を 2 回押します。

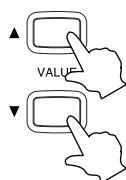


Pfun ソング
シ*□ンフ4 = オフ

ディスプレイがジャンプ画面を表示します。

□操作 2

VALUE ボタン (▲▼) を押して、ジャンプポイントを選びます。

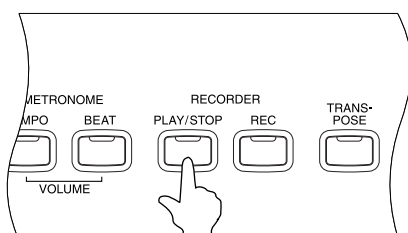


曲を再生した後、▲と▼を同時に押すとジャンプポイントに戻ります。

曲選択画面に戻るには MENU ボタンの▼を 2 回押すか、▲を 3 回押します。

□操作 3

RECORDER の ^{レコーダー}PLAY/STOP ^{プレイ/ストップ} ボタンを押します。



ボタンが点灯し、指定したポイントから曲の再生が始まり、終わりまで再生するとジャンプポイントに戻って繰り返します。

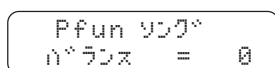
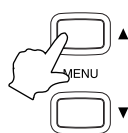
■ジャンプを解除するには操作 2 でオフを選びます。

◇鍵盤と伴奏の音量バランスを調節する

鍵盤及びピアノパートと伴奏パートの音量バランスを調節することができます。

□操作 1

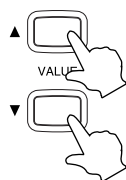
曲を選んだ後、MENU ボタンの ^{メニュー}▲を 3 回押します。



ディスプレイがバランス画面を表示します。

□操作 2

VALUE ボタン (▲▼) を押します。



-5 ～ +5 の範囲で調節可能です。

+にすると伴奏パートの音量が下がり、-にすると鍵盤およびピアノパートの音量が下がります。

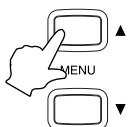
曲選択画面に戻るには MENU ボタンの▼を 4 回押すか、▲を 1 回押します。

◇テンポを変える

Pfun 曲のテンポを変えることができます。

□操作 1

曲を選んだ後、MENU ボタンの▲を 4 回押します。

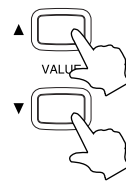


Pfun ソング
テンポ = 120

ディスプレイがテンポ画面を表示します。

□操作 2

VALUE ボタン (▲▼) を押して、テンポを調節します。

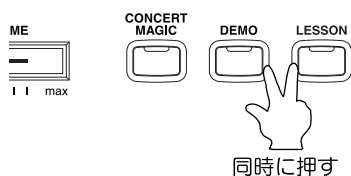


曲選択画面に戻るには MENU ボタンの▼を 4 回押すか、▲を 1 回押します。

◇Pfun を終了する

□操作 1

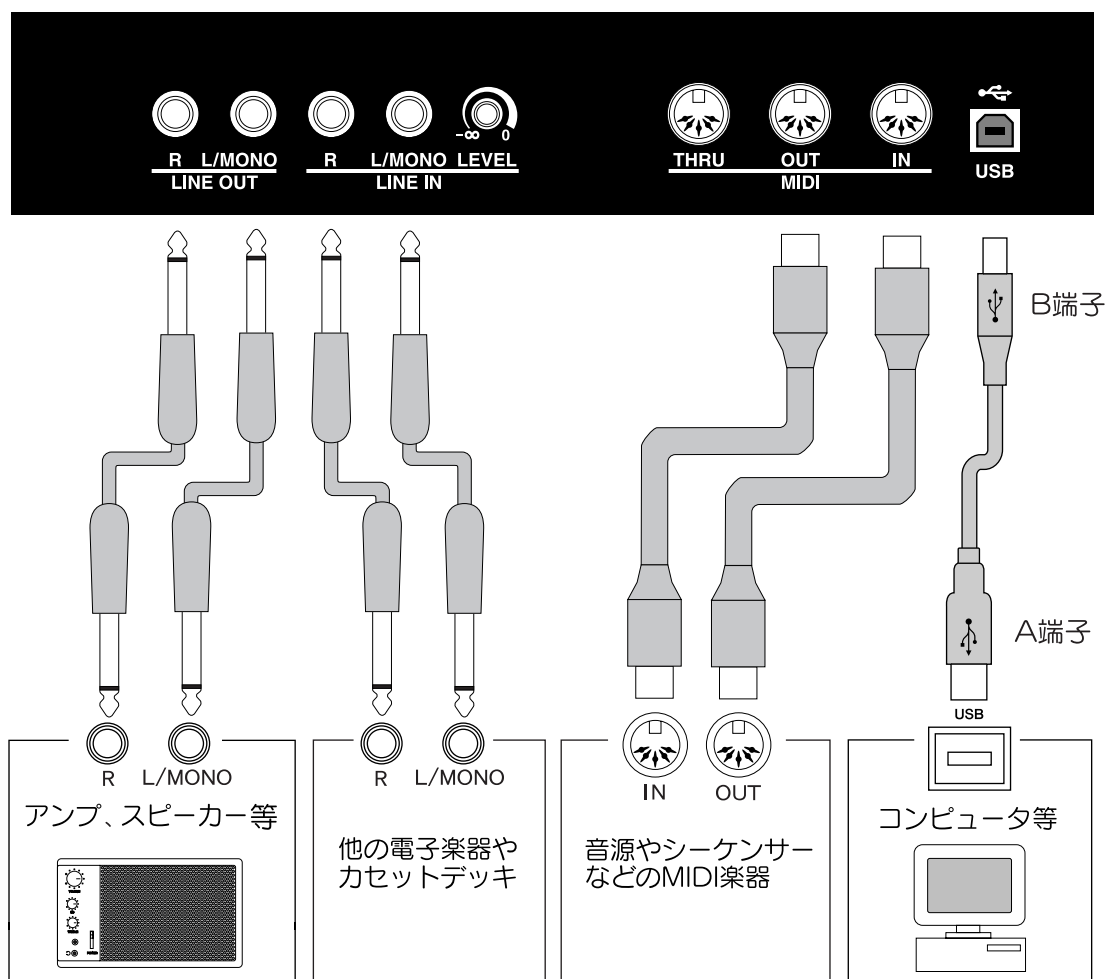
DEMO ボタンと LESSON ボタンを同時に押します。



通常の状態に戻ります。

8. 付 録

◇ 他の機器との接続



- ⚠ 注意**
- ・他の機器と接続する時はPW9/PW7の電源を切ってから行って下さい。電源が入っている時に行くとノイズ音が発生し、デジタルアンプの保護回路が働きPW9/PW7の音が出なくなることがあります。出なくなった場合はもう一度電源を入れ直して下さい。
 - ・PW9/PW7のラインイン（LINE IN）とラインアウト（LINE OUT）を直接ケーブルで接続しないで下さい。発振音が発生し、故障の原因になります。

①LINE OUT（ライン出力端子）＜Phoneジャック＞

PW9/PW7の音を他の外部機器（アンプ、ステレオ）などで聴いたり、カセットデッキ等に録音する場合に使用する出力端子です。出力レベルは、本体のボリュームで調節できます。Rは右側、L/MONOは左側の出力を示しています。なお、モノラル信号は、L/MONOのみにプラグを接続したときに出力されます。

②LINE IN（ライン入力端子）＜Phoneジャック＞

他の電子楽器やカセットデッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、PW9/PW7の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。Rは右側、Lは左側の入力を示しています。接続した機器がモノラルの場合はL/MONOにプラグを接続して下さい。音量調節はラインイン端子の右側にあるLEVELつまみを回すか、接続した機器で調節して下さい。

③MIDI（ミディ）

MIDI規格に対応している楽器と接続する端子です。

④USB端子

市販のUSBケーブルでコンピュータと接続して、MIDIデータをやりとりすることができます。

・USB端子にはA端子とB端子があり、コンピュータ側はA端子、デジタルピアノ側はB端子でそれぞれ接続します。

USBドライバーについて

コンピュータとデジタルピアノをUSB接続してデータをやりとりするためには、デジタルピアノを正しく動作させるためのソフトウェア（USBドライバー）がコンピュータに組み込まれている必要があります。お使いのコンピュータのOSによって使用するUSBドライバーが異なりますので、下記の説明をよく読んでお使いください。

Windows XP/Me をお使いの方

Windows に搭載されている標準 USB ドライバーを使用しますので、新たに USB ドライバーをインストールする必要はありません。

Windows 2000/98SE をお使いの方

指定の専用USBドライバーをコンピュータに追加する必要があります。下記のカワイホームページより専用USBドライバーをダウンロードしコンピュータにインストールしてください。

http://www.kawai.co.jp/download_demo/driver/

Macintosh をお使いの方

Mac用のUSBドライバーはありません。市販のUSB対応MIDIインターフェースを介して、PW9/PW7とMIDI接続してください。

USBに関するご注意

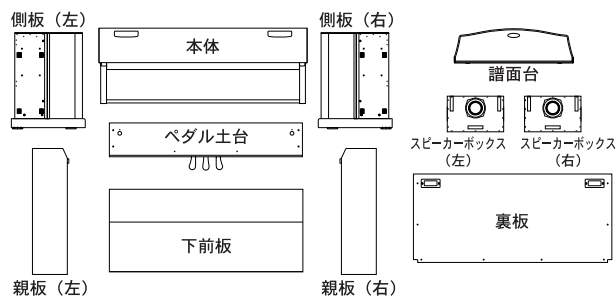
- ・MIDIとUSBが同時に接続された場合、USBが優先されます。
- ・デジタルピアノとコンピュータをUSBケーブルで接続する場合は、まずUSBケーブルを接続してからデジタルピアノの電源を入れてください。
- ・デジタルピアノとコンピュータをUSB接続した場合、通信を開始するまでしばらく時間がかかることがあります。
- ・デジタルピアノとコンピュータをハブ経由で接続し動作が不安定な場合は、コンピュータのUSBポートに直接接続してください。
- ・下記の動作中、デジタルピアノの電源オン/オフ、USBケーブルの抜き差しを行うと、コンピュータやデジタルピアノの動作が不安定になる場合があります。
 - * ドライバーのインストール中
 - * コンピュータの起動中
 - * MIDIアプリケーションが動作中
 - * コンピュータと通信中
 - * 省電力モードで待機中

※お使いのコンピュータの設定によっては、USBが正常に動作しない場合があります。ご使用になるコンピュータの取扱説明書をよくお読みの上、適切な設定を行ってください。

◇ PW9 スタンド組立図

この度は、カワイ電子ピアノをお買い上げいただき、ありがとうございます。
この説明書を通りお読みになり、パーツがすべて、そろっていることを確認してから床や本体、スタンドを傷つけないように注意して組み立てて下さい。
(解体する時は、組み立てと逆の手順で行って下さい。)

■ パーツ (同梱品) ※組み立てには (+) ドライバーを使用して下さい。



■ 組立ネジ

(先の平らなネジ)

- a. M6×40 (8本)
b. M6×25 (10本)
c. M4×20 (10本)

(先のとがったネジ)

- d. φ4×20 (4本)
e. φ4×12 (1本)

(その他)

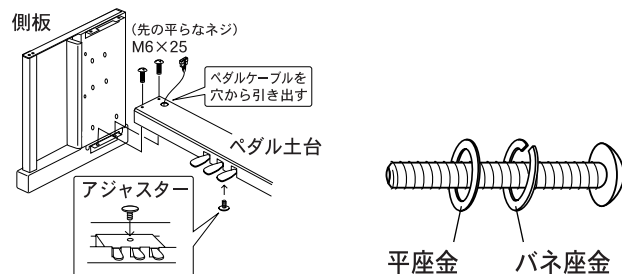


■ 組立順序

① ペダル土台を仮止めします。

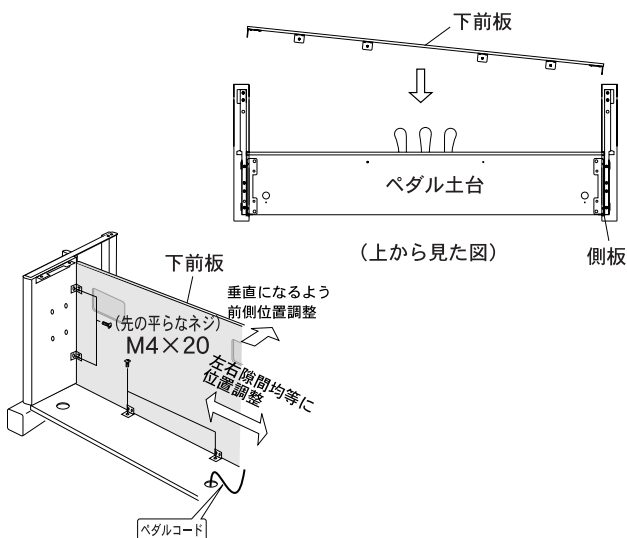
- ペダル土台の裏側にアジャスター(高さ調節ネジ)を1cmくらいはめこみます。
- ペダル土台の裏側に結ばれているペダルコードをほどいて、背面から見て右側の穴から引き出しておきます。
- 側板(左右)とペダル土台を、先の平らなネジ(b)4本(M6×25)で*仮止めします。このときバネ座金(f)と平座金(g)をあらかじめネジに通しておきます。

*仮止め=ネジを最後まで締めないで、少し緩ませた状態のこと。



② 下前板を固定します。

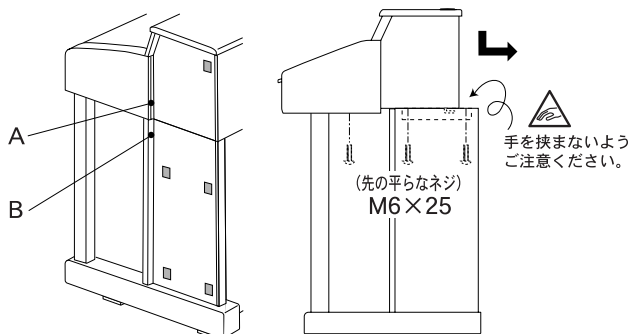
- スタンドの前方から、下前板を少し斜めにしたが、側板の間に、ペダル土台の上に乗せます。このとき、側板の溝に下前板が入るようにします。
- ①で仮止めしておいたペダル土台のネジをしっかりと締めます。
- 先の平らなネジ(c)6本(M4×20)で下前板の金具を固定します。



ここがポイント！
側板とペダル土台、下前板をしっかりと密着させて下さい。

③ 本体を乗せます。

- スタンドのやや前方(本体の後ろ側にスタンドの金具の穴が見える位置)に本体を乗せます。
- 本体が傾いて落ちないように支えながら、本体を後ろ側へスライドさせ、本体のフックをスタンドの金具に引っ掛けます。
- 先の平らなネジ(b)6本(M6×25)で本体を固定します。



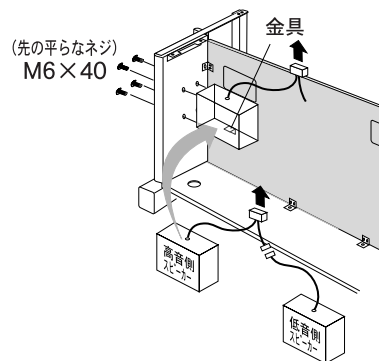
ここがポイント！

- AとBの面がまっすぐにつながるよう、前後位置を調整して下さい。
- ねじがまっすぐ入る位置で6本のネジを締めて下さい。
- 本体を乗せた状態で、側板が垂直になるよう調整してネジ止めして下さい。

注意 ・必ず2人以上で作業して下さい。
・本体を乗せる時に、手をはさまないように注意して下さい。
・必ず本体とスタンドをネジ止めて下さい。ネジ止めしないで使用すると、本体がスタンドから落下する恐れがあり大変危険です。

④ スピーカーボックスを固定します。

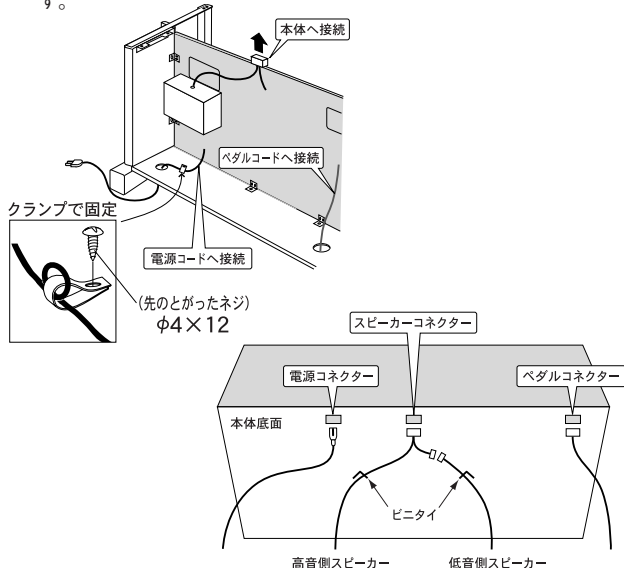
- コードが出ている方を上に、ネジ穴のある面を側板の方に向けて、下前板に取り付けてある金具にスピーカーを乗せます。
- スピーカーボックスを支えながら、側板(左右)の外側から先の平らなネジ(a)8本(M6×40)で固定します。



注意 ・スピーカーボックスには左右の区別があります。
・ネジは無理に押し込まないで、まっすぐ入る位置で止めて下さい。

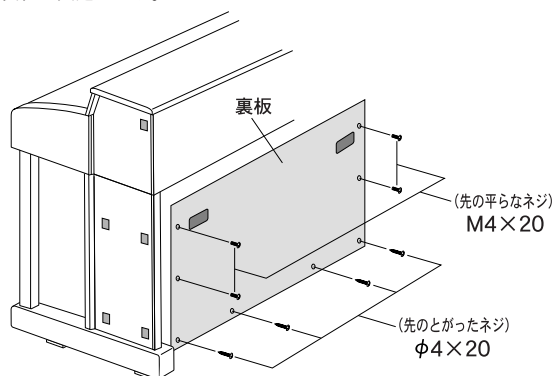
⑤接続コードを固定します。

- (1) ペダルコードのプラグを、本体に差し込みます。このとき、本体を背面からみて、プラグの突起部が手前になるように差し込みます。
- (2) 電源コードを、ペダル土台の背面からみて左側の穴に通し、本体に差し込みます。このときコードクランプ(h)にコードを巻きつけて、先のとがったネジ(e)1本($\phi 4 \times 12$)で、ペダル土台へ固定します。
- (3) 左右のスピーカーコードを接続し、もうひとつの端子を本体へ差し込みます。このときスピーカーコードは本体の下面にあるビニタイで束ねます。



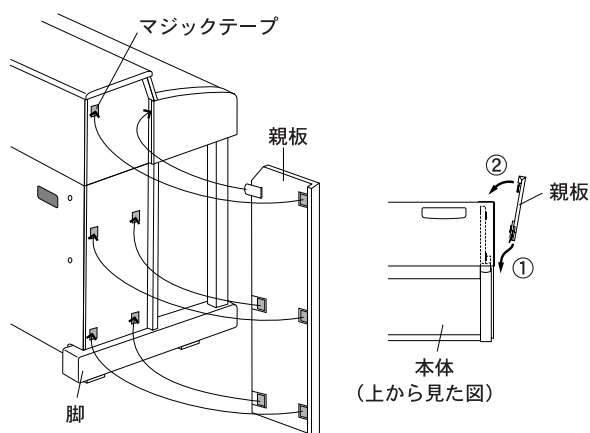
⑥裏板を固定します。

- (1) 先の平らなネジ(c)4本(M4 $\times$ 20)と先のとがったネジ(d)4本($\phi 4 \times 20$)で裏板を固定します。



⑦親板を固定します。

- (1) 親板(左右)の下面の先端を側板の脚の上に乗せ、親板の金具を本体の溝に差し込むながら、マジックテープを貼り合わせるように親板を取り付けます。
このとき親板の下面が側板の脚から落ちないように支えながら取り付けます。
- (2) 親板を取り付けたら、マジックテープの部分をしっかり押し付けます。

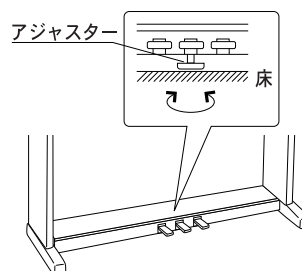


ここがポイント！

- ・親板の前面に隙が出来ないように、前方へ押しながら、マジックテープを貼り合せて下さい。

⑧アジャスターを調整します。

- (1) ペダル土台の裏のアジャスター(i)を、床にぴったりつくまで回し、スタンドの組立は完成です。



⚠ 注意

- ・アジャスターが浮いた状態で使用すると、ペダル土台を破損する恐れがあります。アジャスターは必ず床にぴったりつけて下さい。

⑨ネジを確認します。

- (1) 最後にネジがしっかり締まっているかももう一度確認します。

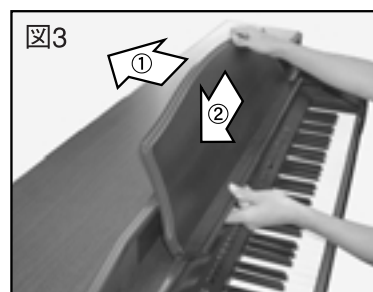
⚠ 注意

- ・移動の際は、前もって親板を取り外して下さい。
- ・移動の際は、引きずらないようにして下さい。

■譜面台の取付

- (1) 譜面台を中央より5cmほど右側に置き、譜面台の上部を①の方向に軽く押し付けます。
- (2) (1)の状態のまま、左へゆっくり滑らせると中央で譜面台が固定されます。

※ 取外しの際は、譜面台を少し持ち上げて、右側へ滑らせます。

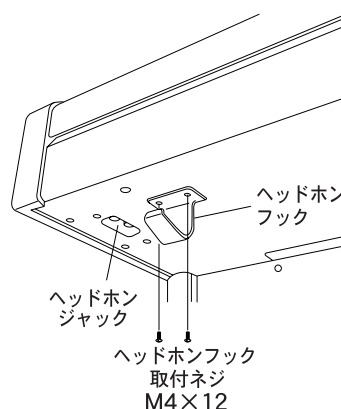


⚠ 注意

- ・取付時に本体や譜面台に傷がつかないようにご注意ください。

■ヘッドホンフックの取付

- (1) ヘッドホンフックと同封されている先の平らなネジ2本(M4 $\times$ 12)で、ヘッドホン端子の横にあるネジ穴に取り付けます。
※ ヘッドホンフックが不要な方は、取り付ける必要はありませんので、取扱説明書等と一緒に保管して下さい。

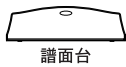
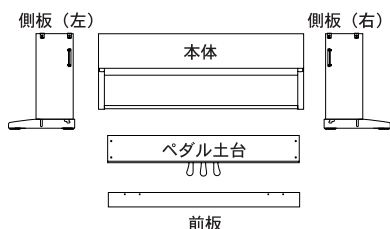


◇ PW7 スタンド組立図

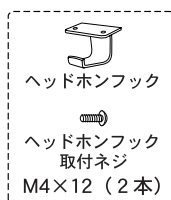
この度は、カワイ電子ピアノをお買い上げいただき、ありがとうございます。
この説明書を一通りお読みになり、パーツがすべて、そろっていることを確認してから床や本体、スタンドを傷つけないように注意して組み立てて下さい。
(解体する時は、組み立てと逆の手順で行って下さい。)

■ パーツ (同梱品) ※組み立てには (+) ドライバーを使用して下さい。

■ 組立ネジ



裏板



電源コード

(先の平らなネジ)

a. M6×25 (8本)

b. M4×12 (8本)

(その他)

(先のとがったネジ)

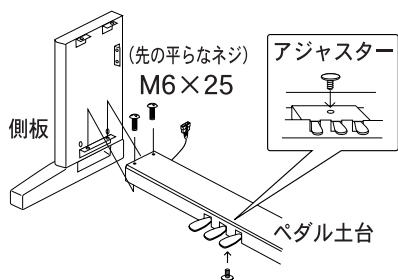
c. φ4×20 (4本)

d. アジャスター (1ヶ)

■ 組立順序

① ペダル土台を固定します。

- (1) ペダル土台の裏側からアジャスター(d) (高さ調節ネジ) を1cmくらいはめこみます。
- (2) ペダル土台の裏側に結ばれている接続コードをほどいて引き出しておきます。
- (3) 側板(左右) とペダル土台を先の平らなネジ(a) 4本(M6×25) で固定します。

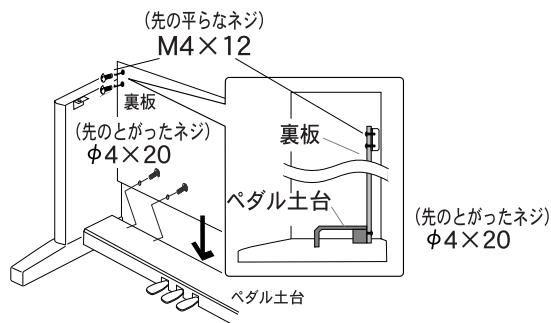


ここがポイント!

側板とペダル土台をしっかりと密着させて下さい。

② 裏板を固定します。

- (1) 側板(左右) の間に裏板を差し込みます。
- (2) 先の平らなネジ(b) 4本(M4×12) で側板上部の金具に固定します。
- (3) 先のとがったネジ(c) 4本(φ4×20) でペダル土台に固定します。

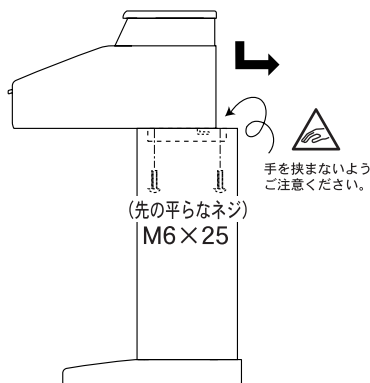


ここがポイント!

裏板と側板をしっかりと密着させて下さい。

③ 本体を乗せます。

- (1) スタンドのやや前方(本体の後ろ側にスタンドの金具の穴が見える位置) に本体を乗せます。
- (2) 本体が傾いて落ちないように支えながら、本体を後ろ側へスライドさせ、本体のフックをスタンドの金具に引っ掛けます。
- (3) 先の平らなネジ(a) 4本(M6×25) で本体を固定します。



ここがポイント!

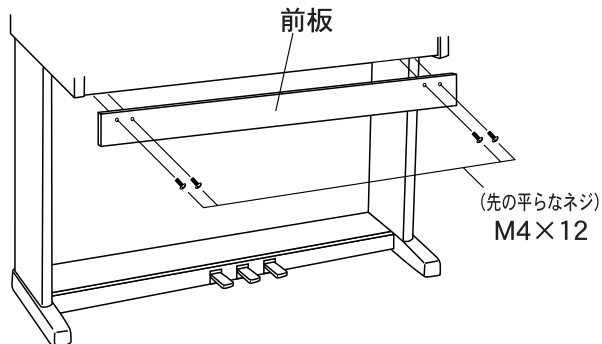
- ・ネジがまっすぐ入る位置で4本のネジを締めてください。
- ・側板からの本体の張り出し部分が、左右で同じくらいになるように本体の位置を調整して下さい。

⚠ 注意

- ・必ず2人以上で作業して下さい。
- ・本体を乗せる時に、手をはさまないように注意して下さい。
- ・必ず本体とスタンドをネジ止めて下さい。ネジ止めしないで使用すると、本体がスタンドから落下する恐れがあり、大変危険です。

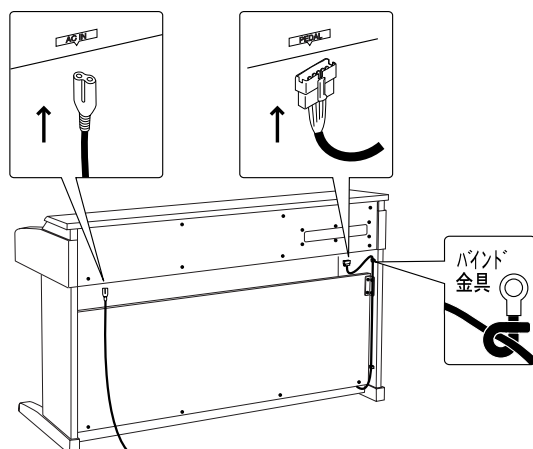
④ 前板を固定します。

- (1) 先の平らなネジ(b) 4本(M4×12) で、本体下面の金具に前板を取り付けます。



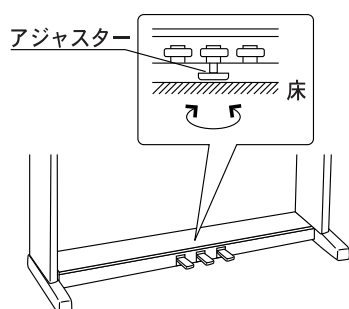
⑤接続コードを固定します。

- (1) ペダルコードのプラグを、本体に差し込みます。このとき本体を背面からみて、プラグの突起部が手前になるように差し込みます。
- (2) ペダルコードを側板のバインド金具で固定します。
- (3) 電源コードのプラグを本体に差し込みます。



⑥アジャスターを調整します。

- (1) ペダル土台の裏のアジャスター(d)を、床にぴったりつくまで回し、スタンドの組立は完成です。



⚠ 注意

・アジャスターが浮いた状態で使用すると、ペダル土台を破損する恐れがあります。アジャスターは必ず床にぴったりつけて下さい。

⑦ネジを確認します。

- (1) 最後にネジがしっかり締まっているかもう一度確認します。

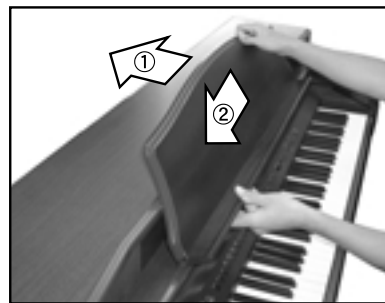
⚠ 注意

・移動の際は引きずらないようにして下さい。

■譜面台の取付

- (1) 譜面台を中央より5cmほど右側に置き、譜面台の上部を①の方向に軽く押し付けて下さい。
- (2) ①の状態のまま、左へゆっくり滑らせると中央で譜面台が固定されます。

※ 取外しの際は、譜面台を少し持ち上げて、右側へ滑らせて下さい。



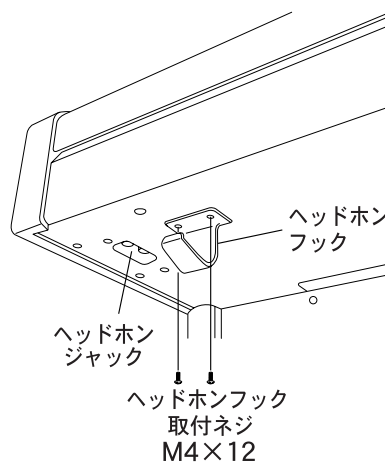
⚠ 注意

・取付時に本体や譜面台に傷がつかないようにご注意ください。

■ヘッドホンフックの取付

- (1) ヘッドホンフックと同封されている先の平らなネジ2本(M4×12)で、ヘッドホン端子の横にあるネジ穴に取り付けます。

※ ヘッドホンフックが不要な方は、取り付ける必要はありませんので、取扱説明書等と一緒に保管して下さい。



◇ 主な仕様

	PW9	PW7
■ 鍵盤	88 鍵 AWA グランドプロ木製鍵盤 (AWA : アコースティック ウェイティッド アクション)	
■ 同時発音数	最大 96 音 (音色により異なる)	
■ 音 色	コンサートグランド ¹ —スタジ ² オグランド ¹ —メローグランド ¹ —ブ ³ ライト ⁴ ピアノ—コンサートグランド ² —スタジ ² オグランド ² —メローグランド ² —ロック ⁵ ピアノ—エレクトリック ⁶ ピアノ—エレクトリック ⁶ ピアノ—エレクトリック ⁶ ピアノ—60's ⁷ エレクトリック ⁶ ピアノ—ジャズ ⁸ オルガン ⁹ —ジャズ ⁸ オルガン ² —ジャズ ⁸ オルガン ³ —ジャズ ⁸ オルガン ⁴ —チャーチオルガン ¹ —チャーチオルガン ² —チャーチオルガン ³ —チャーチオルガン ⁴ —ハープ ¹⁰ シコード ¹¹ —オクターブ ¹² ハープ ¹⁰ シコード ¹¹ —ヒップ ¹³ ラフオン ¹⁴ ストリング ¹⁵ アンサンブル ¹⁶ —スローストリング ¹⁷ —スーパーストリング ¹⁸ —スークワイア ¹⁹ —ジャズ ²⁰ ホーカル ²¹ —スローワイア ²² —ファンタジ ²³ —1—ファンタジ ²³ —2—ファンタジ ²³ —3—ウット ²⁴ —スーパ ²⁵ —ス&シンバル ²⁶ —エレクトリック ²⁷ —スーパ ²⁸ —ラート ²⁹ キター ³⁰ —ヒップ ³¹ ナイロン ³² キター	コンサートグランド ¹ —メローグランド ¹ —ブ ³ ライト ⁴ ピアノ—コンサートグランド ² —メローグランド ² —ロック ⁵ ピアノ—エレクトリック ⁶ ピアノ—1—エレクトリック ⁶ ピアノ—2—エレクトリック ⁶ ピアノ—3—ジャズ ⁸ オルガン ⁹ —1—ジャズ ⁸ オルガン ² —ジャズ ⁸ オルガン ³ —チャーチオルガン ¹ —チャーチオルガン ² —チャーチオルガン ³ —ハープ ¹⁰ シコード ¹¹ —オクターブ ¹² ハープ ¹⁰ シコード ¹¹ —ヒップ ¹³ ラフオン ¹⁴ ストリング ¹⁵ アンサンブル ¹⁶ —スローストリング ¹⁷ —スーパーストリング ¹⁸ —スークワイア ¹⁹ —ジャズ ²⁰ ホーカル ²¹ —スローワイア ²² —ファンタジ ²³ —1—ファンタジ ²³ —2—ファンタジ ²³ —3—ウット ²⁴ —スーパ ²⁵ —ス&シンバル ²⁶ —エレクトリック ²⁷ —スーパ ²⁸ —ラート ²⁹ キター ³⁰ —ヒップ ³¹ ナイロン ³² キター
■ ディスプレイ	16 文字×2 行 液晶ディスプレイ (LCD)	
■ 効 果	リバーブ (ルーム 1, 2、ステージ、ホール 1, 2) コーラス、ディレイ 1, 2, 3、トレモロ、ロータリー 1, 2	
■ レッスン	全 302 曲 (練習曲 : 258 曲、指の体操 : 44 曲)	
■ メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、3/8、6/8、7/8、9/8、12/8 拍子	
■ レコーダー	2 パート×5 ソング、総記憶音数 約 15,000 音	
■ デモ曲	全 38 曲	全 37 曲
■ コンサートマジック	全 88 曲	
■ パーチャルテクニシャン	ポインティング (6 種)、ダンパーエフェクト、ストリングレゾナンス、タッチカーブ (6 種、ユーザー 2 種)、音律 (9 種類、ユーザー)、ストレッチチューニング (2 種)、ピアノアンビエンス	ポインティング (6 種)、ダンパーエフェクト、ストリングレゾナンス、タッチカーブ (6 種、ユーザー 2 種)、音律 (9 種類、ユーザー)、ストレッチチューニング (2 種)
■ トランスポーズ	-12 ~ +12 半音	
■ その他の機能	デュアル、スプリット、バランススライダー、プリリアンス、ローアークターブシフト、ローアークペダル、レイヤーアークターブシフト、レイヤーダイナミクス、ダンパーホールド、チューニング、MIDI 機能設定、ユーザーメモリー、ファクトリーリセット	
■ ペダル	ダンパー (8 段階)、ソフト、ソステヌート	
■ キーカバー	スライド式	
■ 外部端子	ヘッドホン (2)、MIDI (IN、OUT、THRU)、LINE OUT (L/MONO、R)、LINE IN (L/MONO、R)、LINE IN ボリューム、USB	
■ 出 力	デジタルアンプ : 60W × 2 + 10W × 2	デジタルアンプ : 60W × 2
■ スピーカー	13cm × 2 (スピーカーボックス入り)、1.9cm (ドームツイーター) × 2、(5 × 9cm) × 2 (トップスピーカー)	13cm × 2 (エンクロージャー入り) 5cm × 2
■ 定格電圧	AC100V、50/60Hz	
■ 消費電力	80W	70W
■ 仕上げ	ローズウッド調 / チェリー調	
■ 寸 法	(W × D × H) 141 × 52 × 94 (cm) セットアップ時、但し譜面台含まず	(W × D × H) 139 × 52 × 94 (cm) セットアップ時、但し譜面台含まず
■ 重 量	87.0Kg	68.0Kg
■ 同梱品	本体 / スタンド / 譜面台 / 椅子 / 電源コード / 取扱説明書 (本書) / ゆびの体操ドレミ / ゆびの体操ドレミ楽譜集 / ヘッドホン / ヘッドホンフック / スタンド組立図 / 保証書 / ご愛用者カード / アフターサービスと音楽教室のご案内 / 楽譜集のご案内 / 「コンサートマジック曲集」注文振込用紙 /	

◇ KAWAI [Model PW9/PW7] MIDI インプリメンテーションチャート

ファンクション		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 ～ 16	1 1 ～ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード1 モード1, 3** ×	** 電源ON時オムニオン。 MIDIチャンネル設定操作に よりオムニオフ。
ノート ナンバー	音域	21 - 108 * *****	0 - 127 0 - 127	* 9-120 トランスポーズを 含む。
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH v=1-127 × 9nH v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	0,32	○	○	バンクセレクト ボリューム パンポット エクスプレッション ダンパー ソステヌート ソフトペダル
	7	×	○	
	10	×	○	
	11	×	○	
	64	○ (右ペダル)	○	
	66	○ (中ペダル)	○	
	67	○ (左ペダル)	○	
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○ (0 - 127) *****	○ (0 - 127)	
エクスクルーシブ		○	○	送信選択可能
コモン	ソングポジション	×	×	
	ソングセレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアル タイム	クロック コマンド	×	×	
その他	ローカルON/OFF	×	○	
	オールノートオフ	×	○(123～127)	
	アクティブセンシング	○	○	
	リセット	×	×	
備 考				

モード 1 : オムニオン、ポリ モード 2 : オムニオン、モノ
モード 3 : オムニオフ、ポリ モード 4 : オムニオフ、モノ

○: 有り
×: 無し

KAWAI

株式会社 河合楽器製作所

電 子 楽 器 事 業 本 部

〒430-8665 浜松市寺島町200番地

TEL.053-457-1277 / FAX053-457-1279

<http://www.kawai.co.jp/>